

令和4年度
**「ヤングケアラー実態調査」
報告書**

令和5年3月31日

大仙市

目次

第1 はじめに	p.3
1 調査概要	p. 4
2 回答数及び回答率	p. 5
3 集計・分析上の注意事項	p. 5
第2 学生の生活実態に関するアンケート調査	p.7
I 基本情報について	p. 9
II 普段の生活について	p. 17
III お世話の状況について	p. 39
IV ヤングケアラーについて	p. 78
V 追加分析（クロス集計）	p. 84
第3 学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査	p.101
I 基本情報について	p. 102
II 学校における体制について	p. 103
III ヤングケアラーについて	p. 116
第4 自由記述	p.135
I 小学生	p. 136
II 中学生	p. 138
III 高校生	p. 140
IV 学校	p. 140
第5 調査結果のまとめ及び考察	p.143
I 調査結果のまとめ	p. 144
II 今後ヤングケアラーの支援を行うにあたって	p. 146
第6 資料	p.151
I 調査票	p. 152
1 小学生	p. 152
2 中学生	p. 161
3 高校生	p. 170
4 小学校・中学校	p. 179
5 高等学校	p. 182
II 保護者の方への依頼文	p. 188
第7 参照資料	p.189

第 **1**

はじめに

第1 はじめに

1 調査概要

(1) 目的

本市におけるヤングケアラーの存在、困りごとや支援ニーズ等を含めた実態を把握するとともに、今後の施策立案、支援体制強化のための基礎資料とすることを目的とする。

(2) 期間

令和4年8月29日（月）～9月12日（月）

(3) 対象

市内の学校に在学している小学4～高校3年生及びその学校

区分	学年	対象者数
小学校 20 校	小学 4～6 年生	合計 1,585 人
中学校 10 校	中学 1～3 年生	合計 1,730 人
高等学校（分校、私立含む） 6 校	高校 1～3 年生	合計 1,638 人

(4) 種類

① 個別調査(学生¹の生活実態に関するアンケート調査)

児童生徒個人々人に対して、普段の学校生活や行っているお世話の内容、ヤングケアラーの認知度等を調査する。

② 学校調査(学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査)

市内の各学校に対して、ヤングケアラーに対する支援の実情、今後必要と思われる支援等を調査する。

(5) 設問数

① 個別調査：全 28 問

② 学校調査：（小・中学校）全 11 問 （高等学校）全 19 問

(6) 回答方法

原則、オンライン回答とする。（紙の調査票での回答も可）

(7) 集計方法

個別調査は回答者を特定しない無記名回答とし、学校調査は学校名のみ回答し、集計については統計的に処理する。

2 回答数及び回答率

(1) 個別調査

区分	対象数（人）	有効回答数（人）	回答率（％）
小学生	1,585	998	63.0
中学生	1,730	1,331	76.9
高校生	1,638	665	40.6
合計	4,953	2,994	60.4

(2) 学校調査

区分	対象数（校）	回答数（校）	回答率（％）
小学校	20	20	100.0
中学校	10	10	100.0
高等学校	6	6	100.0
合計	36	36	100.0

3 集計・分析上の注意事項

- (1) 個別調査における「調査への協力の可否」については、協力しないと回答した者を含めた回答者数を「n」とし、その他の設問においては、協力すると回答した者の回答内での割合を求めるため、協力しないと回答した者を除いた回答者数を「n」として表記している。
- (2) 設問の構成比（％）については、小数点第2位以下を四捨五入して表記している。
- (3) 単一回答の設問における構成比（％）は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも100.0％になっていない場合がある。
- (4) 複数回答の設問における構成比（％）は、集計対象数に対する回答数の比率を示すものであり、その合計は100.0％を超えることがある。
- (5) 本調査では、国の調査結果との比較を行っているが、高校生については、「全日制高校」の結果を利用している。
- (6) 国及び本市の調査結果を比較する場合に「比較」欄に用いる矢印は、次の内容を表す。
「↑」：本市の数値が、国の数値より高い。 「↓」：本市の数値が、国の数値より低い。

第
2

学生的生活実態に関するアンケート調査

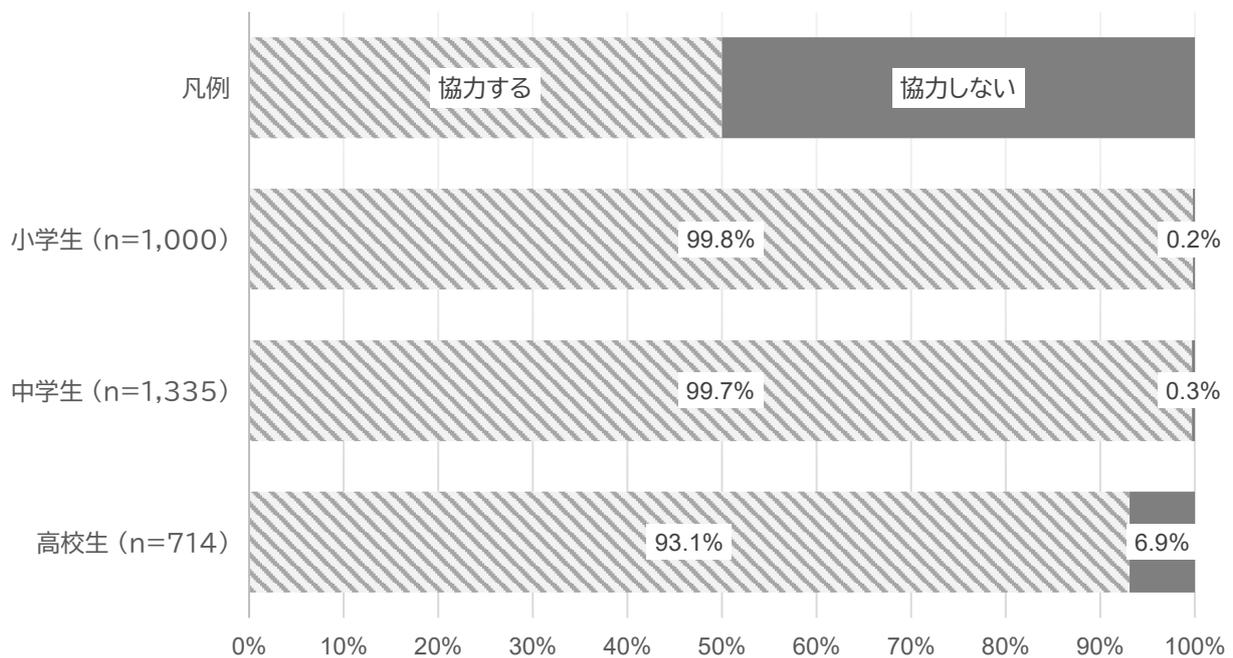
第2 学生の生活実態に関するアンケート調査

問 調査への協力の可否

【図表1】

	協力する	協力しない	計
上段：人 下段：%			
小学生	998 99.8	2 0.2	1,000 100.0
中学生	1,331 99.7	4 0.3	1,335 100.0
高校生	665 93.1	49 6.9	714 100.0

【図表2】



- 小学生では、「協力する」が998人(99.8%)、「協力しない」が2人(0.2%)となっている。
- 中学生では、「協力する」が1,331人(99.7%)、「協力しない」が4人(0.3%)となっている。
- 高校生では、「協力する」が665人(93.1%)、「協力しない」が49人(6.9%)となっている。
- 全ての学校区分において、90%以上の子どもが本調査に「協力する」と回答した。
- 学年が上がるにつれて、「協力する」の割合が減少し、「協力しない」の割合が増加する傾向にある。

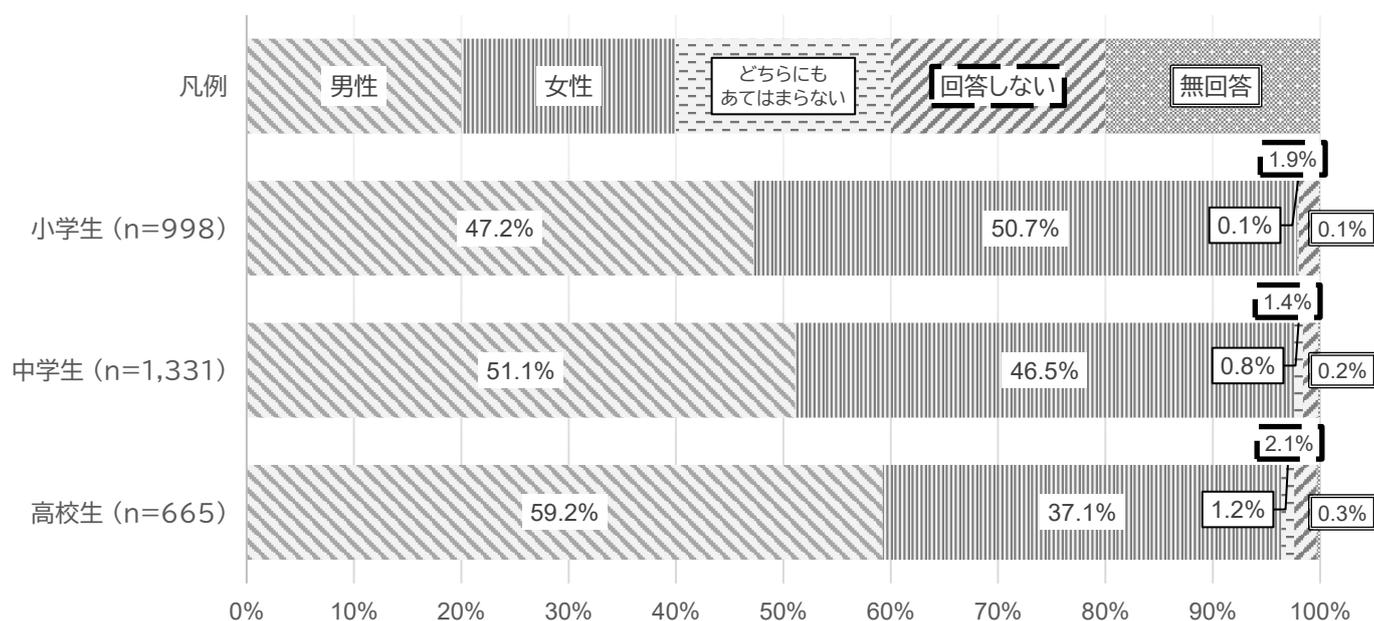
I 基本情報について

問1 性別

【図表3】

	男性	女性	どちらにも あてはまらない	回答しない	無回答	計
上段：人 下段：%						
小学生	471	506	1	19	1	998
	47.2	50.7	0.1	1.9	0.1	100.0
中学生	680	619	10	19	3	1,331
	51.1	46.5	0.8	1.4	0.2	100.0
高校生	394	247	8	14	2	665
	59.2	37.1	1.2	2.1	0.3	100.0

【図表4】



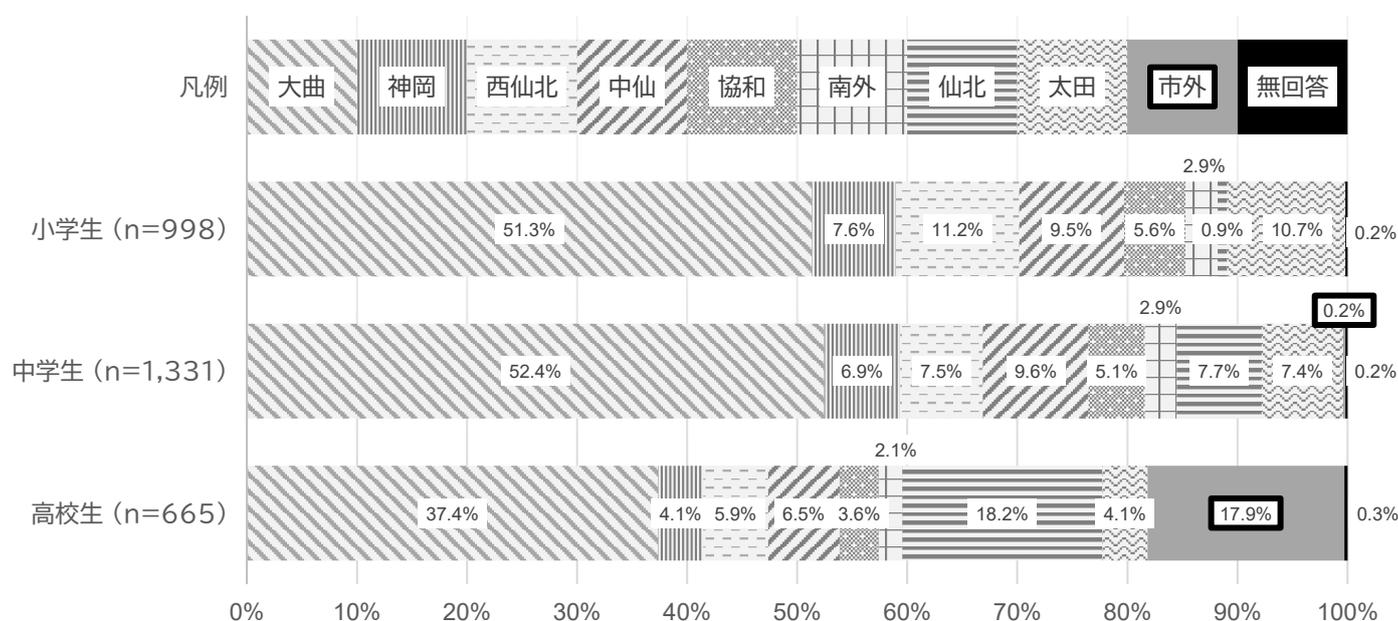
- 小学生では、「男性」が471人(47.2%)、「女性」が506人(50.7%)、「どちらにもあてはまらない」が1人(0.1%)、「回答しない」が19人(1.9%)、「無回答」が1人(0.1%)となっている。
- 中学生では、「男性」が680人(51.1%)、「女性」が619人(46.5%)、「どちらにもあてはまらない」が10人(0.8%)、「回答しない」が19人(1.4%)、「無回答」が3人(0.2%)となっている。
- 高校生では、「男性」が394人(59.2%)、「女性」が247人(37.1%)、「どちらにもあてはまらない」が8人(1.2%)、「回答しない」が14人(2.1%)、「無回答」が2人(0.3%)となっている。

問2 居住地

【図表5】

	大曲	神岡	西仙北	中仙	協和	南外	仙北	太田	市外	無回答	計
上段：人 下段：%											
小学生	512	76	112	95	56	29	9	107	0	2	998
	51.3	7.6	11.2	9.5	5.6	2.9	0.9	10.7	0.0	0.2	100.0
中学生	698	92	100	128	68	38	103	99	2	3	1,331
	52.4	6.9	7.5	9.6	5.1	2.9	7.7	7.4	0.2	0.2	100.0
高校生	249	27	39	43	24	14	121	27	119	2	665
	37.4	4.1	5.9	6.5	3.6	2.1	18.2	4.1	17.9	0.3	100.0

【図表6】



- 小学生では、「大曲」が512人(51.3%)、「神岡」が76人(7.6%)、「西仙北」が112人(11.2%)、「中仙」が95人(9.5%)、「協和」が56人(5.6%)、「南外」が29人(2.9%)、「仙北」が9人(0.9%)、「太田」が107人(10.7%)、「無回答」が2人(0.2%)となっている。
- 中学生では、「大曲」が698人(52.4%)、「神岡」が92人(6.9%)、「西仙北」が100人(7.5%)、「中仙」が128人(9.6%)、「協和」が68人(5.1%)、「南外」が38人(2.9%)、「仙北」が103人(7.7%)、「太田」が99人(7.4%)、「市外」が2人(0.2%)、「無回答」が3人(0.2%)となっている。
- 高校生では、「大曲」が249人(37.4%)、「神岡」が27人(4.1%)、「西仙北」が39人(5.9%)、「中仙」が43人(6.5%)、「協和」が24人(3.6%)、「南外」が14人(2.1%)、「仙北」が121人(18.2%)、「太田」が27人(4.1%)、「市外」が119人(17.9%)、「無回答」が2人(0.3%)となっている。

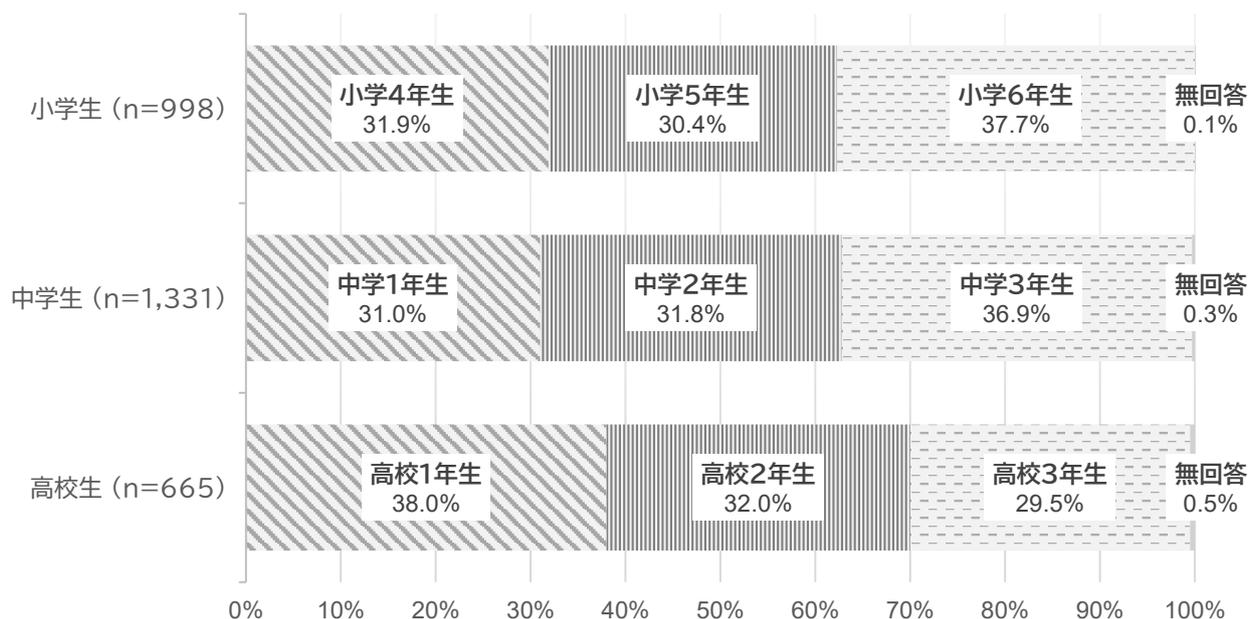
問3 学年

1 小学4年生	2 小学5年生	3 小学6年生
1 中学1年生	2 中学2年生	3 中学3年生
1 高校1年生	2 高校2年生	3 高校3年生

【図表7】

	1	2	3	無回答	計
上段：人 下段：%					
小学生	318	303	376	1	998
	31.9	30.4	37.7	0.1	100.0
中学生	413	423	491	4	1,331
	31.0	31.8	36.9	0.3	100.0
高校生	253	213	196	3	665
	38.0	32.0	29.5	0.5	100.0

【図表8】



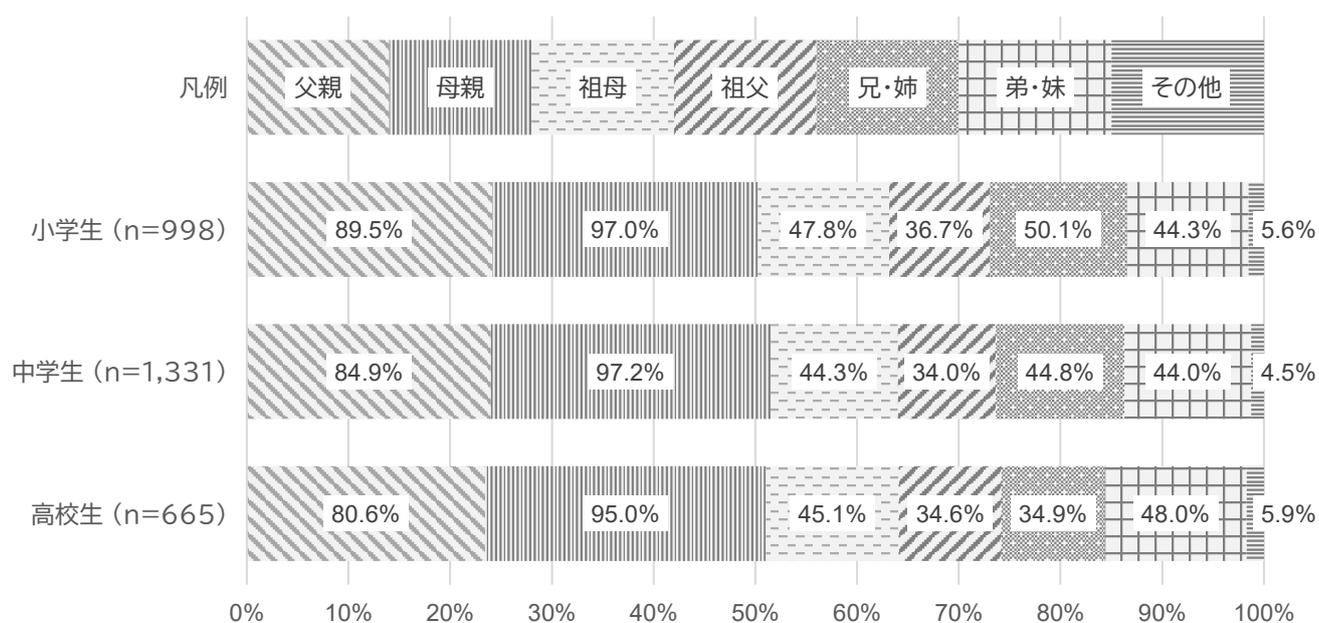
- 小学生では、「小学4年生」が318人(31.9%)、「小学5年生」が303人(30.4%)、「小学生6年生」が376人(37.7%)、「無回答」が1人(0.1%)となっている。
- 中学生では、「中学1年生」が413人(31.0%)、「中学2年生」が423人(31.8%)、「中学3年生」が491人(36.9%)、「無回答」が4人(0.3%)となっている。
- 高校生では、「高校1年生」が253人(38.0%)、「高校2年生」が213人(32.0%)、「高校3年生」が196人(29.5%)、「無回答」が3人(0.5%)となっている。

問4 家族構成（複数回答）

【図表9】

	父親	母親	祖母	祖父	兄・姉	弟・妹	その他	集計対象数
上段：人 下段：%								
小学生	893 89.5	968 97.0	477 47.8	366 36.7	500 50.1	442 44.3	56 5.6	998 —
中学生	1,130 84.9	1,294 97.2	589 44.3	452 34.0	596 44.8	586 44.0	60 4.5	1,331 —
高校生	536 80.6	632 95.0	300 45.1	230 34.6	232 34.9	319 48.0	39 5.9	665 —

【図表10】



- 小学生では、「父親」が893人（89.5%）、「母親」が968人（97.0%）、「祖母」が477人（47.8%）、「祖父」が366人（36.7%）、「兄・姉」が500人（50.1%）、「弟・妹」が442人（44.3%）、「その他」が56人（5.6%）となっている。
- 中学生では、「父親」が1,130人（84.9%）、「母親」が1,294人（97.2%）、「祖母」が589人（44.3%）、「祖父」が452人（34.0%）、「兄・姉」が596人（44.8%）、「弟・妹」が586人（44.0%）、「その他」が60人（4.5%）となっている。
- 高校生では、「父親」が536人（80.6%）、「母親」が632人（95.0%）、「祖母」が300人（45.1%）、「祖父」が230人（34.6%）、「兄・姉」が232人（34.9%）、「弟・妹」が319人（48.0%）、「その他」が39人（5.9%）となっている。

「その他」回答

・曾祖父 ・曾祖母 ・叔父 ・叔母 ・甥 ・いとこ など

- 家族構成について、各学校区分における上位4項目を国の調査結果と比較すると次のとおりとなる。

【図表 11】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
小学生	1	母親	97.4	母親	97.0
	2	父親	87.3	父親	89.5
	3	弟・妹	48.8	兄・姉	50.1
	4	兄・姉	48.2	祖母	47.8

【図表 12】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
中学生	1	母親	97.5	母親	97.2
	2	父親	85.4	父親	84.9
	3	弟・妹	50.7	兄・姉	44.8
	4	兄・姉	43.7	祖母	44.3

【図表 13】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
高校生	1	母親	95.5	母親	95.0
	2	父親	81.3	父親	80.6
	3	弟・妹	50.5	弟・妹	48.0
	4	兄・姉	36.9	祖母	45.1

- 本市では、全ての学校区分において、国の調査結果と同様に「母親」の割合が最も高く、次いで「父親」の割合が高くなっている。
- 小学生及び中学生では、「父親」に次いで、「兄・姉」、「祖母」の順で割合が高くなっている。
- 高校生では、「父親」に次いで、「弟・妹」、「祖母」の順となっている。
- 国の調査結果では、全ての学校区分において、「母親」も割合が最も高く、次いで「父親」、「弟・妹」、「兄・姉」の順となっている。
- 本市では、全ての学校区分において、「祖母」が上位4項目に含まれている点で国の調査結果と異なる。
- 「祖母」の割合について、国の調査結果では、全ての学校区分において、20%程度であるのに対し、本市では40%を超えている。
- 「祖父」の割合についても、上位4項目には含まれないが、国の調査結果では、全ての学校区分において、10%程度であるのに対し、本市では30%を超える割合となっている。
- 本市においては、祖父母と同居している子どもの割合が高く、3世代以上が同居している世帯が多いことが伺える。

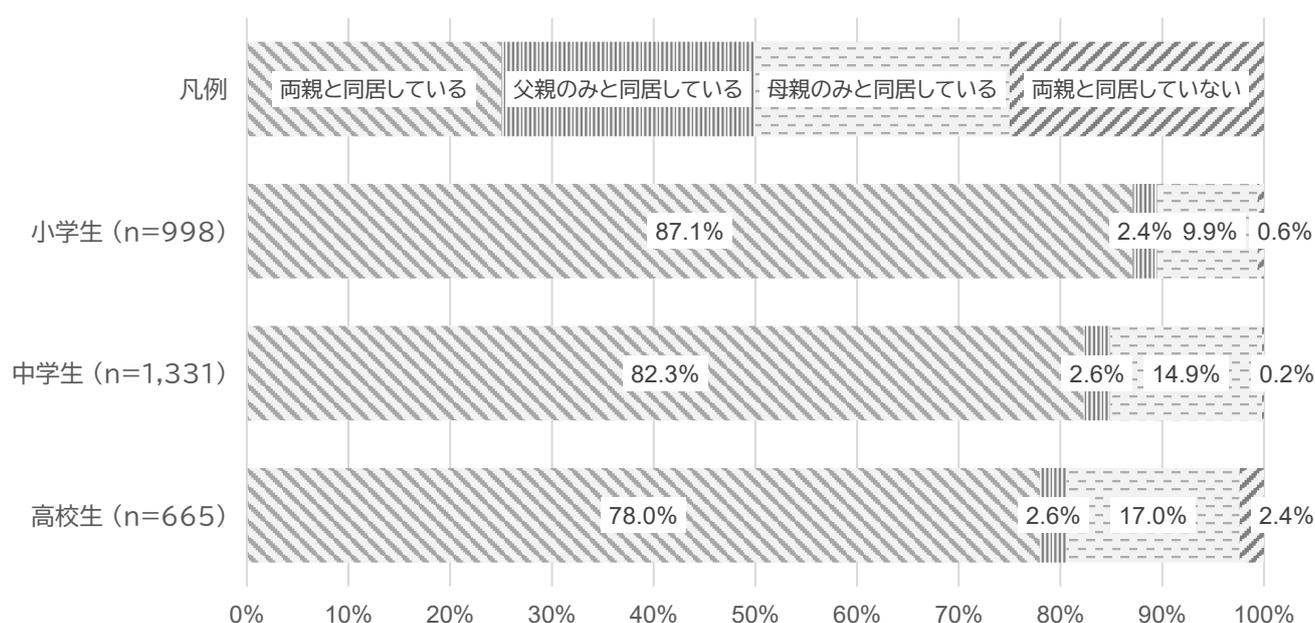
- 「父親」及び「母親」との同居の有無についてカテゴリー分けすると、次のとおりとなる。

【図表 14】

	いる 両親と同居して	父親のみと同居 している	母親のみと同居 している	いない 両親と同居して	計
上段：人 下段：%					
小学生	869 87.1	24 2.4	99 9.9	6 0.6	998 100.0
中学生	1,096 82.3	34 2.6	198 14.9	3 0.2	1,331 100.0
高校生	519 78.0	17 2.6	113 17.0	16 2.4	665 100.0

※ 本分析は「父親」及び「母親」のみに関する分類であり、その他世帯員については考慮していない。

【図表 15】



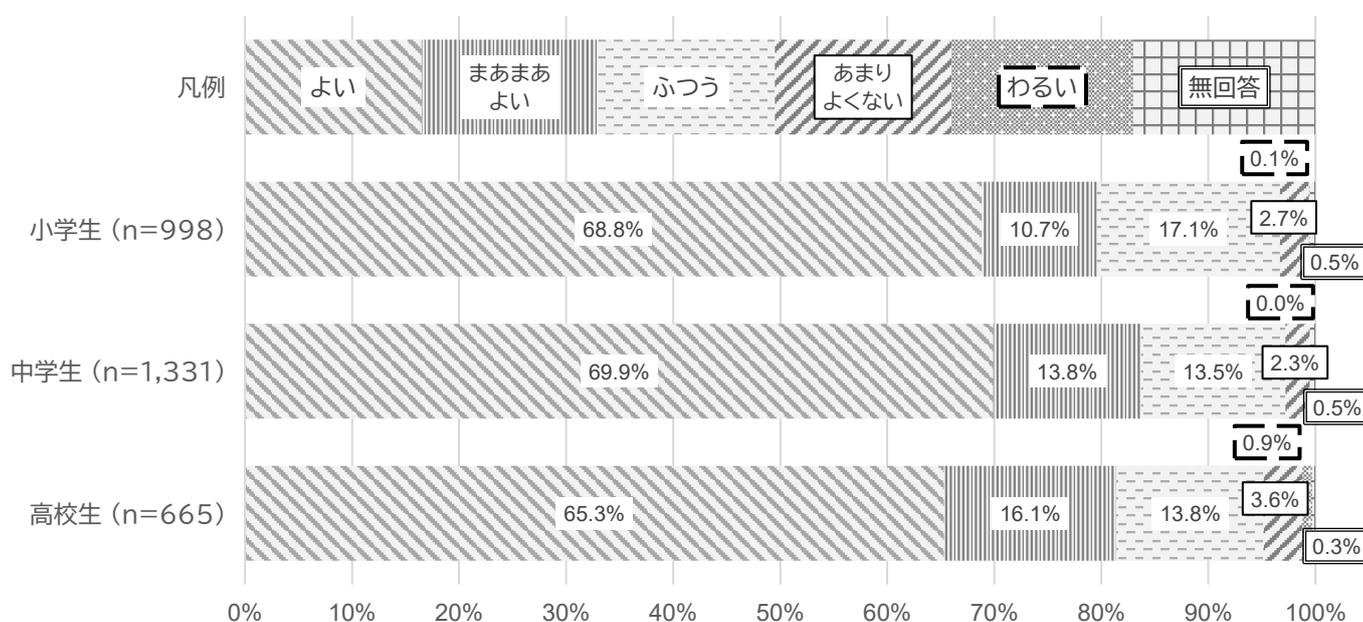
- 小学生では、「両親と同居している」が 869 人 (87.1%)、「父親のみと同居している」が 24 人 (2.4%)、「母親のみと同居している」が 99 人 (9.9%)、「両親と同居していない」が 6 人 (0.6%) となっている。
- 中学生では、「両親と同居している」が 1,096 人 (82.3%)、「父親のみと同居している」が 34 人 (2.6%)、「母親のみと同居している」が 198 人 (14.9%)、「両親と同居していない」が 3 人 (0.2%) となっている。
- 高校生では、「両親と同居している」が 519 人 (78.0%)、「父親のみと同居している」が 17 人 (2.6%)、「母親のみと同居している」が 113 人 (17.0%)、「両親と同居していない」が 16 人 (2.4%) となっている。

問5 健康状態

【図表 16】

	よい	まあまあよい	ふつう	あまりよくない	わるい	無回答	計
上段：人 下段：%							
小学生	687 68.8	107 10.7	171 17.1	27 2.7	1 0.1	5 0.5	998 100.0
中学生	930 69.9	184 13.8	180 13.5	31 2.3	0 0.0	6 0.5	1,331 100.0
高校生	434 65.3	107 16.1	92 13.8	24 3.6	6 0.9	2 0.3	665 100.0

【図表 17】



- 小学生では、「よい」が 687 人 (68.8%)、「まあまあよい」が 107 人 (10.7%)、「ふつう」が 171 人 (17.1%)、「あまりよくない」が 27 人 (2.7%)、「わるい」が 1 人 (0.1%)、「無回答」が 5 人 (0.5%) となっている。
- 中学生では、「よい」が 930 人 (69.9%)、「まあまあよい」が 184 人 (13.8%)、「ふつう」が 180 人 (13.5%)、「あまりよくない」が 31 人 (2.3%)、「無回答」が 6 人 (0.5%) となっている。
- 高校生では、「よい」が 434 人 (65.3%)、「まあまあよい」が 107 人 (16.1%)、「ふつう」が 92 人 (13.8%)、「あまりよくない」が 24 人 (3.6%)、「わるい」が 6 人 (0.9%)、「無回答」が 2 人 (0.3%) となっている。
- 全ての学校区分において、「よい」の割合が 60%以上と最も高い。
- 小学生では、「よい」に次いで、「ふつう」、「まあまあよい」となっている。

- 中学生及び高校生では、「よい」に次いで、「まあまあよい」、「ふつう」となっている。
- 健康状態について、「無回答」を除く各項目の割合を学校区分ごとに、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 18】

区分	よい			まあまあよい			ふつう		
	国	本市	比較	国	本市	比較	国	本市	比較
小学生	66.9%	68.8%	↑	15.1%	10.7%	↓	15.1%	17.1%	↑
中学生	56.7%	69.9%	↑	19.6%	13.8%	↓	19.1%	13.5%	↓
高校生	44.9%	65.3%	↑	22.4%	16.1%	↓	27.2%	13.8%	↓
区分	あまりよくない			わるい					
	国	本市	比較	国	本市	比較			
小学生	2.2%	2.7%	↑	0.2%	0.1%	↓			
中学生	3.8%	2.3%	↓	0.6%	0.0%	↓			
高校生	4.5%	3.6%	↓	0.8%	0.9%	↑			

- 国の調査結果と比較すると、本市では全ての学校区分において、「よい」の割合が高くなっている。小学生については、わずかに上回っている程度だが、中学生及び高校生については、10～20%程度上回っている。
- 「まあまあよい」の割合については、本市では、全ての学校区分において、国よりも低い。
- 「ふつう」及び「あまりよくない」の割合については、本市では、小学生で国よりも割合が高く、中学生及び高校生では低くなっている。
- 「わるい」の割合については、小学生及び中学生で国よりも割合が低く、高校生ではわずかに高くなっている。

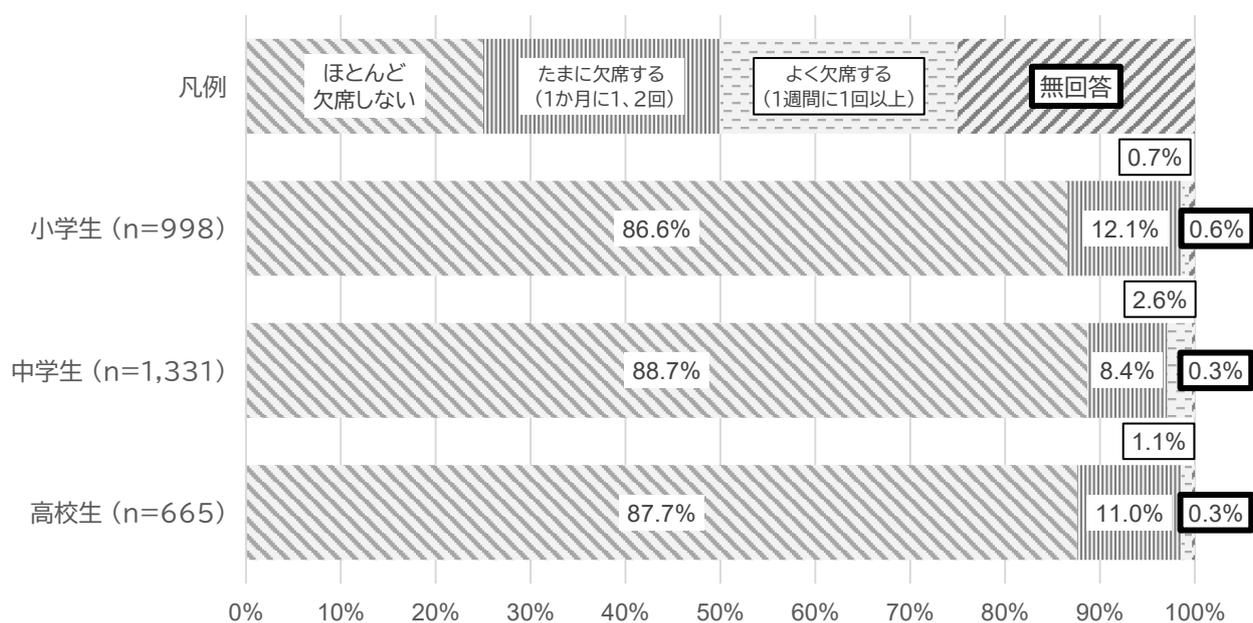
II 普段の生活について

問6 欠席状況

【図表 19】

	ほとんど欠席しない	たまに欠席する (1か月に1、2回)	よく欠席する (1週間に1回以上)	無回答	計
上段：人 下段：%					
小学生	864 86.6	121 12.1	7 0.7	6 0.6	998 100.0
中学生	1,181 88.7	112 8.4	34 2.6	4 0.3	1,331 100.0
高校生	583 87.7	73 11.0	7 1.1	2 0.3	665 100.0

【図表 20】



- 小学生では、「ほとんど欠席しない」が864人(86.6%)、「たまに欠席する(1か月に1、2回)」が121人(12.1%)、「よく欠席する(1週間に1回以上)」が7人(0.7%)、「無回答」が6人(0.6%)となっている。
- 中学生では、「ほとんど欠席しない」が1,181人(88.7%)、「たまに欠席する(1か月に1、2回)」が112人(8.4%)、「よく欠席する(1週間に1回以上)」が34人(2.6%)、「無回答」が4人(0.3%)となっている。

Ⅱ 普段の生活について

- 高校生では、「ほとんど欠席しない」が583人(87.7%)、「たまに欠席する(1か月に1、2回)」が73人(11.0%)、「よく欠席する(1週間に1回以上)」が7人(1.1%)、「無回答」が2人(0.3%)となっている。
- 本市では、全ての学校区分において、「ほとんど欠席しない」の割合が85%以上と最も高くなっている。
- 「よく欠席する(1週間に1回以上)」の割合について、国の調査結果では学年が上がるにつれて、その割合が高くなる傾向にあるが、本市では中学生で2.6%と、小学生及び高校生より若干高くなっている。
- 欠席状況について、「無回答」を除く各項目の割合を学校区分ごとに、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 21】

区分	ほとんど欠席しない			たまに欠席する			よく欠席する		
	国	本市	比較	国	本市	比較	国	本市	比較
小学生	84.8%	86.6%	↑	13.1%	12.1%	↓	1.9%	0.7%	↓
中学生	82.6%	88.7%	↑	8.0%	8.4%	↑	9.4%	2.6%	↓
高校生	74.3%	87.7%	↑	12.2%	11.0%	↓	13.4%	1.1%	↓

- 国の調査結果と比較すると、本市では全ての学校区分において、「ほとんど欠席しない」の割合が高くなっている。小学生については、国と割合に大差はないが、高校生については、10%以上大きく上回っている。
- 「たまに欠席する」については、国の調査結果と大差はないものの、中学生で若干高く、小学生及び高校生で低くなっている。
- 「よく欠席する」については、本市では全ての学校区分において、国の調査結果より低く、高校生では10%以上低くなっている。

問7 「よく欠席する（1週間に1回以上）」理由

【図表 22】

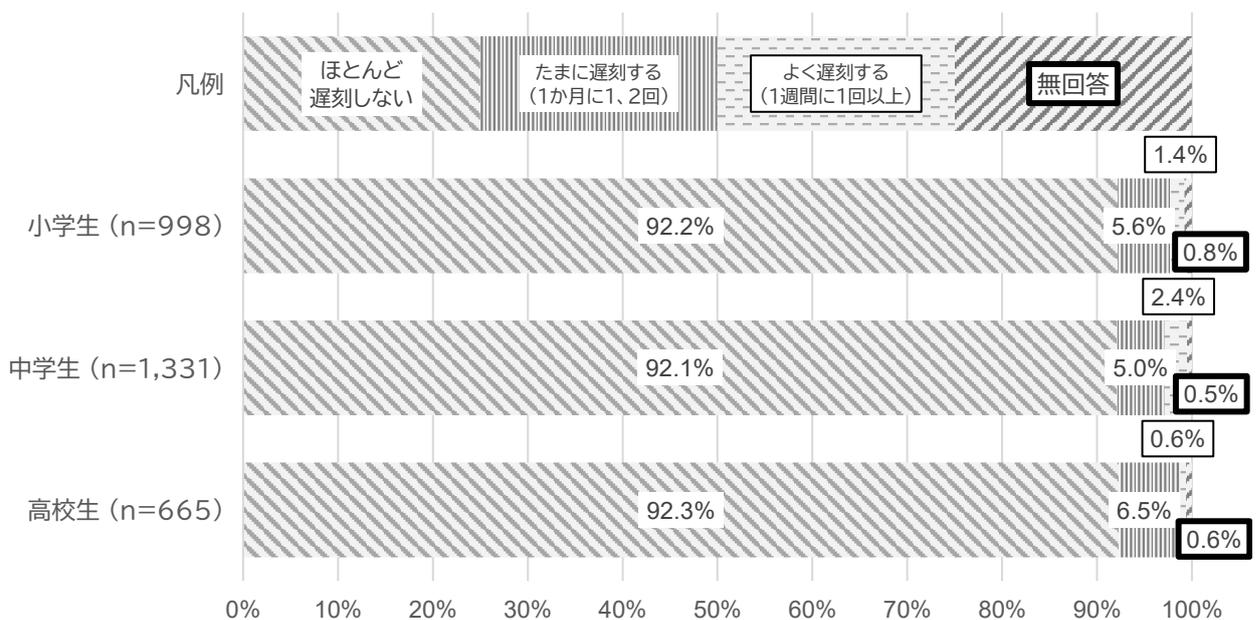
小学生	
<ul style="list-style-type: none"> ● のどが痛かったりするから。 ● お腹の具合が悪いから。 ● 寝る時間が少ないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルスの濃厚接触者になったから。 ● 病院 かぜ
中学生	
<ul style="list-style-type: none"> ● 入院、手術、通院 ● 眠いから。 ● 体調がわるくなるから。 ● 疲れやすいから。 ● いじめをされるから。 ● うつ状態になりやすいから。 ● 朝頭痛いから。 ● 学校が苦手だから。 ● 寝起きが悪いから。 ● 嫌な出来事があったから。 ● 気持ちがすまないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ● よく分からない。 ● 起立性調節障害 ● 自分の体調がすぐれなかったりするため。 ● 学校に行くときに緊張や疲れ、体調不良で欠席してしまっている。 ● クラスに行くのが嫌だから。クラスの人と話すのが怖いから。 ● 学校に行ける気がしない日があるから。 ● 不登校 ● 具合が悪くなってしまうから。
高校生	
<ul style="list-style-type: none"> ● 学校に行きたいがいると気分が悪くなるから。 ● 体調を崩すから。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 分からない。

問8 遅刻状況

【図表 23】

	ほとんど遅刻しない	たまに遅刻する (1か月に1、2回)	よく遅刻する (1週間に1回以上)	無回答	計
上段：人					
下段：%					
小学生	920	56	14	8	998
	92.2	5.6	1.4	0.8	100.0
中学生	1,226	66	32	7	1,331
	92.1	5.0	2.4	0.5	100.0
高校生	614	43	4	4	665
	92.3	6.5	0.6	0.6	100.0

【図表 24】



- 小学生では、「ほとんど遅刻しない」が920人(92.2%)、「たまに遅刻する(1か月に1、2回)」が56人(5.6%)、「よく遅刻する(1週間に1回以上)」が14人(1.4%)、「無回答」が8人(0.8%)となっている。
- 中学生では、「ほとんど遅刻しない」が1,226人(92.1%)、「たまに遅刻する(1か月に1、2回)」が66人(5.0%)、「よく遅刻する(1週間に1回以上)」が32人(2.4%)、「無回答」が7人(0.5%)となっている。
- 高校生では、「ほとんど遅刻しない」が614人(92.3%)、「たまに遅刻する(1か月に1、2回)」が43人(6.5%)、「よく遅刻する(1週間に1回以上)」が4人(0.6%)、「無回答」が4人(0.6%)となっている。

Ⅱ 普段の生活について

- 本市では、全ての学校区分において、「ほとんど遅刻しない」の割合が90%以上と最も高くなっている。
- 本市では、「よく遅刻する（1週間に1回以上）」の割合が、中学生において2.4%となっており、小学生及び高校生より若干高くなっている。
- 遅刻状況について、「無回答」を除く各選択肢の割合を学校区分ごとに、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 25】

区分	ほとんど遅刻しない			たまに遅刻する			よく遅刻する		
	国※	本市	比較	国※	本市	比較	国※	本市	比較
小学生	87.3%	92.2%	↑	9.9%	5.6%	↓	2.4%	1.4%	↓
中学生	88.8%	92.1%	↑	8.7%	5.0%	↓	2.4%	2.4%	→
高校生	83.5%	92.3%	↑	13.7%	6.5%	↓	2.6%	0.6%	↓

※ 国の調査結果では、遅刻及び早退の状況について、まとめた設問となっている。
本報告内では、遅刻及び早退の状況を分けて分析するが、それぞれに国の調査結果は同じ数値を利用し比較する。

- 国の調査結果と比較すると、本市では全ての学校区分において、「ほとんど遅刻しない」の割合が高くなっている。小学生及び中学生については、国と割合に大差はないが、高校生については約10%上回っている。
- 「たまに遅刻する」の割合については、本市では全ての学校区分において、国の調査結果よりも低くなっており、高校生については約半分の割合となっている。
- 「よく遅刻する」の割合については、本市では小学生及び高校生において、国よりも若干低くなっているものの、割合に大差はない。

問9 「よく遅刻する（1週間に1回以上）」理由

【図表 26】

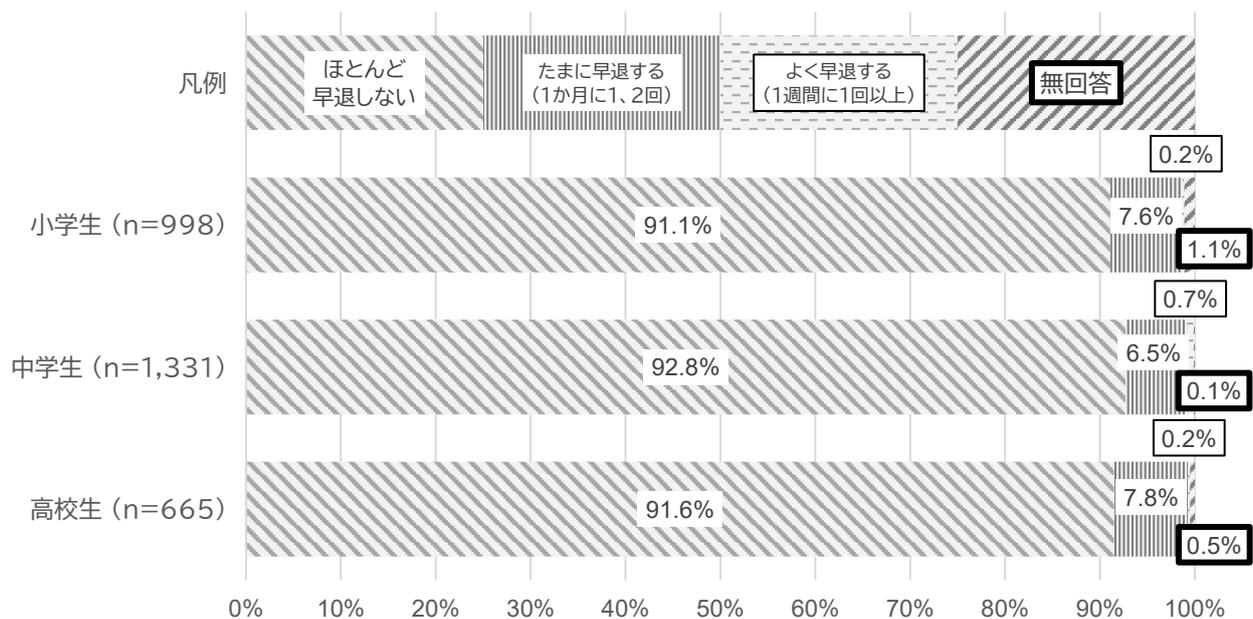
小学生	
<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園の弟に合わせているから。 ● 前日の夜更かし、寝坊 ● ご飯を食べるのが遅いから。 ● ねぼう 弟のきがえ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 起きる時間が遅くなったり、妹のおせわをしておそくなったりするから。 ● 朝、起きられないから。 ● 家庭の事情
中学生	
<ul style="list-style-type: none"> ● 朝の支度に時間がかかっているから。 ● 家を出る時間が遅いから。 ● 起立性調節障害のため朝起きれない。または、体調が悪い。 ● 午後 11 時に寝て、何故か午前 2 時に起きてしまい、二度寝をして起きた時にはもう遅刻確定 ● 準備が遅いから。 ● 朝頭痛いから。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校に行きたくないから。 ● 自分なりの抵抗 ● 時計をよく見ていないから。 ● 朝起きられないから。 ● 体調がよくなってから行っているから。 ● 寝起きが悪いから。 ● 不登校
高校生	
<ul style="list-style-type: none"> ● 朝は体の調子が良くないことが多いから。 ● 寝坊 	<ul style="list-style-type: none"> ● 分からない。

問 10 早退状況

【図表 27】

	ほとんど早退しない	たまに早退する (1か月に1、2回)	よく早退する (1週間に1回以上)	無回答	計
上段：人 下段：%					
小学生	909 91.1	76 7.6	2 0.2	11 1.1	998 100.0
中学生	1,235 92.8	86 6.5	9 0.7	1 0.1	1,331 100.0
高校生	609 91.6	52 7.8	1 0.2	3 0.5	665 100.0

【図表 28】



- 小学生では、「ほとんど早退しない」が909人(91.1%)、「たまに早退する(1か月に1、2回)」が76人(7.6%)、「よく早退する(1週間に1回以上)」が2人(0.2%)、「無回答」が11人(1.1%)となっている。
- 中学生では、「ほとんど早退しない」が1,235人(92.8%)、「たまに早退する(1か月に1、2回)」が86人(6.5%)、「よく早退する(1週間に1回以上)」が9人(0.7%)、「無回答」が1人(0.1%)となっている。
- 高校生では、「ほとんど早退しない」が609人(91.6%)、「たまに早退する(1か月に1、2回)」が52人(7.8%)、「よく早退する(1週間に1回以上)」が1人(0.2%)、「無回答」が3人(0.5%)となっている。
- 本市では、全ての学校区分において、「ほとんど早退しない」の割合が90%以上と最も高くなっている。

Ⅱ 普段の生活について

- 本市では、「よく早退する（1週間に1回以上）」の割合が、中学生において0.7%となっており、小学生及び高校生より若干高くなっている。
- 早退状況について、「無回答」を除く各項目の割合を学校区分ごとに、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 29】

区分	ほとんど早退しない			たまに早退する			よく早退する		
	国※	本市	比較	国※	本市	比較	国※	本市	比較
小学生	87.3%	91.1%	↑	9.9%	7.6%	↓	2.4%	0.2%	↓
中学生	88.8%	92.8%	↑	8.7%	6.5%	↓	2.4%	0.7%	↓
高校生	83.5%	91.6%	↑	13.7%	7.8%	↓	2.6%	0.2%	↓

※ 国の調査結果では、遅刻及び早退の状況について、まとめた設問となっている。
本報告内では、遅刻及び早退の状況を分けて分析するが、それぞれに国の調査結果は同じ数値を利用し比較する。

- 国の調査結果と比較すると、本市では全ての学校区分において、「ほとんど早退しない」の割合が高くなっている。
- 「たまに早退する」及び「よく早退する」の割合については、本市では全ての学校区分において、国の調査結果よりも低くなっている。

問 11 「よく早退する（1週間に1回以上）」理由

【図表 30】

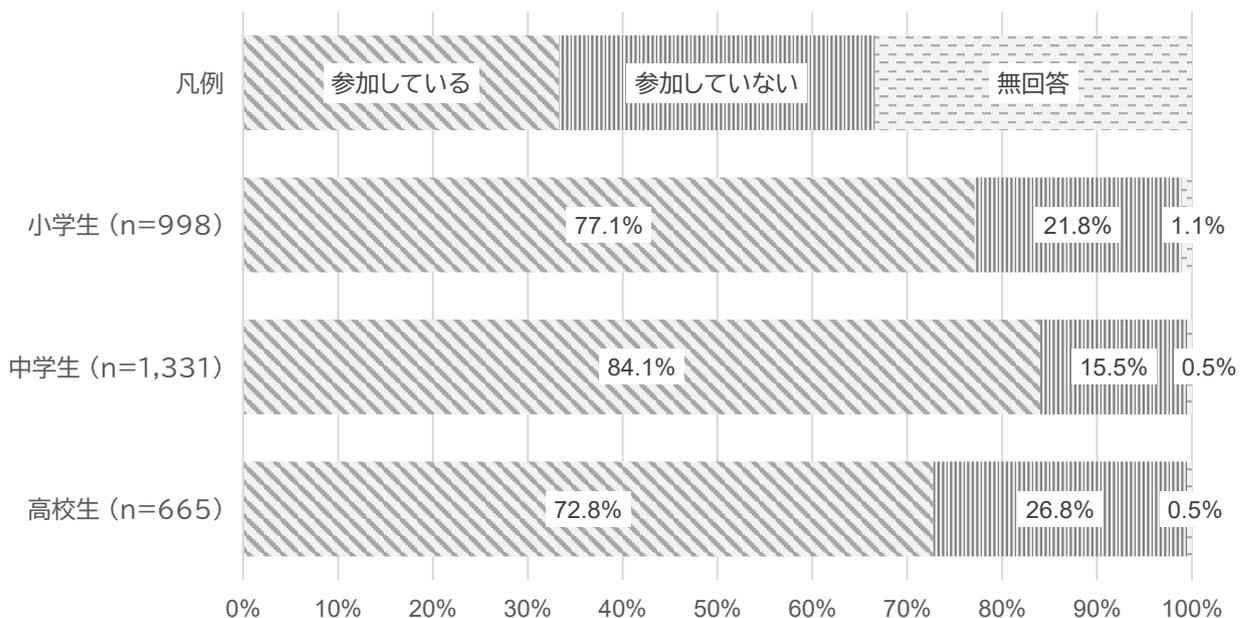
小学生	
● 調子が悪かったりして、もう無理だと思う時が多いから。	● 帰りたくなるから。
中学生	
● 体調不良 ● 病院に行くため。 ● 嫌な出来事があったから。	● 自分はもう限界？となってしまうから。 ● お腹がよく痛くなってどうしようも出来なくなるから。 ● 不登校
高校生	
● 学校にいると気分が悪くなるから。	

問 12 部活動（スポ少を含む）や習い事等の参加状況

【図表 31】

	参加している	参加していない	無回答	計
上段：人 下段：%				
小学生	769 77.1	218 21.8	11 1.1	998 100.0
中学生	1,119 84.1	206 15.5	6 0.5	1,331 100.0
高校生	484 72.8	178 26.8	3 0.5	665 100.0

【図表 32】



- 小学生では、「参加している」が769人（77.1%）、「参加していない」が218人（21.8%）、「無回答」が11人（1.1%）となっている。
- 中学生では、「参加している」が1,119人（84.1%）、「参加していない」が206人（15.5%）、「無回答」が6人（0.5%）となっている。
- 高校生では、「参加している」が484人（72.8%）、「参加していない」が178人（26.8%）、「無回答」が3人（0.5%）となっている。
- 本市では、全ての学校区分において、「参加している」の割合が70%以上で、「参加していない」を上回っている。
- 小学生及び高校生において、「参加していない」の割合が20%を超えているのに対して、中学生では15.5%となっている。

- 各学校区分の「参加している」の割合を国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 33】

区分	国	本市	比較
小学生	72.6%	77.1%	↑
中学生	87.9%	84.1%	↓
高校生	74.1%	72.8%	↓

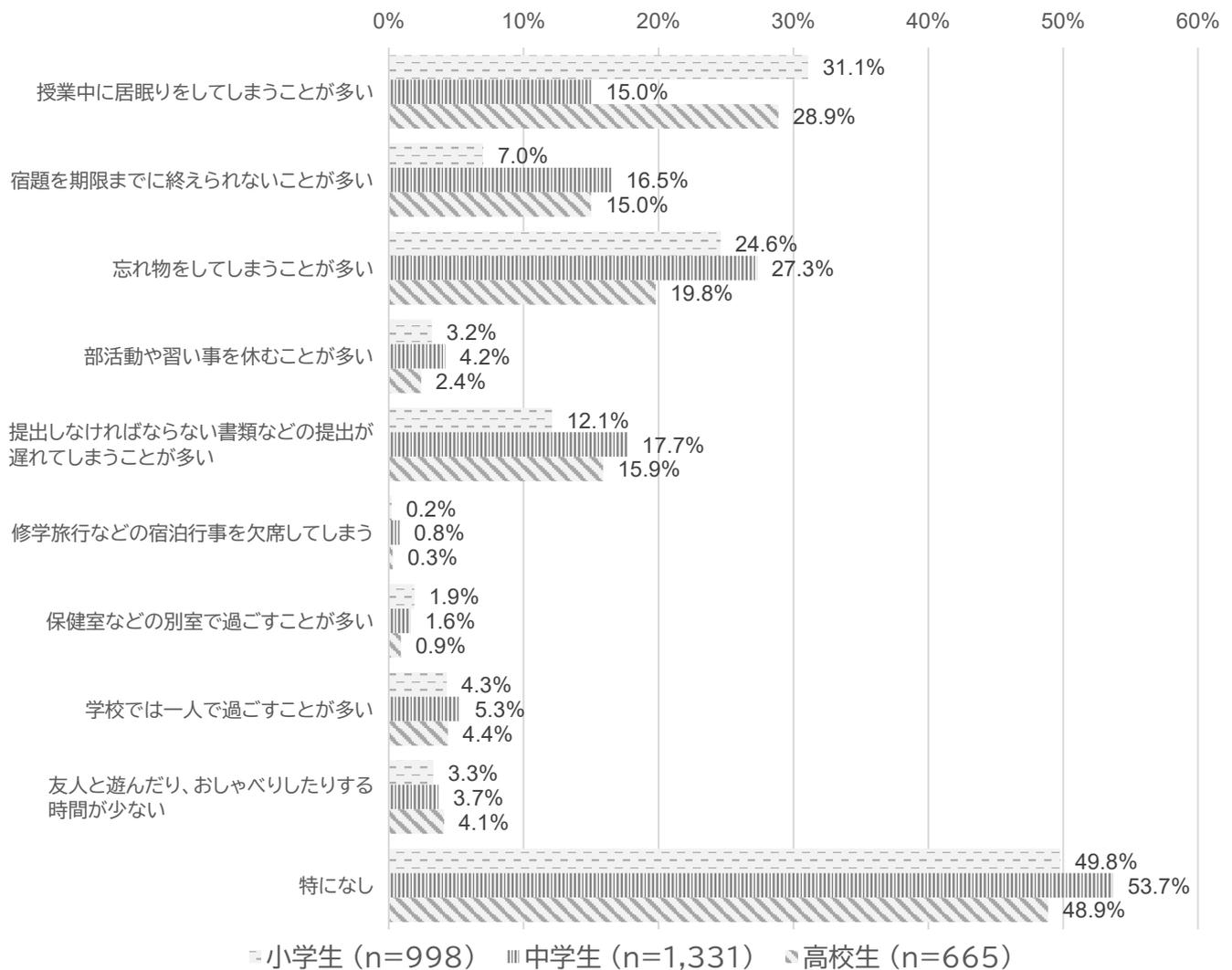
- 国の調査結果と比較すると、本市では、「参加している」の割合について、小学生は77.1%と国の72.6%よりも高く、中学生は国の87.9%に対し84.1%、高校生は国の74.1%に対し72.8%と若干低くなっている。

問 13 普段の学校生活（複数回答）

【図表 34】

	授業中に居眠りをしてしまうことが多い	宿題を期限までに終わられないことが多い	忘れ物をしてしまうことが多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければならない書類などの提出が遅れてしまうことが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席してしまう	保健室などの別室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特になし	集計対象数
											上段：人 下段：%
小学生	310	70	246	32	121	2	19	43	33	497	998
	31.1	7.0	24.6	3.2	12.1	0.2	1.9	4.3	3.3	49.8	—
中学生	199	220	364	56	236	11	21	71	49	715	1,331
	15.0	16.5	27.3	4.2	17.7	0.8	1.6	5.3	3.7	53.7	—
高校生	192	100	132	16	106	2	6	29	27	325	665
	28.9	15.0	19.8	2.4	15.9	0.3	0.9	4.4	4.1	48.9	—

【図表 35】



Ⅱ 普段の生活について

- 小学生では、「授業中に居眠りをしてしまうことが多い」が 310 人 (31.1%)、「宿題を期限までに終わられないことが多い」が 70 人 (7.0%)、「忘れ物をしてしまうことが多い」246 人 (24.6%)、「部活動や習い事を休むことが多い」が 32 人 (3.2%)、「提出しなければならぬ書類などの提出が遅れてしまうことが多い」が 121 人 (12.1%)、「修学旅行などの宿泊行事を欠席してしまう」が 2 人 (0.2%)、「保健室などの別室で過ごすことが多い」が 19 人 (1.9%)、「学校では一人で過ごすことが多い」が 43 人 (4.3%)、「友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が 33 人 (3.3%)、「特になし」が 497 人 (49.8%) となっている。
- 中学生では、「授業中に居眠りをしてしまうことが多い」が 199 人 (15.0%)、「宿題を期限までに終わられないことが多い」が 220 人 (16.5%)、「忘れ物をしてしまうことが多い」364 人 (27.3%)、「部活動や習い事を休むことが多い」が 56 人 (4.2%)、「提出しなければならぬ書類などの提出が遅れてしまうことが多い」が 236 人 (17.7%)、「修学旅行などの宿泊行事を欠席してしまう」が 11 人 (0.8%)、「保健室などの別室で過ごすことが多い」が 21 人 (1.6%)、「学校では一人で過ごすことが多い」が 71 人 (5.3%)、「友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が 49 人 (3.7%)、「特になし」が 715 人 (53.7%) となっている。
- 高校生では、「授業中に居眠りをしてしまうことが多い」が 192 人 (28.9%)、「宿題を期限までに終わられないことが多い」が 100 人 (15.0%)、「忘れ物をしてしまうことが多い」132 人 (19.8%)、「部活動や習い事を休むことが多い」が 16 人 (2.4%)、「提出しなければならぬ書類などの提出が遅れてしまうことが多い」が 106 人 (15.9%)、「修学旅行などの宿泊行事を欠席してしまう」が 2 人 (0.3%)、「保健室などの別室で過ごすことが多い」が 6 人 (0.9%)、「学校では一人で過ごすことが多い」が 29 人 (4.4%)、「友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」が 27 人 (4.1%)、「特になし」が 325 人 (48.9%) となっている。
- 本市では、全ての学校区分において、「特になし」の割合が最も高く、50%前後の割合となっている。
- 「特になし」に次いで、小学生及び高校生では、「授業中に居眠りをしてしまうことが多い」、「忘れ物をしてしまうことが多い」、「提出しなければならぬ書類などの提出が遅れてしまうことが多い」の順で割合が高くなっており、割合は異なるが、構成は一致している。
- 中学生では、「特になし」に次いで、「忘れ物をしてしまうことが多い」、「提出しなければならぬ書類などの提出が遅れてしまうことが多い」、「宿題を期限までに終わられないことが多い」の順で割合が高くなっていて、小学生及び高校生と構成が異なる。
- 普段の学校生活について、各学校区分における上位 4 項目を国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 36】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
小学生	1	特になし	60.9	特になし	49.8
	2	持ち物の忘れ物が多い	18.6	授業中に居眠りをしてしまうことが多い	31.1
	3	提出物を出すのが遅れることが多い	13.7	忘れ物をしてしまうことが多い	24.6
	4	友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	13.1	提出しなければならぬ書類などの提出が遅れてしまうことが多い	12.1

【図表 37】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
中学生	1	特になし	62.7	特になし	53.7
	2	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	14.1	忘れ物をしてしまうことが多い	27.3
	3	持ち物の忘れ物が多い	13.2	提出しなければならぬ書類などの提出が遅れてしまうことが多い	17.7
	4	授業中に居眠りすることが多い	12.7	宿題を期限までに終わられないことが多い	16.5

【図表 38】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
高校生	1	特になし	42.9	特になし	48.9
	2	授業中に居眠りすることが多い	39.7	授業中に居眠りをしてしまうことが多い	28.9
	3	宿題や課題ができていないことが多い	17.6	忘れ物をしてしまうことが多い	19.8
	4	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	15.3	提出しなければならぬ書類などの提出が遅れてしまうことが多い	15.9

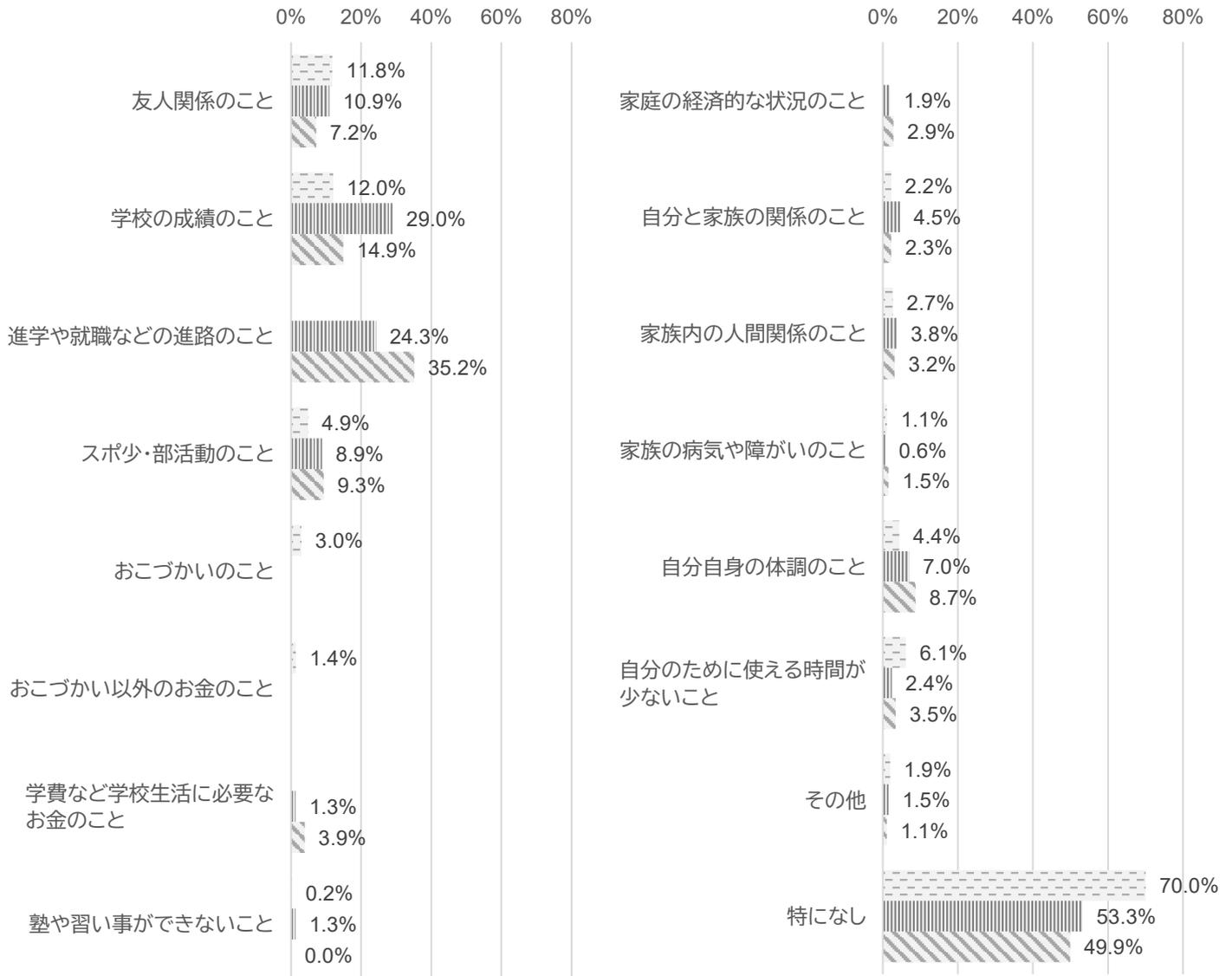
- 小学生は、国の調査結果と「特になし」の割合が最も高い点で共通しているが、国は 60.9%である対し、本市では 49.8%と 10%以上低くなっている。
- 小学生は、国の調査結果では、「忘れ物が多い」の割合が最も高く、次いで「提出しなければならぬ書類などの提出が遅れることが多い」となっているが、本市では、それら 2 項目より「授業中に居眠りをする事が多い」の割合が高く、その割合は 31.1%に上っている。
- 中学生は、国の調査結果と「特になし」の割合が最も高い点で共通しているが、国は 62.7%である対し、本市では 53.7%と低くなっている。
- 高校生では、国の調査結果と「特になし」の割合が最も高い点で共通しているが、小学生及び中学生とは異なり、国は 42.9%である対し、本市では 48.9%と高くなっている。
- 高校生は、国と本市で「特になし」を除く 3 項目のうち、「授業中に居眠りをする事が多い」及び「提出しなければならぬ書類などの提出が遅れることが多い」の 2 項目が共通しているが、本市では、前者に関する割合が、国よりも 10%以上低くなっている。

問 14 悩んだり困ったりしていること（複数回答）

【図表 39】

	友人関係のこと	学校の成績のこと	進学や就職などの進路のこと	スポ少・部活動のこと	おこづかいのこと	金のこと	おこづかい以外のお金のこと	学費など学校生活に必要なお金のこと	塾や習い事ができないこと	家庭の経済的な状況のこと	自分と家族の関係のこと	家族内の人間関係のこと	家族の病気や障がいのこと	自分自身の体調のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特になし	集計対象数
上段：人 下段：%																		
小学生	118	120		49	30	14			2		22	27	11	44	61	19	699	998
	11.8	12.0		4.9	3.0	1.4			0.2		2.2	2.7	1.1	4.4	6.1	1.9	70.0	—
中学生	145	386	323	118				17	17	25	60	50	8	93	32	20	709	1,331
	10.9	29.0	24.3	8.9				1.3	1.3	1.9	4.5	3.8	0.6	7.0	2.4	1.5	53.3	—
高校生	48	99	234	62				26	0	19	15	21	10	58	23	7	332	665
	7.2	14.9	35.2	9.3				3.9	0.0	2.9	2.3	3.2	1.5	8.7	3.5	1.1	49.9	—

【図表 40】



■ 小学生 (n=998)
 ■ 中学生 (n=665)

■ 中学生 (n=1,331)

Ⅱ 普段の生活について

- 小学生では、「友人関係のこと」が118人(11.8%)、「学校の成績のこと」が120人(12.0%)、「スポ少・部活動のこと」が49人(4.9%)、「おこづかいのこと」が30人(3.0%)、「おこづかい以外のお金のこと」が14人(1.4%)、「塾や習い事ができないこと」が2人(0.2%)、「自分と家族の関係のこと」が22人(2.2%)、「家族内の人間関係のこと」が27人(2.7%)、「家族の病気や障がいのこと」が11人(1.1%)、「自分自身の体調のこと」が44人(4.4%)、「自分のために使える時間が少ないこと」が61人(6.1%)、「その他」が19人(1.9%)、「特になし」が699人(70.0%)となっている。
- 中学生では、「友人関係のこと」が145人(10.9%)、「学校の成績のこと」が386人(29.0%)、「進学や就職などの進路のこと」が323人(24.3%)、「スポ少・部活動のこと」が118人(8.9%)、「学費など学校生活に必要なお金のこと」が17人(1.3%)、「塾や習い事ができないこと」が17人(1.3%)、「家庭の経済的な状況のこと」が25人(1.9%)、「自分と家族の関係のこと」が60人(4.5%)、「家族内の人間関係のこと」が50人(3.8%)、「家族の病気や障がいのこと」が8人(0.6%)、「自分自身の体調のこと」が93人(7.0%)、「自分のために使える時間が少ないこと」が32人(2.4%)、「その他」が20人(1.5%)、「特になし」が709人(53.3%)となっている。
- 高校生では、「友人関係のこと」が48人(7.2%)、「学校の成績のこと」が99人(14.9%)、「進学や就職などの進路のこと」が243人(35.2%)、「スポ少・部活動のこと」が62人(9.3%)、「学費など学校生活に必要なお金のこと」が26人(3.9%)、「家庭の経済的な状況のこと」が19人(2.9%)、「自分と家族の関係のこと」が15人(2.3%)、「家族内の人間関係のこと」が21人(3.2%)、「家族の病気や障がいのこと」が10人(1.5%)、「自分自身の体調のこと」が58人(8.7%)、「自分のために使える時間が少ないこと」が23人(3.5%)、「その他」が7人(1.1%)、「特になし」が332人(49.9%)となっている。
- 本市では、全ての学校区分において、「特になし」の割合が最も高く、その割合は小学生で70%に上るが、中学生及び高校生では約50%と、学年が上がるにつれてその割合が減少している。このことから学年が上がるにつれて、何らかの悩みを抱える傾向があることが伺える。
- いずれの学校区分においても、学校の成績や進学等、学業に関する悩みを抱えている子どもが多いことが分かる。
- 悩んだり困ったりしていることについて、各学校区分における上位4項目を国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 41】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
小学生	1	特になし	68.9	特になし	70.0
	2	友達のこと	12.1	学校の成績のこと	12.0
	3	学校の成績のこと	11.9	友人関係のこと	11.8
	4	家族のこと	5.7	自分のために使える時間が少ないこと	6.1

【図表 42】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
中学生	1	特になし	41.0	特になし	53.3
	2	進路のこと	37.2	学校の成績のこと	29.0
	3	学業成績のこと	33.7	進学や就職などの進路のこと	24.3
	4	友人との関係のこと	15.6	友人関係のこと	10.9

【図表 43】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
高校生	1	進路のこと	53.7	特になし	49.9
	2	学業成績のこと	38.5	進学や就職などの進路のこと	35.2
	3	特になし	27.4	学校の成績のこと	14.9
	4	部活動のこと	13.0	スポ少・部活動のこと	9.3

- 国の調査結果と比較すると、中学生では、上位4項目の割合は異なるものの、項目は全て一致している。
- 一方、小学生では、「家族のこと」ではなく、「自分のために使える時間が少ないこと」が含まれている点で国の調査結果とは異なる。
- 高校生は、国の調査結果では、「特になし」が27.4%であるのに対し、本市では49.9%と国よりも割合が高くなっている。

問 14 選択肢「その他」の内容

【図表 44】

小学生	
<ul style="list-style-type: none"> ● クラスの人たちのこと ● ネット友とのこと ● 学校でいやなことがあること ● たまに頭痛がすること ● 暇過ぎること ● みんながつめたいこと ● 自分の精神状態 ● LGBT ではないのだが、女の子の服を着るのが嫌なこと ● 本当に笑える事が少なくなったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分のこと ● 同性が恋愛対象であること ● 視力が悪くなっていて、文字が少し見えづらいこと ● いじめられたりすること ● 家族とよくケンカしてしまうこと ● 祖父と祖母はいるが、いっしょに生活していないこと ● 自分が女に生まれたことが嫌なこと ● 特に理由はないけど、たまに学校が嫌になること ● 誕生日プレゼントがないこと
中学生	
<ul style="list-style-type: none"> ● ストレスがたまること 家族にイライラすること ● 自分自身の性格のこと ● 寝不足なこと ● 自分自身の心の病気のこと ● みんなと違うこと ● 自分の容姿のこと ● 学校のこと 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族があまり家事をしてくれないこと ● 自身の性格や態度の悪さのこと ● 部活動に入るのが強制なこと ● 運が悪いこと ● 自分がおかしいと感じること ● 毎日お腹が痛くなること
高校生	
<ul style="list-style-type: none"> ● いじめを受けていること ● 人間関係のこと ● 自分自身の性格のこと ● 気が合う人が少ないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ● ただだ上手く生きることが出来ないこと ● 1年生のこと ● 自分のお金のこと

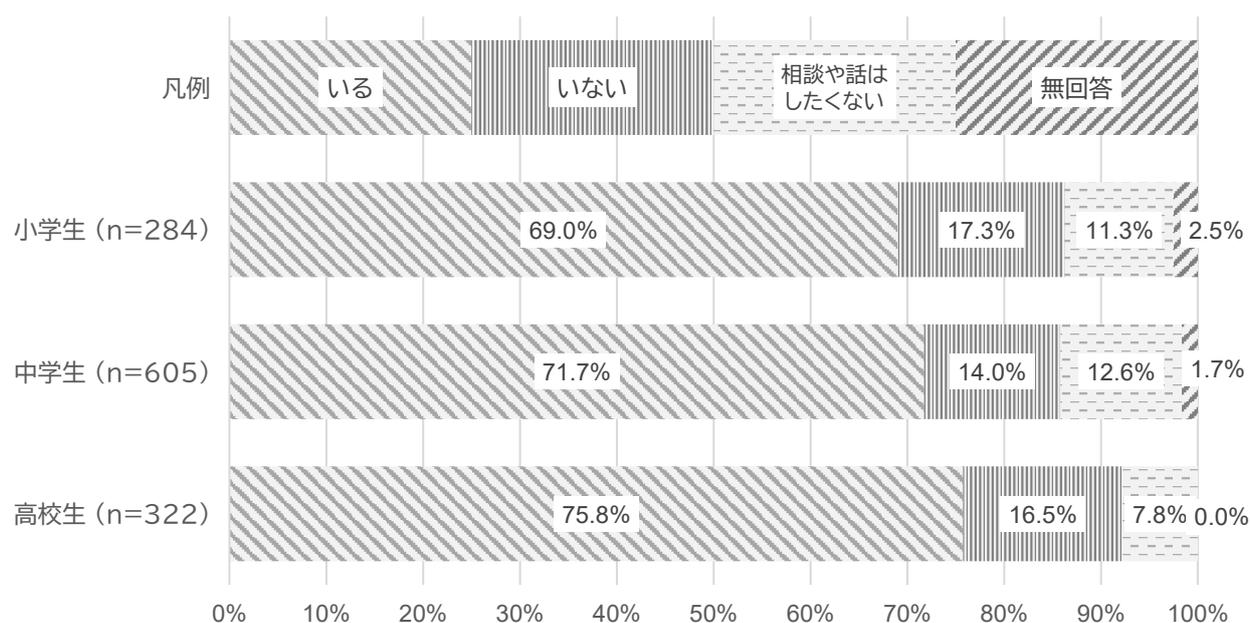
問 15 相談相手の有無及び相談しない理由

(問 14 で「1 友人関係のこと」から「13 その他」のいずれかを選択した場合のみ回答)

【図表 45】

	いる	いない	ない 相談や話 はしたく ない	無回 答	計
上段：人 下段：%					
小学生	196 69.0	49 17.3	32 11.3	7 2.5	284 100.0
中学生	434 71.7	85 14.0	76 12.6	10 1.7	605 100.0
高校生	244 75.8	53 16.5	25 7.8	0 0.0	322 100.0

【図表 46】



- 小学生では、「いる」が 196 人 (69.0%)、「いない」が 49 人 (17.3%)、「相談や話したくない」が 32 人 (11.3%)、「無回答」が 7 人 (2.5%) となっている。
- 中学生では、「いる」が 434 人 (71.7%)、「いない」が 85 人 (14.0%)、「相談や話したくない」が 76 人 (12.6%)、「無回答」が 10 人 (1.7%) となっている。
- 高校生では、「いる」が 244 人 (75.8%)、「いない」が 53 人 (16.5%)、「相談や話したくない」が 25 人 (7.8%) となっている。
- 本市では、全ての学校区分において、「いる」の割合が最も高く、70%前後に上っている。
- 「いる」の割合は学年が上がるにつれ、上昇する傾向にあり、高校生では 75%に達している。
- 「いない」の割合は小学生で最も高く、「相談や話したくない」の割合は中学生で最も高くなっている。

- 相談相手の有無について、「無回答」を除く各項目の割合を学校区分ごとに、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 47】

区分	いる			いない			相談や話はしたくない		
	国	本市	比較	国	本市	比較	国	本市	比較
小学生	62.5%	69.0%	↑	9.6%	17.3%	↑	25.9%	11.3%	↓
中学生	72.4%	71.7%	↓	4.6%	14.0%	↑	22.6%	12.6%	↓
高校生	74.6%	75.8%	↑	4.9%	16.5%	↑	19.9%	7.8%	↓

- 国の調査結果と比較すると、本市では「いる」の割合は、中学生では若干低いものの、小学生及び高校生では上回っている。
- 一方、「いない」の割合が全ての学校区分において、国の調査結果よりも高く、小学生では約2倍、中学生及び高校生では3倍以上の割合となっている。
- 「相談や話はしたくない」の割合は全ての学校区分において、国の調査結果よりも低く、半分程度の割合となっており、本市においては、相談することに対して抵抗感を持っている子どもは少ないことが伺える。

問 15 選択肢1「相談相手」の内容

【図表 48】

小学生	
<ul style="list-style-type: none"> ● お母さん ● おばあさん ● 友達 ● お父さん ● 先生 ● ネットの友達 ● 姉 ● いとこ ● 親友 ● 監督 	<ul style="list-style-type: none"> ● 相談係 ● 同級生 ● 校長先生 ● 保健室の先生 ● 近所の人 ● お兄ちゃん ● おばさん ● 祖父 ● 植物 ● カウンセラーの先生
中学生	
<ul style="list-style-type: none"> ● 保健室の先生 ● お母さん ● 父 ● 兄 ● 友達 ● 姉 ● 周りの大人 ● スクールカウンセラー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の人 ● 小学校の友達 ● 他校の友達 ● 先輩 ● 学校の先生 ● 親友 ● 祖母 ● おば

<ul style="list-style-type: none"> ● 信頼できる友達など ● 大学病院の先生 ● 担任の先生 ● 妹 	<ul style="list-style-type: none"> ● 部活の友達 ● ネットの友達 ● 同級生 ● 小さい時からよくいた友達
高校生	
<ul style="list-style-type: none"> ● 友達 ● 担任の先生 ● 母親 ● 先輩 ● 中学の時の友達 ● 父 ● 他校の友達 ● 習い事の先生 ● 中学校の養護教諭の先生 ● 叔父 	<ul style="list-style-type: none"> ● カウンセリングの先生 ● 姉 ● 学校で一緒にいる友達 ● いつも一緒にいる人 ● スクールカウンセラー ● NPO 法人の方 ● 部活の友達 ● 兄弟 ● 同級生

問 15 選択肢 3「相談しない理由」の内容

【図表 49】

小学生	
<ul style="list-style-type: none"> ● 別の人に迷惑をかけたくないから。 ● 個人的な情報だと思うから。 ● 話してもどうにもならないと思っているから。 ● 言いたくないから。 ● 自分の勘違いかもしれないから。 ● 自分で解決したいから。 ● 話すのが怖いから。 ● 親に言われたから。 ● 自分のせいにされるから。 ● 思い出すから。 ● 勇気が出ないから。 ● 話にくいから。 ● 自分のことをほかの人におしえたくないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分にメリットがないから。 ● 話しても、文句を言われるから。 ● 分からない。 ● 恥ずかしいから。 ● まあ大丈夫でしょって言われそうだから。 ● 否定されるから。 ● 大げさにされるから。 ● 心配をかけたくないから。 ● 話してしまうと、友達とのかんけいがかずれてしまうかもしれないから。 ● 「うそでしょ」といわれそうだから。 ● おこられる、暴力をふるうから。
中学生	
<ul style="list-style-type: none"> ● 単に話したくないだけだから。 ● 友達に見られたら、何話したの？と追及されたり、噂されたりしそうだから。 ● 先生に相談してもいい返事を返してもらえなさそうだから。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の問題だから。 ● 怖いから。 ● 迷惑をかけたくないから。 ● 言ったところで意味なんかないから。 ● 自分のことをあまり深く知らないでほしいから。

<ul style="list-style-type: none"> ● 人は信用できないから。 ● 分かってくれないから。アドバイスばかりしてくるから。 ● ほかに人に広められるから。 ● 自分は弱くないと思っても、どうしても負けた気がしてしまうから。 ● 時間の無駄だから。 ● 話しにくいから。 ● 自分でなんとかしたいから。誰かに頼るのは最終手段だと思うから。 ● 話したくないから。 ● 本音で話すことが苦手だから。 ● 相談したら、仲間外れにされたことがあるから。 ● 不安だから。 ● 誰かに話すのが面倒だから。 ● おしえたくないから。 ● 暗い話はしたくないから。 ● 昔相談して馬鹿にされたことがあるから。 ● 自分で抱えた方が楽だから。 ● 相談内容を口に出すとつらくなるから。 ● どうせ解決策になるわけじゃないし、特に親には余計なこと言われたりしそうで、別に相談しなくていいかなと思うようになったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 相談できるような信頼できる人がいないから。 ● ばらされそうだから。 ● 弱っているところを見られたくないから。 ● 相談しても納得のいく答えがなかったから。 ● その悩みを関係のある人に言われるから。 ● 空気が重くなるから。 ● どうせ否定されるから。 ● 相手からどう思われているか心配だし、恥ずかしいから。 ● 自分のことで時間を使わないでほしいから。 ● 頑張れというだけで相談を解決されたように思えないから。また、自分なりに頑張っている中でさらに応援されてもこれ以上どうしたらいいかわからないから。 ● 無意味だから。 ● 色々言われるのが嫌だから。 ● 何か変わるわけではないから。 ● 個人の話だから。 ● 相談するほど問題でないから。 ● 相談しても気にするなで終わって助けてくれたことがないから。 ● 気分が悪くなるから。
<p>高校生</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● みんなすぐ裏切るから。 ● 自分の将来のことで相談しにくいから。 ● 迷惑がかかるから。 ● 自分で解決したいから。 ● 面倒事になるから。 ● 面倒だから。 ● 人に相談するのが苦手だから。 ● 話をすることで相手に気を使わせてしまうかもしれないから。 ● 無駄だから。 ● 自分の問題だから。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的に話しても上手く伝わらずに終わるから。 ● 心配をかけたくないから。 ● 人に話して何かを求めている訳では無いから。 ● 人と話すのが苦手だから。 ● どうにもならないから。 ● 悩みや困りごとを知られたくないから。 ● 人の言うことをなかなか否定できないから。 ● なんとなく ● 迷惑をかけていると感じるから。 ● 自分の悩みで相手まで悩ませたくないから。

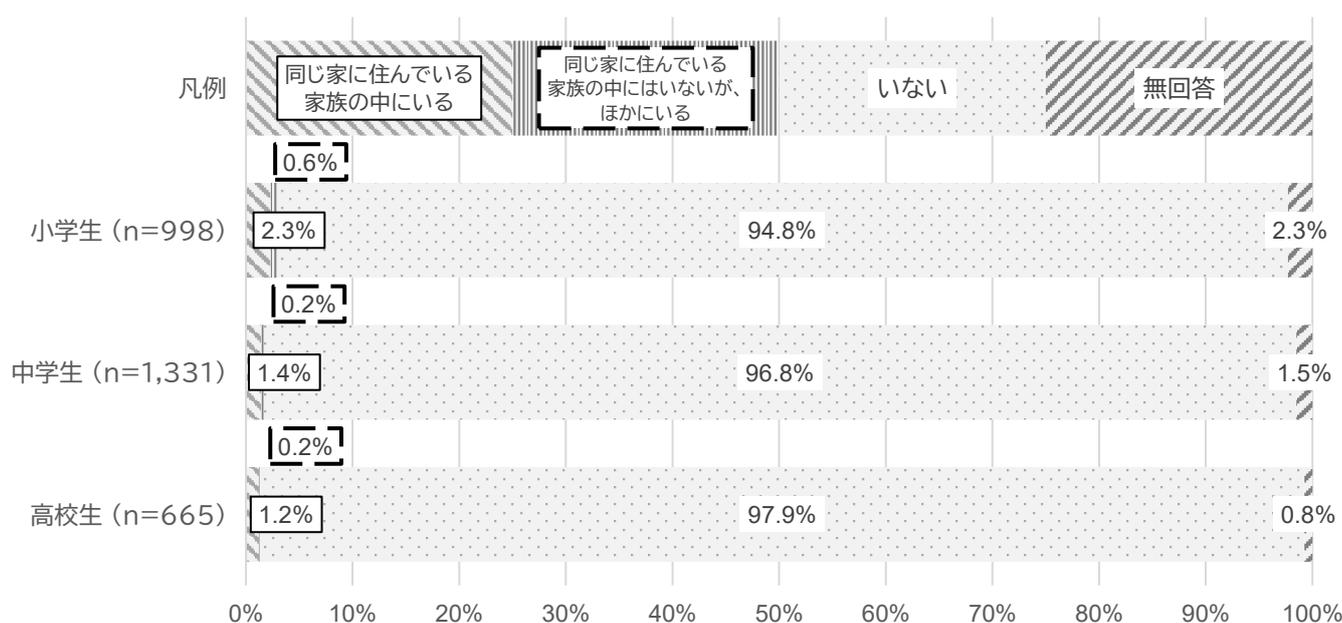
Ⅲ お世話の状況について

問 16 お世話をしている家族の有無

【図表 50】

上段：人 下段：%	同じ家に住んでいる 家族の中にいる	同じ家に住んでいる 家族の中にはいない が、ほかにいる	いない	無回答	計
小学生	23	6	946	23	998
	2.3	0.6	94.8	2.3	100.0
中学生	19	3	1,289	20	1,331
	1.4	0.2	96.8	1.5	100.0
高校生	8	1	651	5	665
	1.2	0.2	97.9	0.8	100.0

【図表 51】



- 小学生では、「同じ家に住んでいる家族の中にいる」が 23 人 (2.3%)、「同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる」が 6 人 (0.6%)、「いない」が 946 人 (94.8%)、「無回答」が 23 人 (2.3%) となっている。
- 中学生では、「同じ家に住んでいる家族の中にいる」が 19 人 (1.4%)、「同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる」が 3 人 (0.2%)、「いない」が 1,289 人 (96.8%)、「無回答」が 20 人 (1.5%) となっている。
- 高校生では、「同じ家に住んでいる家族の中にいる」が 8 人 (1.2%)、「同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる」が 1 人 (0.2%)、「いない」が 651 人 (97.9%)、「無回答」が 5 人 (0.8%) となっている。
- 全ての学校区分において、「いない」の割合が最も高く、90%以上に上っている。

Ⅲ お世話の状況について

- お世話をしている家族の有無について、「無回答」を除く有無の割合を学校区分ごとに国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 52】

区分	いる			いない		
	国	本市※	比較	国	本市	比較
小学生	6.5%	2.9%	↓	93.5%	94.8%	↑
中学生	5.7%	1.6%	↓	93.6%	96.8%	↑
高校生	4.1%	1.4%	↓	94.9%	97.9%	↑

※ 本市における「いる」の割合は、「同じ家に住んでいる家族の中にいる」及び「同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる」の割合の合計である。

- 国の調査結果と比較すると、本市では、全ての学校区分において、「いる」の割合が低く、「いない」の割合が高くなっている。

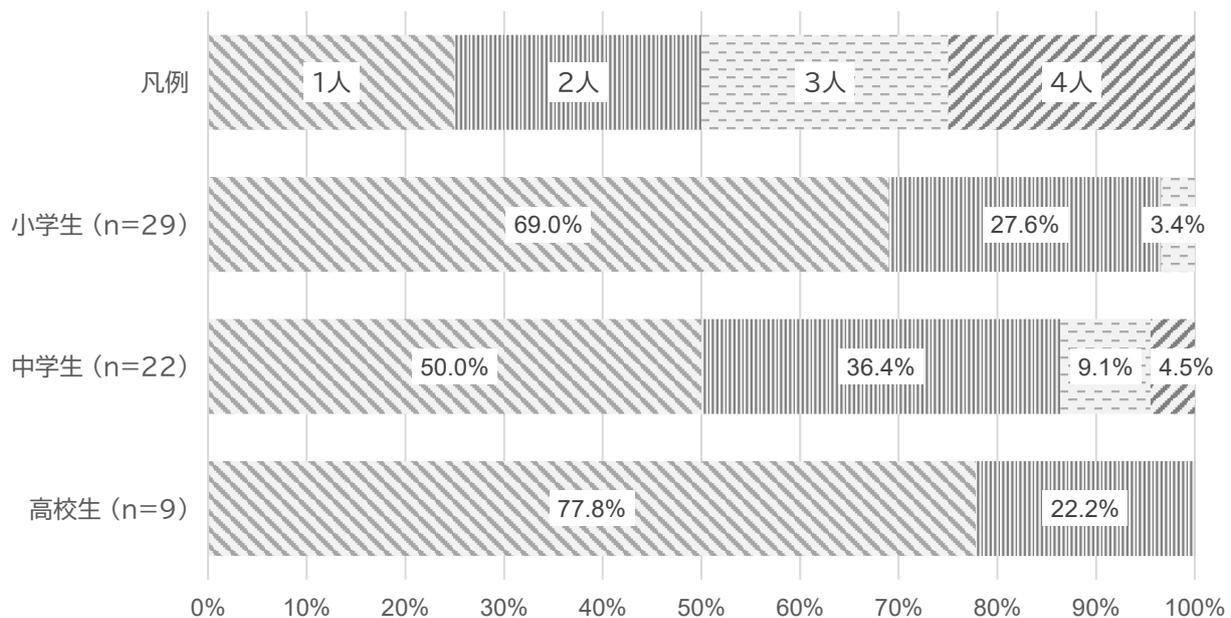
問 17 お世話をしている家族の人数

(問 16 で「同じ家に住んでいる家族の中にいる」または「同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる」を選択した場合のみ回答)

【図表 53】

上段：人 下段：%	1人	2人	3人	4人	計
小学生	20 69.0	8 27.6	1 3.4	0 0.0	29 100.0
中学生	11 50.0	8 36.4	2 9.1	1 4.5	22 100.0
高校生	7 77.8	2 22.2	0 0.0	0 0.0	9 100.0

【図表 54】



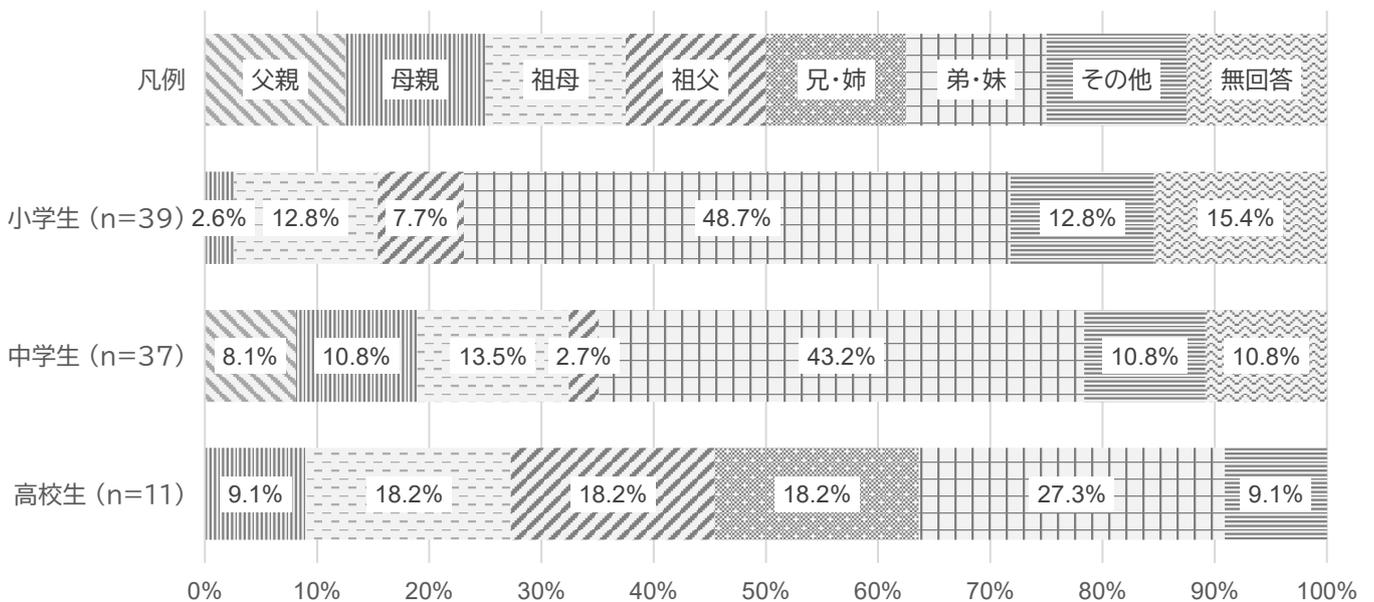
- 小学生では、「1人」が20人(69.0%)、「2人」が8人(27.6%)、「3人」が1人(3.4%)となっている。
- 中学生では、「1人」が11人(50.0%)、「2人」が8人(36.4%)、「3人」が2人(9.1%)、「4人」が1人(4.5%)となっている。
- 高校生では、「1人」が7人(77.8%)、「2人」が2人(22.2%)となっている。
- 全ての学校区分において、お世話をしている家族がいる子どものうち、半数以上がその人数を「1人」と回答している。

① お世話の対象

【図表 55】

上段：人 下段：%	父親	母親	祖母	祖父	兄・姉	弟・妹	その他	無回答	計
小学生	0 0.0	1 2.6	5 12.8	3 7.7	0 0.0	19 48.7	5 12.8	6 15.4	39 100.0
中学生	3 8.1	4 10.8	5 13.5	1 2.7	0 0.0	16 43.2	4 10.8	4 10.8	37 100.0
高校生	0 0.0	1 9.1	2 18.2	2 18.2	2 18.2	3 27.3	1 9.1	0 0.0	11 100.0

【図表 56】



- 小学生では、「母親」が1人(2.6%)、「祖母」が5人(12.8%)、「祖父」が3人(7.7%)、「弟・妹」が19人(48.7%)、「その他」が5人(12.8%)、「無回答」が6人(15.4%)となっている。
- 中学生では、「父親」が3人(8.1%)、「母親」が4人(10.8%)、「祖母」が5人(13.5%)、「祖父」が1人(2.7%)、「弟・妹」が16人(43.2%)、「その他」が4人(10.8%)、「無回答」が4人(10.8%)となっている。
- 高校生では、「母親」が1人(9.1%)、「祖母」が2人(18.2%)、「祖父」が2人(18.2%)、「兄・姉」が2人(18.2%)、「弟・妹」が3人(27.3%)、「その他」が1人(9.1%)となっている。
- 全ての学校区分において、「弟・妹」の割合が最も高くなっている。

「その他」回答

・曾祖母 ・いとこ ・はとこ など

- お世話の対象について、「無回答」を除く各学校区分における上位3項目を国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 57】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
小学生	1	きょうだい	71.0	きょうだい	48.7
	2	父母	33.0	祖父母	20.5
	3	祖父母	15.8	父母	2.6

※ 本市における「きょうだい」は、「兄・姉」及び「弟・妹」の割合の合計である。
 「父母」は、「父親」及び「母親」の割合の合計である。
 「祖父母」は、「祖父」及び「祖母」の割合の合計である。

【図表 58】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
中学生	1	きょうだい	61.8	きょうだい	43.2
	2	父母	23.5	父母	18.9
	3	祖父母	14.7	祖父母	16.2

※ 本市における「きょうだい」は、「兄・姉」及び「弟・妹」の割合の合計である。
 「父母」は、「父親」及び「母親」の割合の合計である。
 「祖父母」は、「祖父」及び「祖母」の割合の合計である。

【図表 59】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
高校生	1	きょうだい	44.3	きょうだい	45.5
	2	父母	29.6	祖父母	36.4
	3	祖父母	22.5	父母	9.1

※ 本市における「きょうだい」は「兄・姉」及び「弟・妹」の割合の合計である。
 「父母」は、「父親」及び「母親」の割合の合計である。
 「祖父母」は、「祖父」及び「祖母」の割合の合計である。

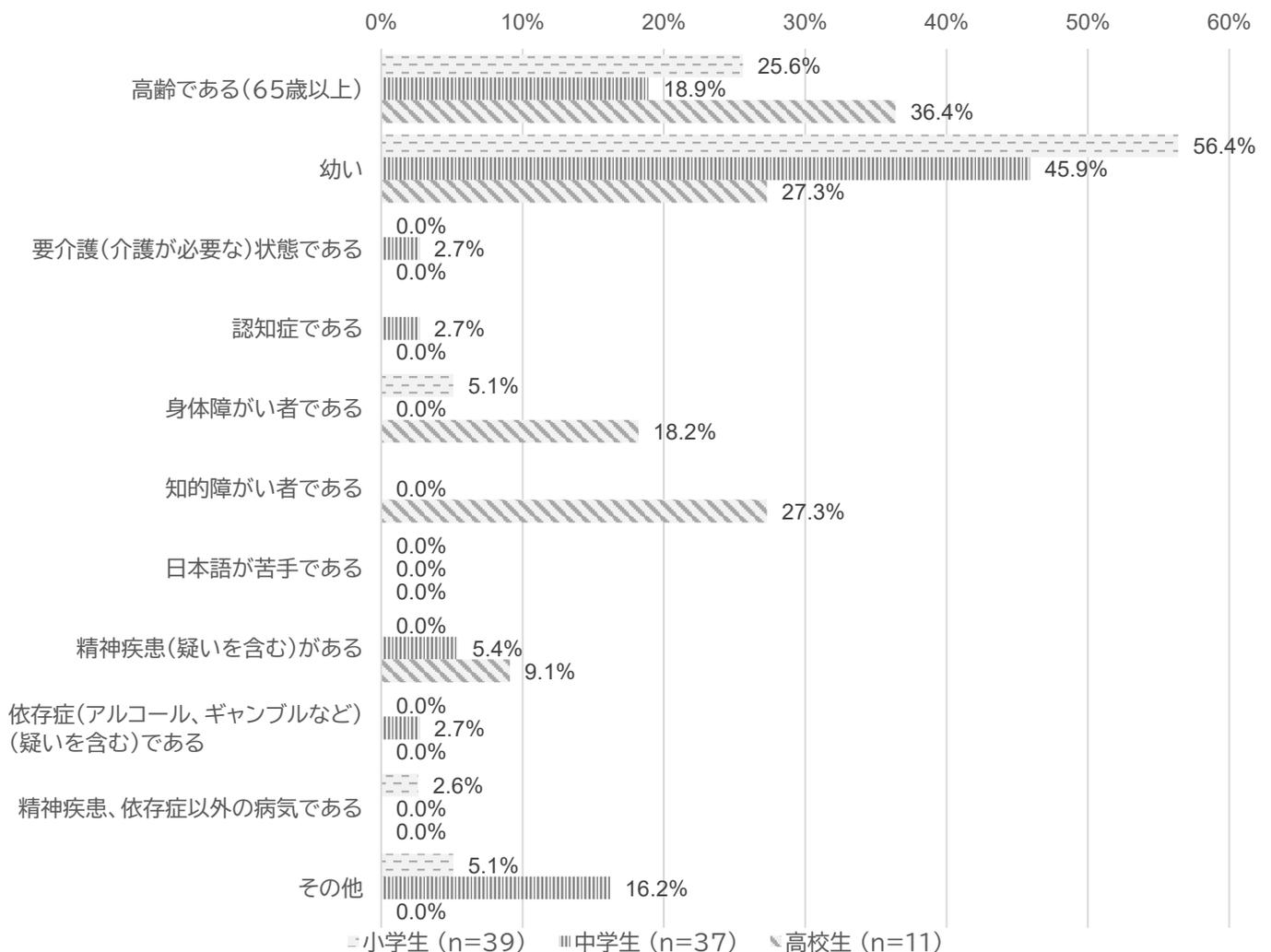
- 国の調査結果と比較すると、本市では全ての学校区分において、国よりも「祖父母」の割合が高くなっている。
- 一方で、本市では全ての学校区分において、国よりも「父母」の割合が低くなっており、特に小学生では30%以上の大きな差が生じている。
- 全ての学校区分において、「きょうだい」の割合が最も高いことは、国、本市それぞれ一致しており、高校生ではほぼ同程度の割合となっているが、小学生及び中学生について、国の調査結果では、小学生で70%、中学生で60%を超える割合となっているのに対し、本市では、どちらも50%以下となっている。

② 対象の状態（複数回答）

【図表 60】

	高齢である（65歳以上）	若い	要介護（介護が必要な）状態である	認知症である	身体障がい者である	知的障がい者である	日本語が苦手である	精神疾患（疑いを含む）がある	依存症（アルコール、ギャンブルなど）（疑いを含む）である	精神疾患、依存症以外の病気である	その他	集計対象数
上段：人 下段：%												
小学生	10 25.6	22 56.4	0 0.0	/	2 5.1	/	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.6	2 5.1	39 —
中学生	7 18.9	17 45.9	1 2.7	1 2.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 5.4	1 2.7	0 0.0	6 16.2	37 —
高校生	4 36.4	3 27.3	0 0.0	0 0.0	2 18.2	3 27.3	0 0.0	1 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 —

【図表 61】



Ⅲ お世話の状況について

- 小学生では、「高齢である（65歳以上）」が10人（25.6%）、「若い」が22人（56.4%）、「身体障がい者である」が2人（5.1%）、「精神疾患、依存症以外の病気である」が1人（2.6%）、「その他」が2人（5.1%）となっている。
- 中学生では、「高齢である（65歳以上）」が7人（18.9%）、「若い」が17人（45.9%）、「要介護（介護が必要な）状態である」が1人（2.7%）、「認知症である」が1人（2.7%）、「精神疾患（疑いを含む）がある」が2人（5.4%）、「依存症（アルコール、ギャンブルなど）（疑いを含む）である」が1人（2.7%）、「その他」が6人（16.2%）となっている。
- 高校生では、「高齢である（65歳以上）」が4人（36.4%）、「若い」が3人（27.3%）、「身体障がい者である」が2人（18.2%）、「知的障がい者である」が3人（27.3%）、「精神疾患（疑いを含む）がある」が1人（9.1%）となっている。

「その他」回答

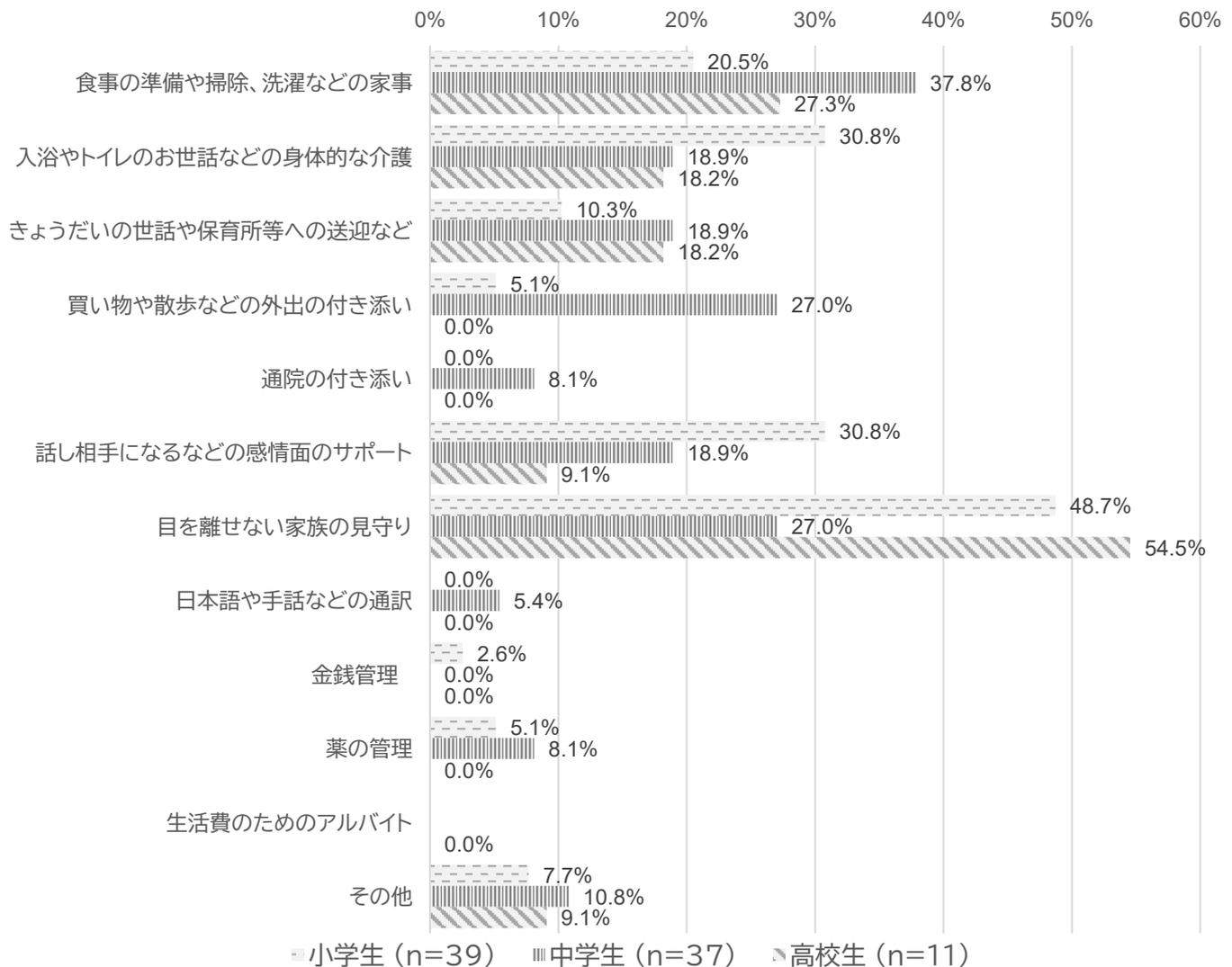
・耳が聞こえない ・学校にほぼ行っていない など

③ お世話の内容（複数回答）

【図表 62】

	の家事 食事の準備や掃除、洗濯など	身体的な介護 入浴やトイレのお世話などの	きょうだいの世話や保育所 等への送迎など	付き添い 買い物や散歩などの外出の	通院の付き添い	話し相手になるなどの感情面 のサポート	目を離せない家族の見守り	日本語や手話などの通訳	金銭管理	薬の管理	生活費のためのアルバイト	その他	集計対象数
小学生	8	12	4	2	0	12	19	0	1	2		3	39
	20.5	30.8	10.3	5.1	0.0	30.8	48.7	0.0	2.6	5.1		7.7	—
中学生	14	7	7	10	3	7	10	2	0	3		4	37
	37.8	18.9	18.9	27.0	8.1	18.9	27.0	5.4	0.0	8.1		10.8	—
高校生	3	2	2	0	0	1	6	0	0	0	0	1	11
	27.3	18.2	18.2	0.0	0.0	9.1	54.5	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	—

【図表 63】



Ⅲ お世話の状況について

- 小学生では、「食事の準備や掃除、洗濯などの家事」が 8 人 (20.5%)、「入浴やトイレのお世話などの身体的な介護」が 12 人 (30.8%)、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が 4 人 (10.3%)、「買い物や散歩などの外出の付き添い」が 2 人 (5.1%)、「話し相手になるなどの感情面のサポート」が 12 人 (30.8%)、「目を離せない家族の見守り」が 19 人 (48.7%)、「金銭管理」が 1 人 (2.6%)、「薬の管理」が 2 人 (5.1%)、「その他」が 3 人 (7.7%) となっている。
- 中学生では、「食事の準備や掃除、洗濯などの家事」が 14 人 (37.8%)、「入浴やトイレのお世話などの身体的な介護」が 7 人 (18.9%)、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が 7 人 (18.9%)、「買い物や散歩などの外出の付き添い」が 10 人 (27.0%)、「通院の付き添い」が 3 人 (8.1%)、「話し相手になるなどの感情面のサポート」が 7 人 (18.9%)、「目を離せない家族の見守り」が 10 人 (27.0%)、「日本語や手話などの通訳」が 2 人 (5.4%)、「薬の管理」が 3 人 (8.1%)、「その他」が 4 人 (10.8%) となっている。
- 高校生では、「食事の準備や掃除、洗濯などの家事」が 3 人 (27.3%)、「入浴やトイレのお世話などの身体的な介護」が 2 人 (18.2%)、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が 2 人 (18.2%)、「話し相手になるなどの感情面のサポート」が 1 人 (9.1%)、「目を離せない家族の見守り」が 6 人 (54.5%)、「その他」が 1 人 (9.1%) となっている。

「その他」回答

・身の回りの物の管理 ・ご飯の呼びかけ ・勉強面のサポート など

A 父母の状態・お世話の内容（複数回答）

【図表 64】

	高齢である（65歳以上）	幼い	要介護（介護が必要な）状態である	認知症である	身体障がい者である	知的障がい者である	日本語が苦手である	精神疾患（疑いを含む）がある	依存症（アルコール、ギャンブルなど）（疑いを含む）である	精神疾患、依存症以外の病気である	その他	集計対象数
上段：人 下段：%												
小学生	0 0.0	0 0.0	0 0.0	/	0 0.0	/	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 —
中学生	0 0.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	3 42.9	7 —
高校生	※ 無回答のため把握できず											1 —

【図表 65】

	食事の準備や掃除、洗濯などの家事	入浴やトイレのお世話などの身体的な介護	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	買い物や散歩などの外出の付き添い	通院の付き添い	話し相手になるなどの感情面のサポート	目を離せない家族の見守り	日本語や手話などの通訳	金銭管理	薬の管理	生活費のためのアルバイト	その他	集計対象数
上段：人 下段：%													
小学生	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	/	0 0.0	1 —
中学生	3 42.9	1 14.3	0 0.0	3 42.9	1 14.3	2 28.6	1 14.3	2 28.6	0 0.0	2 28.6	/	1 14.3	7 —
高校生	※ 無回答のため把握できず												1 —

- お世話の対象者が「父母」の場合、対象者は主に身体的疾患ではなく、精神疾患等の理由により子どものお世話を必要としていることが伺える。
- お世話の内容は、見守りや付き添い等にとどまらず、家事や身体的介護等の大きな負担を伴うものまで多岐に渡っている。

B 祖父母の状態・お世話の内容（複数回答）

【図表 66】

	高齢である（65歳以上）	若い	要介護（介護が必要な）状態である	認知症である	身体障がい者である	知的障がい者である	日本語が苦手である	精神疾患（疑いを含む）がある	依存症（アルコール、ギャンブルなど）（疑いを含む）である	精神疾患、依存症以外の病気である	その他	集計対象数
上段：人 下段：%												
小学生	8 100.0	0 0.0	0 0.0	/	1 12.5	/	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	8 —
中学生	6 100.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 —
高校生	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 —

【図表 67】

	食事の準備や掃除、洗濯などの家事	入浴やトイレのお世話などの身体的な介護	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	買い物や散歩などの外出の付き添い	通院の付き添い	話し相手になるなどの感情面のサポート	目を離せない家族の見守り	日本語や手話などの通訳	金銭管理	薬の管理	生活費のためのアルバイト	その他	集計対象数
上段：人 下段：%													
小学生	3 37.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 25.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	/	1 12.5	8 —
中学生	5 83.3	2 33.3	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	/	0 0.0	6 —
高校生	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 —

- お世話の対象者が「祖父母」の場合、対象者は65歳以上の高齢であり、主に介護状態や障がい等の身体的理由により子どものお世話を必要としていることが伺える。
- お世話の内容は、見守りや付き添い等にとどまらず、家事や身体的介護等の大きな負担を伴うものまで多岐に渡っている。

C きょうだいの状態・お世話の内容（複数回答）

【図表 68】

	高齢である（65歳以上）	幼い	要介護（介護が必要な）状態である	認知症である	身体障がい者である	知的障がい者である	日本語が苦手である	精神疾患（疑いを含む）がある	依存症（アルコール、ギャンブルなど）（疑いを含む）である	精神疾患、依存症以外の病気である	その他	集計対象数
上段：人 下段：%												
小学生	0	19	0		1		0	0	0	0	0	19
	0.0	100.0	0.0		5.3		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
中学生	1	13	0	0	0	0	0	1	0	0	1	16
	6.3	81.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	—
高校生	0	2	0	0	0	3	0	1	0	0	0	5
	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	—

【図表 69】

	食事の準備や掃除、洗濯などの家事	入浴やトイレのお世話などの身体的な介護	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	買い物や散歩などの外出の付き添い	通院の付き添い	話し相手になるなどの感情面のサポート	目を離せない家族の見守り	日本語や手話などの通訳	金銭管理	薬の管理	生活費のためのアルバイト	その他	集計対象数
上段：人 下段：%													
小学生	3	8	4	2	0	10	13	0	1	1		1	19
	15.8	42.1	21.1	10.5	0.0	52.6	68.4	0.0	5.3	5.3		5.3	—
中学生	4	4	6	6	1	4	7	0	0	0		1	16
	25.0	25.0	37.5	37.5	6.3	25.0	43.8	0.0	0.0	0.0		6.3	—
高校生	2	1	2	0	0	1	2	0	0	0	0	1	5
	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	—

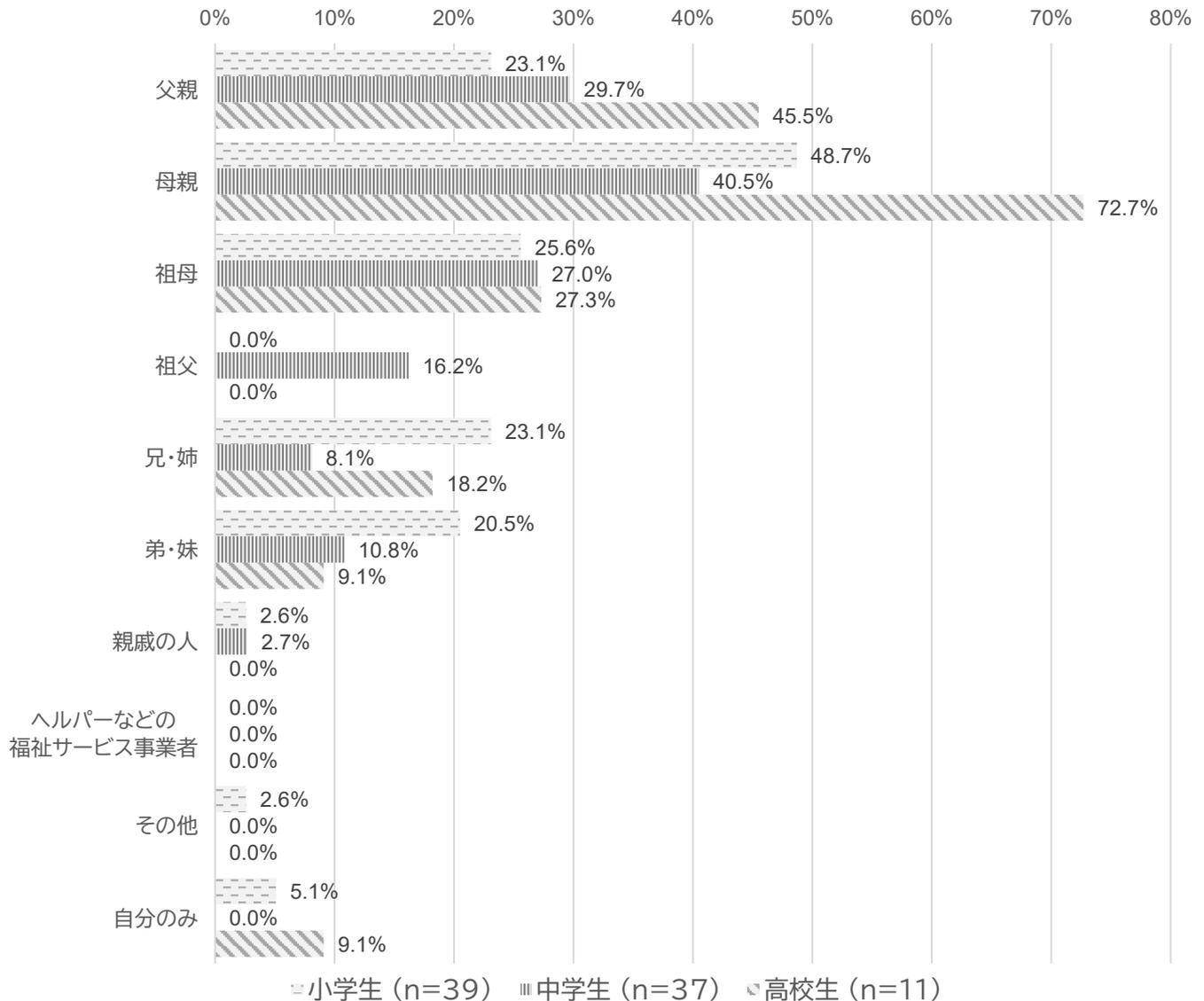
- お世話の対象者が「きょうだい」の場合、対象者は主に幼いことが理由によりお世話を必要としていることが伺える。
- お世話の内容は、見守りや付き添い等にとどまらず、家事や保育園等への送迎などの大きな負担を伴うものまで多岐に渡っている。

④ お世話を一緒にしている人（複数回答）

【図表 70】

	父親	母親	祖母	祖父	兄・姉	弟・妹	親戚の人	ヘルパーなどの福祉サービス事業者	その他	自分のみ	集計対象数
上段：人											
下段：%											
小学生	9	19	10	0	9	8	1	0	1	2	39
	23.1	48.7	25.6	0.0	23.1	20.5	2.6	0.0	2.6	5.1	—
中学生	11	15	10	6	3	4	1	0	0	0	37
	29.7	40.5	27.0	16.2	8.1	10.8	2.7	0.0	0.0	0.0	—
高校生	5	8	3	0	2	1	0	0	0	1	11
	45.5	72.7	27.3	0.0	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	—

【図表 71】



Ⅲ お世話の状況について

- 小学生では、「父親」が9人(23.1%)、「母親」が19人(48.7%)、「祖母」が10人(25.6%)、「兄・姉」が9人(23.1%)、「弟・妹」が8人(20.5%)、「親戚の人」が1人(2.6%)、「その他」が1人(2.6%)、「自分のみ」が2人(5.1%)となっている。
- 中学生では、「父親」が11人(29.7%)、「母親」が15人(40.5%)、「祖母」が10人(27.0%)、「祖父」が6人(16.2%)、「兄・姉」が3人(8.1%)、「弟・妹」が4人(10.8%)、「親戚の人」が1人(2.7%)となっている。
- 高校生では、「父親」が5人(45.5%)、「母親」が8人(72.7%)、「祖母」が3人(27.3%)、「兄・姉」が2人(18.2%)、「弟・妹」が1人(9.1%)、「自分のみ」が1人(9.1%)となっている。
- 本市では、全ての学校区分において、「母親」の割合が最も高くなっている。
- 「自分のみ」と回答したのは、小学生で2名(5.1%)、高校生で1名(9.1%)の合計3名いた。
- 全ての学校区分において、「ヘルパーなどの福祉サービス事業者」と回答した子どもがいなかった。サービスを利用できていない、あるいは利用に繋がっていない可能性がある。
- お世話を一緒にしている人について、各学校区分における上位3項目を国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 72】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
小学生	1	母親	64.2	母親	48.7
	2	父親	47.1	きょうだい	43.6
	3	きょうだい	36.0	祖母	25.6

※ 本市における「きょうだい」は、「兄・姉」及び「弟・妹」の割合の合計である。

【図表 73】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
中学生	1	母親	58.3	母親	40.5
	2	父親・きょうだい	35.7	父親	29.7
	3	祖母	16.0	祖母	27.0

※ 本市における「きょうだい」は、「兄・姉」及び「弟・妹」の割合の合計である。

【図表 74】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
高校生	1	母親	52.1	母親	72.7
	2	きょうだい	34.5	父親	45.5
	3	父親	28.3	祖母・きょうだい	27.3

※ 本市における「きょうだい」は「兄・姉」及び「弟・妹」の割合の合計である。

Ⅲ お世話の状況について

- 国と本市では、「母親」の割合が最も高くなっている点は全ての学校区分において共通しているが、国ではその割合が50%を超えている一方、本市では、高校生でのみ72.7%と50%を超えている。
- 国の調査結果では、上位3項目に中学生でのみ「祖母」が含まれているが、本市では、小学生で25.6%、中学生で27.0%、高校生で27.3%と全ての学校区分において含まれている。

「その他」回答

・親戚 など

⑤ お世話の開始年齢

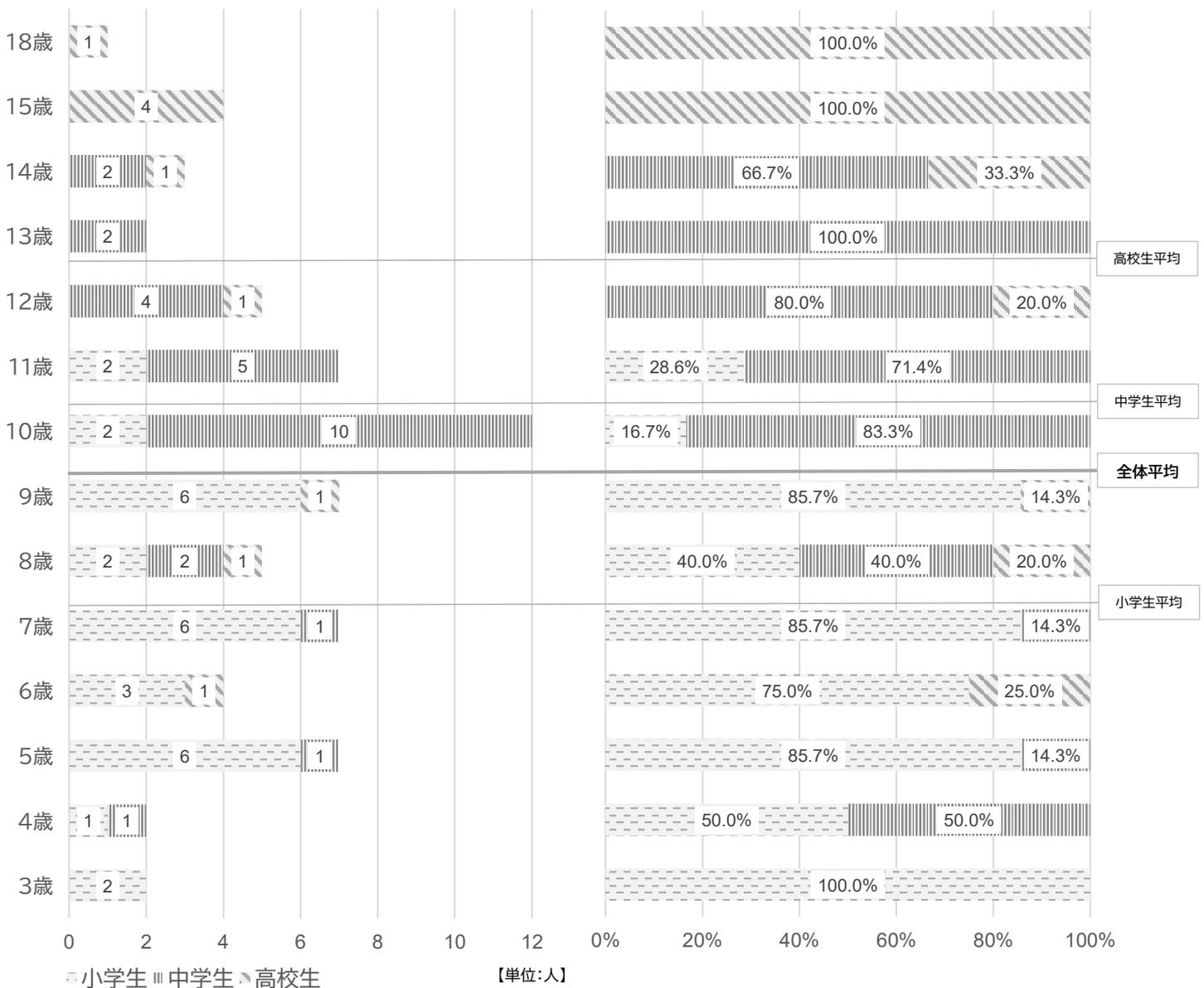
【図表 75】

	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	18	計	平均年齢
	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳		
小学生	2	1	6	3	6	2	6	2	2	0					30	7.1 歳
	6.7	3.3	20.0	10.0	20.0	6.7	20.0	6.7	6.7	0.0					100	
中学生	0	1	1	0	1	2	0	10	5	4	2	2	0		28	10.3 歳
	0.0	3.6	3.6	0.0	3.6	7.1	0.0	35.7	17.9	14.3	7.1	7.1	0.0		100	
高校生	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	1	4	1	10	12.7 歳
	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	40.0	10.0	100	
全体	2	2	7	4	7	5	7	12	7	5	2	3	4	1	68	9.2 歳
	2.9	2.9	10.3	5.9	10.3	7.4	10.3	17.6	10.3	7.4	2.9	4.4	5.9	1.5	100	

※ 有効回答のみ計上しているため、計の人数が他の設問と一致しない。

【図表 76】

【図表 77】



- 全体を通して 10 歳が 12 人と最も多い。
- 世話を始めた年齢について、本市では小学生で平均 7.1 歳、中学生で 10.3 歳、高校生で 12.7 歳となっている。
- 世話を始めた平均年齢について、学校区分ごとに、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 78】

区分	国	本市	比較
小学生	公表なし	7.1 歳	—
中学生	9.9 歳	10.3 歳	↑
高校生	12.2 歳	12.7 歳	↑

- 世話を始めた年齢をカテゴリー化し、学校区分ごとに、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 79】

区分	就学前			小学生（低学年）		
	国	本市	比較	国	本市	比較
小学生	17.3%	40.0%	↑	30.9%	46.7%	↑
中学生	8.8%	7.2%	↓	16.3%	10.7%	↓
高校生	6.2%	10.0%	↑	9.4%	20.0%	↑
区分	小学生（高学年）			中学生以降		
	国	本市	比較	国	本市	比較
小学生	40.4%	13.4%	↓	—	—	—
中学生	34.2%	67.9%	↑	12.5%	14.2%	↑
高校生	13.0%	10.0%	↓	37.8%	60.0%	↑

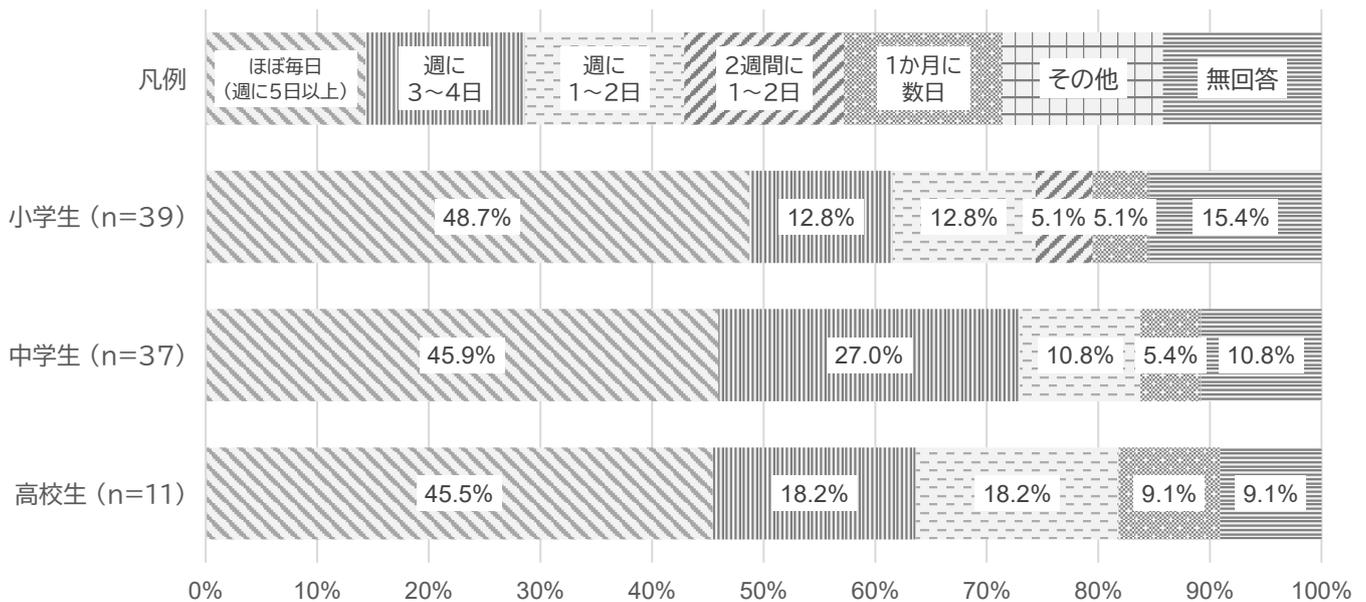
- 国の調査結果において、小学生では「小学生（高学年）」が 40.4%と最も高くなっており、年齢が上がるにつれて割合が増加していることが分かる。
- 一方、本市では、小学生で「小学生（低学年）」が 46.7%と最も高く、次いで「就学前」40.0%となっていることから、お世話の開始が国よりも低年齢化している傾向がある。
- 国の調査結果において、中学生では、「小学生（高学年）」が 34.2%と最も多く、次いで「小学生（低学年）」が 16.3%、「中学生以降」が 12.5%となっており、「就学前」が 8.8%と最も低くなっている。
- 本市では中学生で「小学生（高学年）」が 67.9%と最も高く、次いで「中学生以降」が 14.2%、「小学生（低学年）」が 10.7%となっており、「就学前」が 7.2%と最も低くなっている。
- 国の調査結果において、高校生では「中学生以降」が 60.0%と最も高く、次いで「小学生（低学年）」が 20.0%、「就学前」及び「小学生（高学年）」が 10.0%となっている。
- 全体として、本市では、小学生は国の調査結果よりも低年齢でお世話を開始し、中学生は「小学生（高学年）」、高校生は「中学生以降」に集中していることが分かる。

⑥ お世話の頻度

【図表 80】

	ほぼ毎日 (週に5日以上)	週に3～4日	週に1～2日	2週間に1～2日	1か月に数日	その他	無回答	計
上段：人	19	5	5	2	2	0	6	39
下段：%	48.7	12.8	12.8	5.1	5.1	0.0	15.4	100.0
小学生	17	10	4	0	2	0	4	37
中学生	45.9	27.0	10.8	0.0	5.4	0.0	10.8	100.0
高校生	5	2	2	0	1	0	1	11
高校生	45.5	18.2	18.2	0.0	9.1	0.0	9.1	100.0

【図表 81】



- 小学生では、「ほぼ毎日 (週に5日以上)」が19人 (48.7%)、「週に3～4日」が5人 (12.8%)、「週に1～2日」が5人 (12.8%)、「2週間に1～2日」が2人 (5.1%)、「1か月に数日」が2人 (5.1%)、「無回答」が6人 (15.4%) となっている。
- 中学生では、「ほぼ毎日 (週に5日以上)」が17人 (45.9%)、「週に3～4日」が10人 (27.0%)、「週に1～2日」が4人 (10.8%)、「1か月に数日」が2人 (5.4%)、「無回答」が4人 (10.8%) となっている。
- 高校生では、「ほぼ毎日 (週に5日以上)」が5人 (45.5%)、「週に3～4日」が2人 (18.2%)、「週に1～2日」が2人 (18.2%)、「1か月に数日」が1人 (9.1%)、「無回答」が1人 (9.1%) となっている。

Ⅲ お世話の状況について

- 全ての学校区分において、「ほぼ毎日（週に5日以上）」の割合が最も高く、その割合は45%を超え、半数近くを占めている。
- 全ての学校区分において、「無回答」を除くと、「ほぼ毎日（週に5日以上）」に次いで、「週に3～4日」、「週に1～2日」の順となっている。
- 1週間のうち1日でもお世話をしている子どもの割合について、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 82】

区分	国	本市	比較
小学生	83.3%	74.3%	↓
中学生	77.4%	83.7%	↑
高校生	74.9%	81.9%	↑

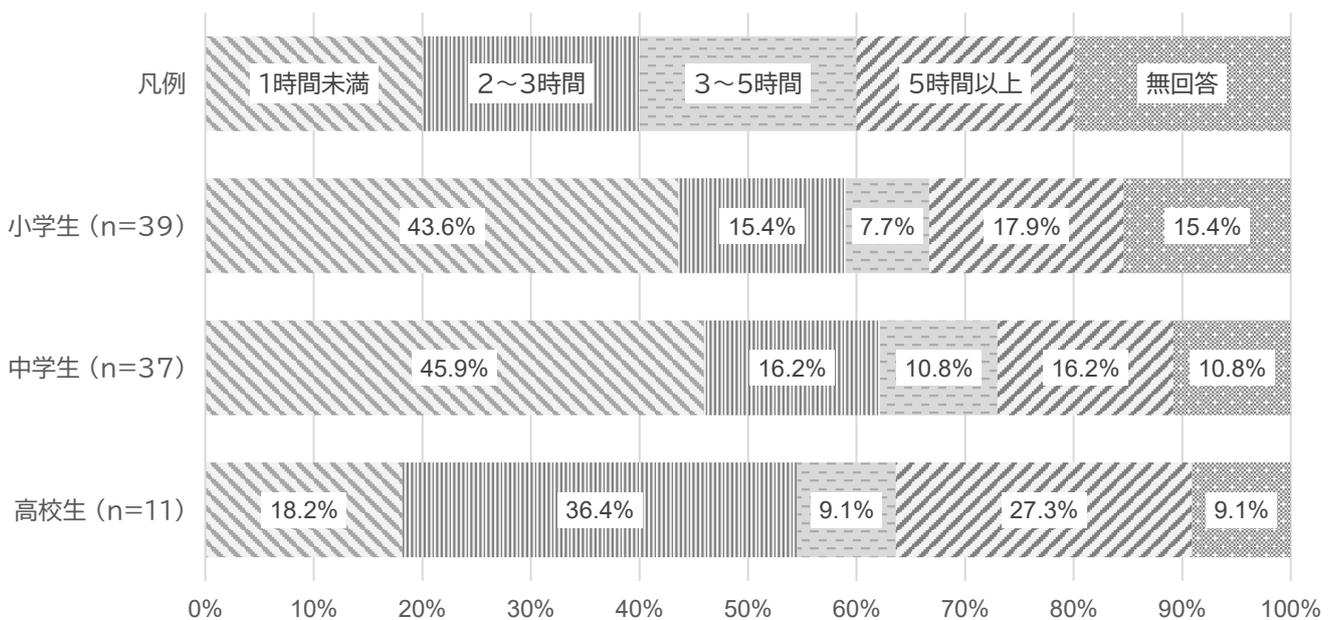
- 国の調査結果と比較すると、1週間のうち1日でもお世話をしている子どもの割合は、小学生で74.3%と国の83.3%よりも低いものの、中学生では83.7%、高校生では81.9%と国よりも高くなっている。
- 国の調査結果では、1週間のうち1日でもお世話をしている子どもの割合は、学年が上がるにつれて減少しているが、本市ではその傾向は見られず、むしろ増加に近い状況である。

⑦ 平日 1 日あたりのお世話の時間

【図表 83】

上段：人 下段：%	1 時間 未 満	2 ～ 3 時 間	3 ～ 5 時 間	5 時 間 以 上	無 回 答	計
小学生	17 43.6	6 15.4	3 7.7	7 17.9	6 15.4	39 100.0
中学生	17 45.9	6 16.2	4 10.8	6 16.2	4 10.8	37 100.0
高校生	2 18.2	4 36.4	1 9.1	3 27.3	1 9.1	11 100.0

【図表 84】



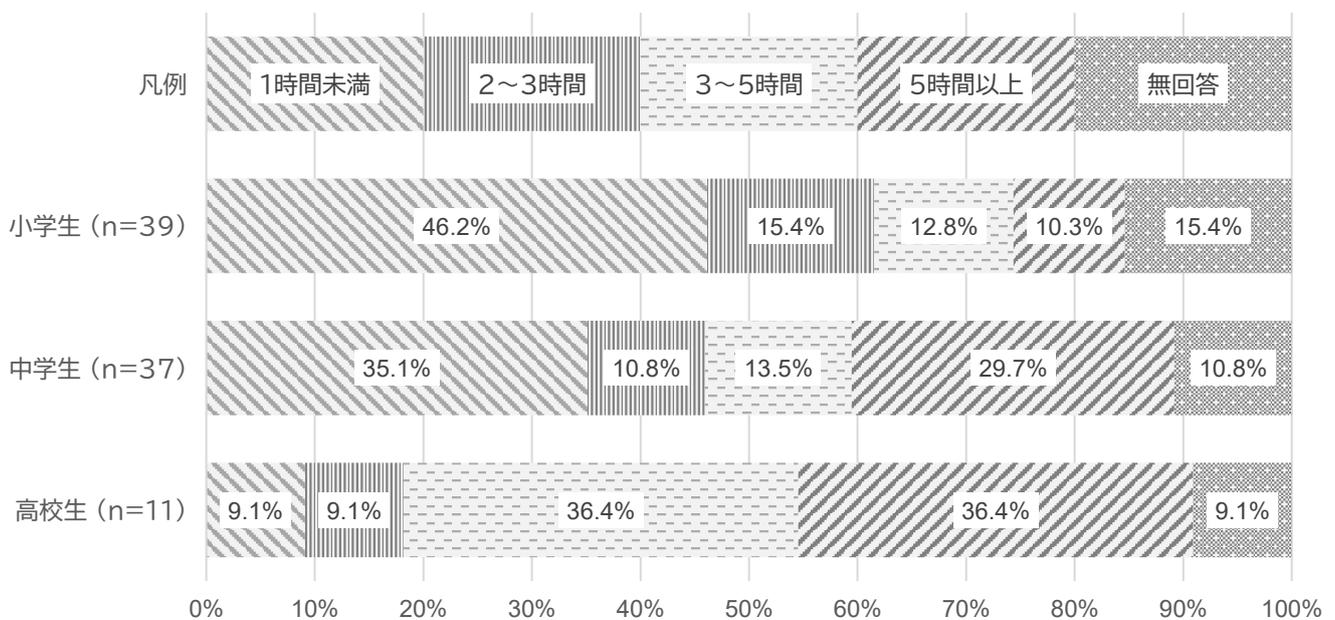
- 小学生では、「1時間未満」が17人(43.6%)、「2～3時間」が6人(15.4%)、「3～5時間」が3人(7.7%)、「5時間以上」が7人(17.9%)、「無回答」が6人(15.4%)となっている。
- 中学生では、「1時間未満」が17人(45.9%)、「2～3時間」が6人(16.2%)、「3～5時間」が4人(10.8%)、「5時間以上」が6人(16.2%)、「無回答」が4人(10.8%)となっている。
- 高校生では、「1時間未満」が2人(18.2%)、「2～3時間」が4人(36.4%)、「3～5時間」が1人(9.1%)、「5時間以上」が3人(27.3%)、「無回答」が1人(9.1%)となっている。

⑧ 休日 1 日あたりのお世話の時間

【図表 85】

上段：人 下段：%	1 時間 未 満	2 ～ 3 時 間	3 ～ 5 時 間	5 時 間 以 上	無 回 答	計
小学生	18 46.2	6 15.4	5 12.8	4 10.3	6 15.4	39 100.0
中学生	13 35.1	4 10.8	5 13.5	11 29.7	4 10.8	37 100.0
高校生	1 9.1	1 9.1	4 36.4	4 36.4	1 9.1	11 100.0

【図表 86】



- 小学生では、「1時間未満」が18人(46.2%)、「2～3時間」が6人(15.4%)、「3～5時間」が5人(12.8%)、「5時間以上」が4人(10.3%)、「無回答」が6人(15.4%)となっている。
- 中学生では、「1時間未満」が13人(35.1%)、「2～3時間」が4人(10.8%)、「3～5時間」が5人(13.5%)、「5時間以上」が11人(29.7%)、「無回答」が4人(10.8%)となっている。
- 高校生では、「1時間未満」が1人(9.1%)、「2～3時間」が1人(9.1%)、「3～5時間」が4人(36.4%)、「5時間以上」が4人(36.4%)、「無回答」が1人(9.1%)となっている。

1日あたりのお世話の時間（平日及び休日比較）

【図表 87】

上段：人 下段：%	1時間未満		2～3時間		3～5時間		5時間以上		無回答		集計 対象数
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	
小学生	17	18	6	6	3	5	7	4	6	6	39
	43.6	46.2	15.4	15.4	7.7	12.8	17.9	10.3	15.4	15.4	—
中学生	17	13	6	4	4	5	6	11	4	4	37
	45.9	35.1	16.2	10.8	10.8	13.5	16.2	29.7	10.8	10.8	—
高校生	2	1	4	1	1	4	3	4	1	1	11
	18.2	9.1	36.4	9.1	9.1	36.4	27.3	36.4	9.1	9.1	—

- 本市における子どものお世話の時間を平日と休日で比較してみると、小学生では、「1時間未満」及び「3～5時間」の割合が休日になると増加し、「5時間以上」の割合が減少する。
- 一方、中学生及び高校生では、「3～5時間」及び「5時間以上」の割合が増加し、「1時間未満」及び「2～3時間」の割合が減少する。
- 学年が上がるにつれて、平日よりも休日の方がお世話をしている時間が長くなる傾向にあることが伺える。

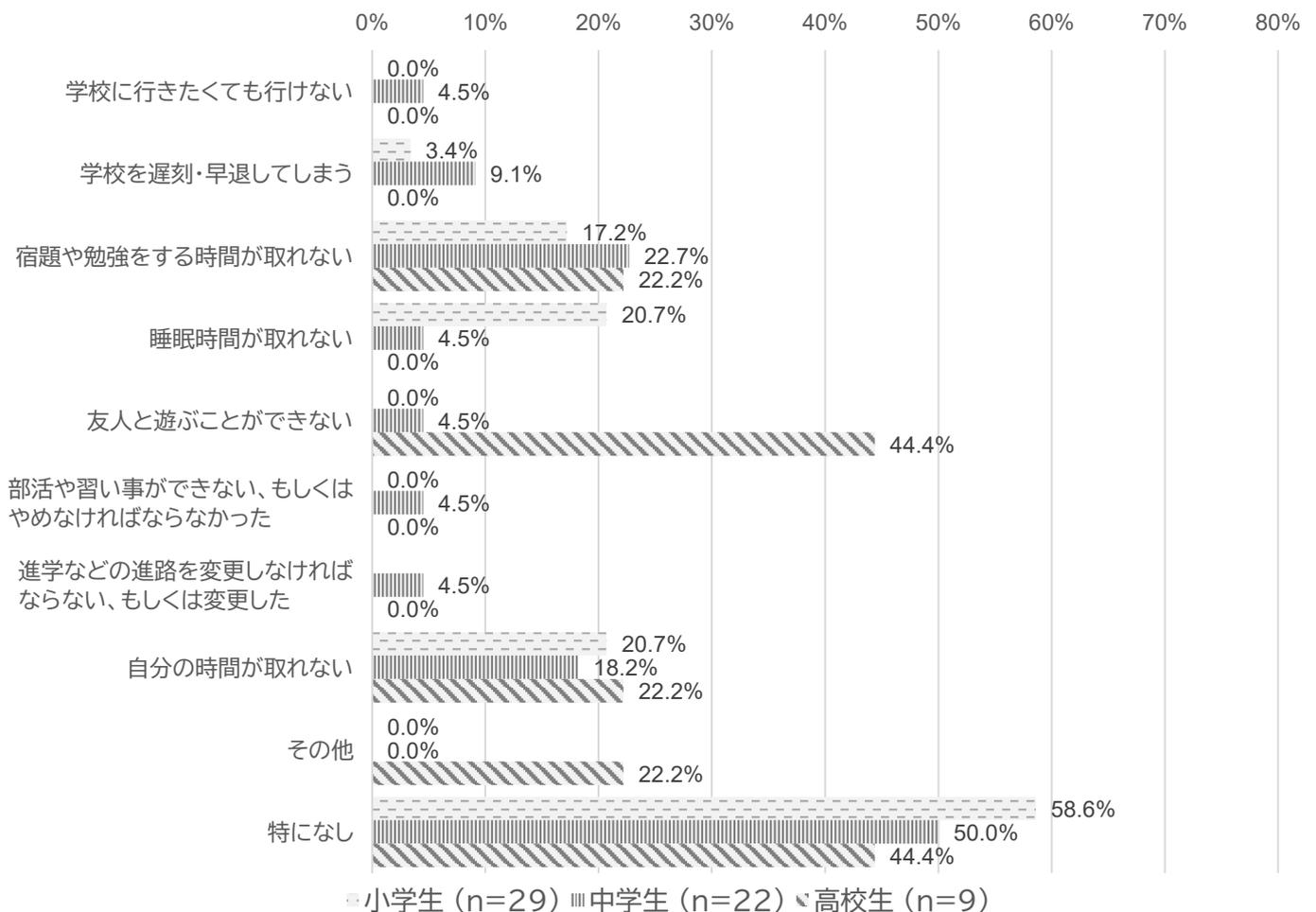
問 18 お世話をしていることで、やりたいけどできないこと（複数回答）

（問 16 で「同じ家に住んでいる家族の中にいる」または「同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる」を選択した場合のみ回答）

【図表 88】

	学校に行きたくても行けない	学校を遅刻・早退してしまう	宿題や勉強をする時間が取れない	睡眠時間が取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくはやめなければならなかった	進学などの進路を変更しなければならぬ、もしくは変更した	自分の時間が取れない	その他	特になし	集計対象数
上段：人	0	1	5	6	0	0		6	0	17	29
下段：%	0.0	3.4	17.2	20.7	0.0	0.0		20.7	0.0	58.6	—
小学生	1	2	5	1	1	1	1	4	0	11	22
中学生	4.5	9.1	22.7	4.5	4.5	4.5	4.5	18.2	0.0	50.0	—
高校生	0	0	2	0	4	0	0	2	2	4	9
	0.0	0.0	22.2	0.0	44.4	0.0	0.0	22.2	22.2	44.4	—

【図表 89】



Ⅲ お世話の状況について

- 小学生では、「学校を遅刻・早退してしまう」が1人(3.4%)、「宿題や勉強をする時間が取れない」が5人(17.2%)、「睡眠時間が取れない」が6人(20.7%)、「自分の時間が取れない」が6人(20.7%)、「特になし」が17人(58.6%)となっている。
- 中学生では、「学校に行きたくても行けない」が1人(4.5%)、「学校を遅刻・早退してしまう」が2人(9.1%)、「宿題や勉強をする時間が取れない」が5人(22.7%)、「睡眠時間が取れない」が1人(4.5%)、「友人と遊ぶことができない」が1人(4.5%)、「部活や習い事ができない、もしくはやめなければならなかった」が1人(4.5%)、「進学などの進路を変更しなければならない、もしくは変更した」が1人(4.5%)、「自分の時間が取れない」が4人(18.2%)、「特になし」が11人(50.0%)となっている。
- 高校生では、「宿題や勉強をする時間が取れない」が2人(22.2%)、「友人と遊ぶことができない」が4人(44.4%)、「自分の時間が取れない」が2人(22.2%)、「その他」が2人(22.2%)、「特になし」が4人(44.4%)となっている。
- お世話をしていることで、やりたいけどできないことについて、各学校区分における上位3項目を国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 90】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
小学生	1	特になし	63.9	特になし	58.6
	2	自分の時間が取れない	15.1	・睡眠時間が取れない ・自分の時間が取れない	20.7
	3	友だちと遊ぶことができない	10.1	宿題や勉強をする時間が取れない	17.2

【図表 91】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
中学生	1	特になし	58.0	特になし	50.0
	2	自分の時間が取れない	20.1	宿題や勉強をする時間が取れない	22.7
	3	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	16.0	自分の時間が取れない	18.2

【図表 92】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
高校生	1	特になし	52.1	・友人と遊ぶことができない ・特になし	44.4
	2	自分の時間が取れない	16.6	・宿題や勉強をする時間が取れない ・自分の時間が取れない ・その他	22.2
	3	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	13.0		

Ⅲ お世話の状況について

- 国の調査結果と比較すると、小学生では、「特になし」が最も多く、次いで「自分の時間が取れない」が多い点は一致している。
- 中学生では、「特になし」の割合が最も多い点で国と一致しており、その他の項目も順番が異なるが一致している。
- 高校生では、「特になし」の割合が最も多い点で国と一致しているが、本市では「友人と遊ぶことができない」も同様に最も多くなっている。
- 「特になし」を除き、小学生では、宿題や睡眠時間などの必要な時間が上手く取ることが難しい傾向がある。
- 中学生では、お世話の影響でできないと感じていることが多岐に渡っている。
- 高校生は、小学生と同様に、時間が上手く取れないことに加えて、「友人と遊ぶことができない」の回答が多くなっている。

「その他」回答

・自分の存在意義を探すこと など

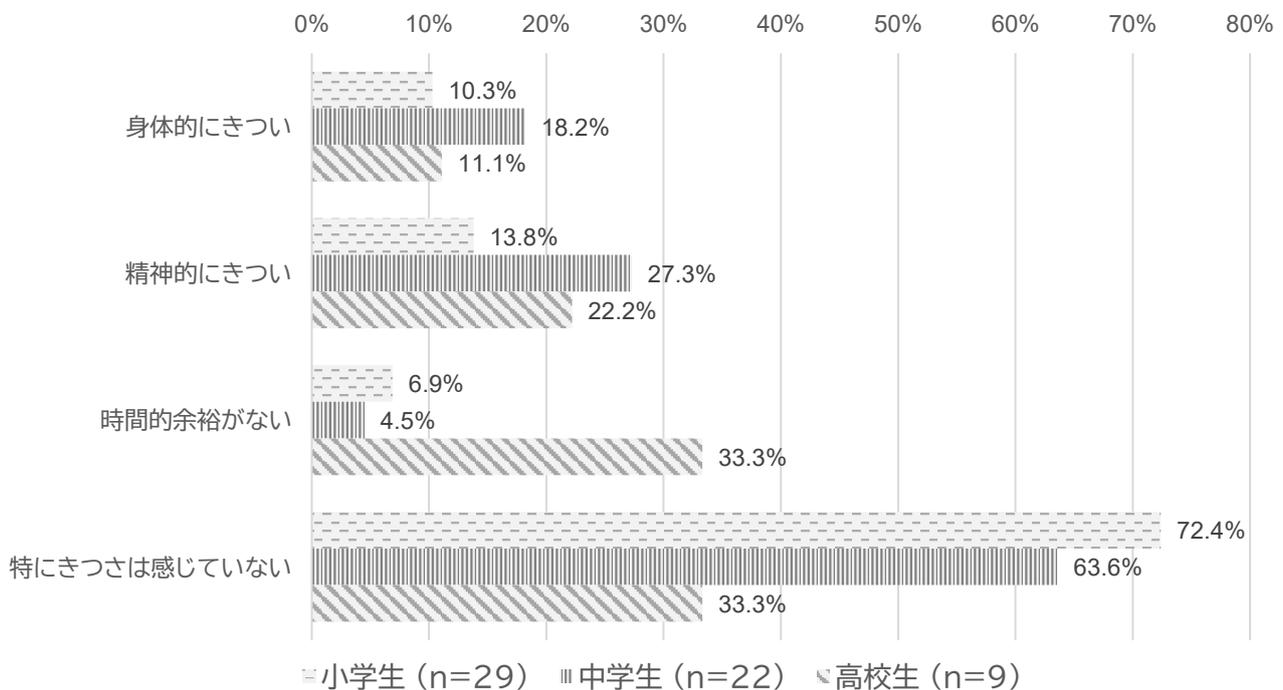
問 19 お世話の負担（複数回答）

（問 16 で「同じ家に住んでいる家族の中にいる」または「同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる」を選択した場合のみ回答）

【図表 93】

	身体的 にきつい	精神的 にきつい	時間的 余裕がない	特に きつさは 感じて いない	集計 対象 数
上段：人 下段：%					
小学生	3 10.3	4 13.8	2 6.9	21 72.4	29 —
中学生	4 18.2	6 27.3	1 4.5	14 63.6	22 —
高校生	1 11.1	2 22.2	3 33.3	3 33.3	9 —

【図表 94】



- 小学生では、「身体的にきつい」が3人（10.3%）、「精神的にきつい」が4人（13.8%）、「時間的余裕がない」が2人（6.9%）、「特にきつさは感じていない」が21人（72.4%）となっている。
- 中学生では、「身体的にきつい」が4人（18.2%）、「精神的にきつい」が6人（27.3%）、「時間的余裕がない」が1人（4.5%）、「特にきつさは感じていない」が14人（63.6%）となっている。
- 高校生では、「身体的にきつい」が1人（11.1%）、「精神的にきつい」が2人（22.2%）、「時間的余裕がない」が3人（33.3%）、「特にきつさは感じていない」が3人（33.3%）となっている。

- お世話の負担について、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 95】

区分	身体的にきつい			精神的にきつい		
	国	本市	比較	国	本市	比較
小学生	13.9%	10.3%	↓	18.4%	13.8%	↓
中学生	6.6%	18.2%	↑	15.0%	27.3%	↑
高校生	6.5%	11.1%	↑	19.9%	22.2%	↑
区分	時間的余裕がない			特にきつさは感じていない		
	国	本市	比較	国	本市	比較
小学生	14.6%	6.9%	↓	57.4%	72.4%	↑
中学生	16.0%	4.5%	↓	60.5%	63.6%	↑
高校生	16.9%	33.3%	↑	52.1%	33.3%	↓

- 国の調査結果と比較すると、本市では、小学生は「特にきつさは感じていない」の割合が 72.4%と国よりも高く、身体的等のきつさを感じている児童の割合は全体として低い。
- 本市では、中学生は、「特にきつさは感じていない」の割合が 63.6%と国よりもわずかに高くなっており、負担については、「時間的余裕がない」が 4.5%と国よりも低いが、「身体的にきつい」及び「精神的にきつい」の割合が国よりも高くなっている。
- 本市では、高校生は、「特にきつさは感じていない」の割合が 33.3%と国よりも大幅に低く、身体的等のきつさを感じている生徒の割合は全体として高い傾向にある。

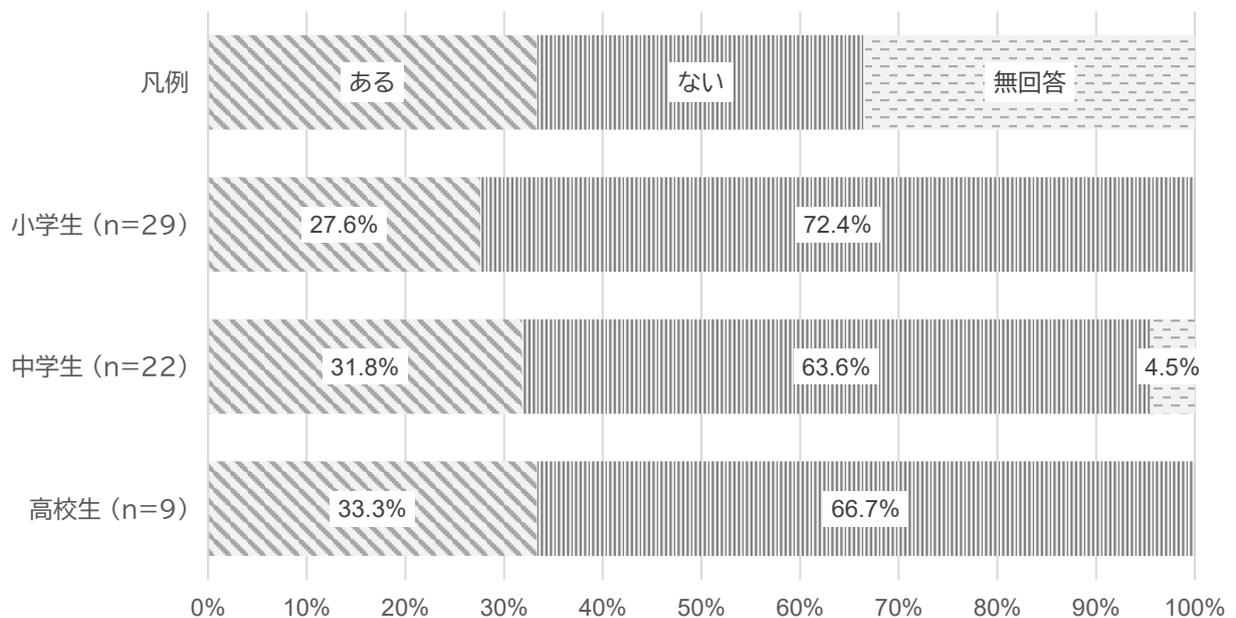
問 20 お世話に関する悩み等の相談経験の有無

(問 16 で「同じ家に住んでいる家族の中にいる」または「同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる」を選択した場合のみ回答)

【図表 96】

上段：人 下段：%	ある	ない	無回答	計
小学生	8 27.6	21 72.4	0 0.0	29 100.0
中学生	7 31.8	14 63.6	1 4.5	22 100.0
高校生	3 33.3	6 66.7	0 0.0	9 100.0

【図表 97】



- 小学生では、「ある」が 8 人 (27.6%)、「ない」が 21 人 (72.4%) となっている。
- 中学生では、「ある」が 7 人 (31.8%)、「ない」が 14 人 (63.6%)、「無回答」が 1 人 (4.5%) となっている。
- 高校生では、「ある」が 3 人 (33.3%)、「ない」が 6 人 (66.7%) となっている。

Ⅲ お世話の状況について

- お世話に関する悩み等の相談経験の有無について、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 98】

区分	ある			ない		
	国	本市	比較	国	本市	比較
小学生	17.3%	27.6%	↑	76.1%	72.4%	↓
中学生	21.6%	31.8%	↑	67.7%	63.6%	↓
高校生	23.5%	33.3%	↑	64.2%	66.7%	↑

- 国の調査結果と比較すると、本市では全ての学校区分において、お世話に関する悩み等の相談経験が「ある」子どもの割合が国よりも高くなっている。
- 一方で、お世話に関する悩み等の相談経験が「ない」子どもの割合は、小学生及び中学生で国よりも低く、高校生ではわずかに高くなっている。

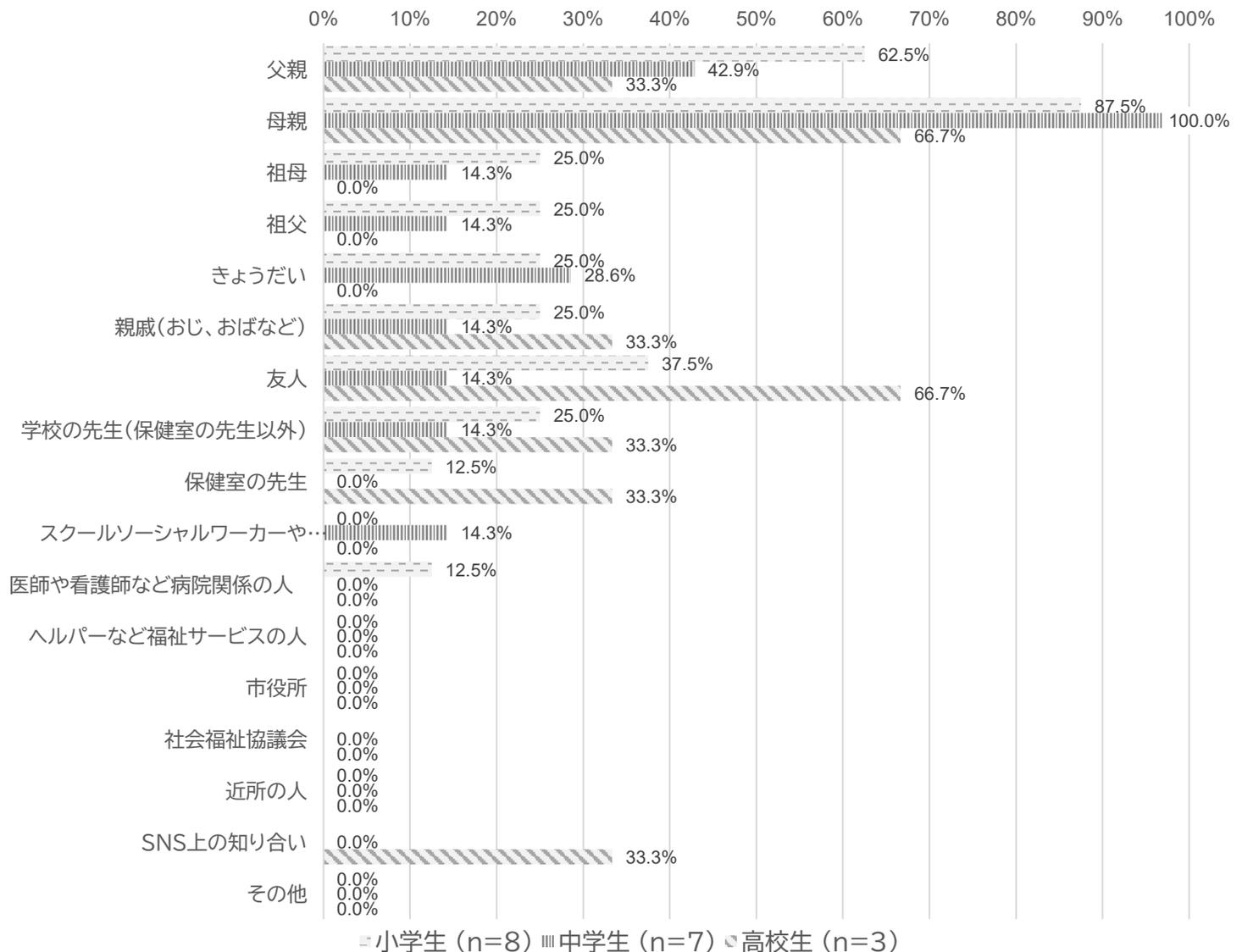
問 21 お世話に関する悩み等の相談をした相手（複数回答）

（問 16 で「同じ家に住んでいる家族の中にいる」または「同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる」を選択し、かつ問 20 で「ある」を選択した場合のみ回答）

【図表 99】

	父親	母親	祖母	祖父	きょうだい	親戚（おじ、おばなど）	友人	学校の先生（保健室の先生以外）	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	医師や看護師など病院関係の人	ヘルパーなど福祉サービスの人	市役所	社会福祉協議会	近所の人	SNS上の知り合い	その他	集計対象数
小学生	5 62.5	7 87.5	2 25.0	2 25.0	2 25.0	2 25.0	3 37.5	2 25.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	/	0 0.0	/	0 0.0	8 —
中学生	3 42.9	7 100	1 14.3	1 14.3	2 28.6	1 14.3	1 14.3	1 14.3	0 0.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 —
高校生	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	2 66.7	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	3 —

【図表 100】



Ⅲ お世話の状況について

- 小学生では、「父親」が5人(62.5%)、「母親」が7人(87.5%)、「祖母」が2人(25.0%)、「祖父」が2人(25.0%)、「きょうだい」が2人(25.0%)、「親戚(おじ、おばなど)」が2人(25.0%)、「友人」が3人(37.5%)、「学校の先生(保健室の先生以外)」が2人(25.0%)、「保健室の先生」が1人(12.5%)、「医師や看護師など病院関係の人」が1人(12.5%)となっている。
- 中学生では、「父親」が3人(42.9%)、「母親」が7人(100.0%)、「祖母」が1人(14.3%)、「祖父」が1人(14.3%)、「きょうだい」が2人(28.6%)、「親戚(おじ、おばなど)」が1人(14.3%)、「友人」が1人(14.3%)、「学校の先生(保健室の先生以外)」が1人(14.3%)、「スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー」が1人(14.3%)となっている。
- 高校生では、「父親」が1人(33.3%)、「母親」が2人(66.7%)、「親戚(おじ、おばなど)」が1人(33.3%)、「友人」が2人(66.7%)、「学校の先生(保健室の先生以外)」が1人(33.3%)、「保健室の先生」が1人(33.3%)、「SNS上の知り合い」が1人(33.3%)となっている。
- 本市では、全ての学校区分において、「母親」の割合が最も高くなっている。
- お世話に関する悩み等の相談をした相手について、国の調査結果における各学校区分の上位3項目は、次のとおりである。

【図表 101】

区分	No	国	(%)
小学生	1	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	78.9
	2	友人	40.4
	3	学校の先生(保健室の先生以外)	13.8

【図表 102】

区分	No	国	(%)
中学生	1	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	69.6
	2	友人	40.6
	3	学校の先生(保健室の先生以外)	13.0

【図表 103】

区分	No	国	(%)
高校生	1	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	69.4
	2	友人	47.2
	3	学校の先生(保健室の先生以外)	18.1

- 国の調査結果では、全ての学校区分において、「家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)」が最も割合が高く、次いで「友人」、「学校の先生(保健室の先生以外)」の順となっている。
- 本市の調査結果を見ると、回答者数が少ないため、割合には多少差があるが、国の結果に近い傾向にあることが伺える。

Ⅲ お世話の状況について

- 全ての学校区分において、国及び本市どちらも家族や友人など自分の身近な人に相談した割合が最も高く、次いで学校関係者、SNS 上での知り合いなどとなっており、市役所等の公的な相談窓口を利用したことはほぼなく、本市においては一人もいなかった。
- 全ての学校区分において、国及び本市どちらもヘルパーなど福祉サービスの人と回答する子どもが一人もいなかったことから、福祉サービスを利用できていない、あるいは利用できるサービスを知らない可能性がある。

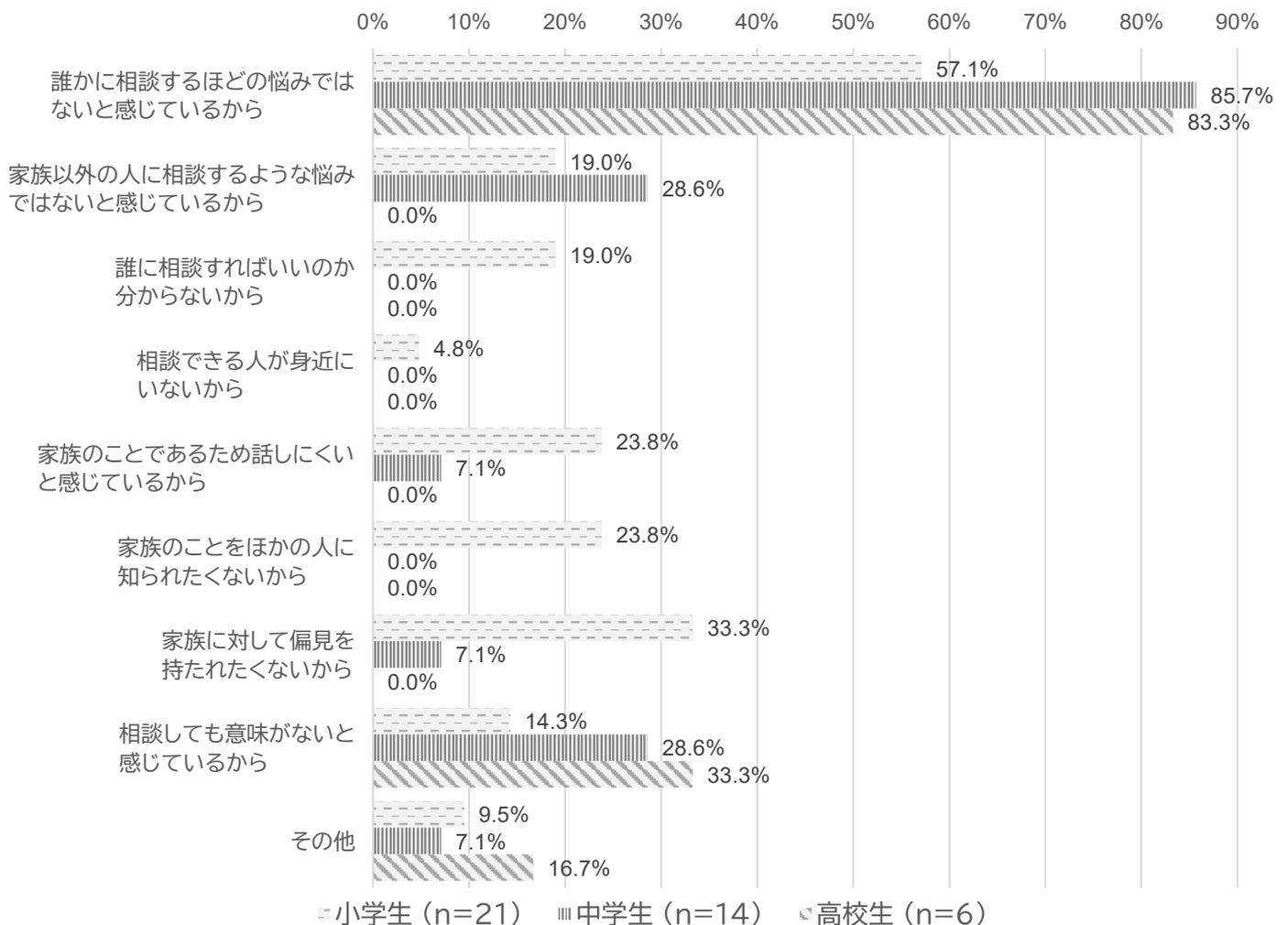
問 22① お世話に関する悩み等を相談していない理由（複数回答）

（問 16 で「同じ家に住んでいる家族の中にいる」または「同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる」を選択し、かつ問 20 で「ない」を選択した場合のみ回答）

【図表 104】

	誰かに相談するほどの悩みではないと感じているから	家族以外の人に相談するような悩みではないと感じているから	誰に相談すればいいのかわからないから	相談できる人が身近にいないから	家族のことであるため話しくいと 感じているから	家族のことをほかの人に知られたくないから	家族に対して偏見を持たれたくないから	相談しても意味がないと感じているから	その他	集計対象数
										上段：人
小学生	12	4	4	1	5	5	7	3	2	21
	57.1	19.0	19.0	4.8	23.8	23.8	33.3	14.3	9.5	—
中学生	12	4	0	0	1	0	1	4	1	14
	85.7	28.6	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	28.6	7.1	—
高校生	5	0	0	0	0	0	0	2	1	6
	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	—

【図表 105】



Ⅲ お世話の状況について

- 小学生では、「誰かに相談するほどの悩みではないと感じているから」が12人(57.1%)、「家族以外の人に相談するような悩みではないと感じているから」が4人(19.0%)、「誰に相談すればいいのか分からないから」が4人(19.0%)、「相談できる人が身近にいないから」が1人(4.8%)、「家族のことであるため話にくいと感じているから」が5人(23.8%)、「家族のことをほかの人に知られたくないから」が5人(23.8%)、「家族に対して偏見を持たれたくないから」が7人(33.3%)、「相談しても意味がないと感じているから」が3人(14.3%)、「その他」が2人(9.5%)となっている。
- 中学生では、「誰かに相談するほどの悩みではないと感じているから」が12人(85.7%)、「家族以外の人に相談するような悩みではないと感じているから」が4人(28.6%)、「家族のことであるため話にくいと感じているから」が1人(7.1%)、「家族に対して偏見を持たれたくないから」が1人(7.1%)、「相談しても意味がないと感じているから」が4人(28.6%)、「その他」が1人(7.1%)となっている。
- 高校生では、「誰かに相談するほどの悩みではないと感じているから」が5人(83.3%)、「相談しても意味がないと感じているから」が2人(33.3%)、「その他」が1人(16.7%)となっている。
- お世話に関する悩み等を相談していない理由について、各学校区分における上位3項目を国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 106】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
小学生	1	相談するほどの悩みではないから	72.7	誰かに相談するほどの悩みではないと感じているから	57.1
	2	相談しても何も変わらないから	13.3	家族に対して偏見を持たれたくないから	33.3
	3	家族のことを話したくないから	5.4	・家族のことであるため話にくいと感じているから ・家族のことをほかの人に知られたくないから	23.8

【図表 107】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
中学生	1	誰かに相談するほどの悩みではない	74.5	誰かに相談するほどの悩みではないと感じているから	85.7
	2	相談しても状況が変わると思わない	24.1	・家族以外の人に相談するような悩みではないと感じているから ・相談しても意味がないと感じているから	28.6
	3	家族外の人に相談するような悩みではない	15.3	・家族のことであるため話にくいと感じているから ・家族に対して偏見を持たれたくないから ・その他	7.1

【図表 108】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
高校生	1	誰かに相談するほどの悩みではない	65.0	誰かに相談するほどの悩みではないと感じているから	83.3
	2	相談しても状況が変わると思わない	22.8	相談しても意味がないと感じているから	33.3
	3	家族外の人に相談するような悩みではない	17.8	その他	16.7

- 「誰かに相談するほどの悩みではない」の割合が、国及び本市どちらにおいても、最も高くなっている。
- 国の調査結果では、全ての学校区分において、「誰かに相談するほどの悩みではない」に次いで、「相談しても状況が変わると思わない」の割合が高くなっている。
- 本市では、全ての学校区分において、「誰かに相談するほどの悩みではない」の割合が最も高くなっている点で国と一致している
- 本市では、小学生は「誰かに相談するほどの悩みではない」に次いで、「家族に対して偏見を持たれたくないから」の割合が高くなっており、それ以降についても「家族」に関する理由の割合が高くなる傾向にある。
- 本市では、中学生においても、小学生と同様に「家族」に関する理由の割合が高くなっている。
- 一方、高校生では、上位2項目の内容は国の調査結果と一致しているが、それぞれの割合は国よりも高くなっており、小学生及び中学生とは異なり、「家族」に関する理由については、回答者がいなかった。

「その他」回答

・他の人に迷惑を掛けたくないから など

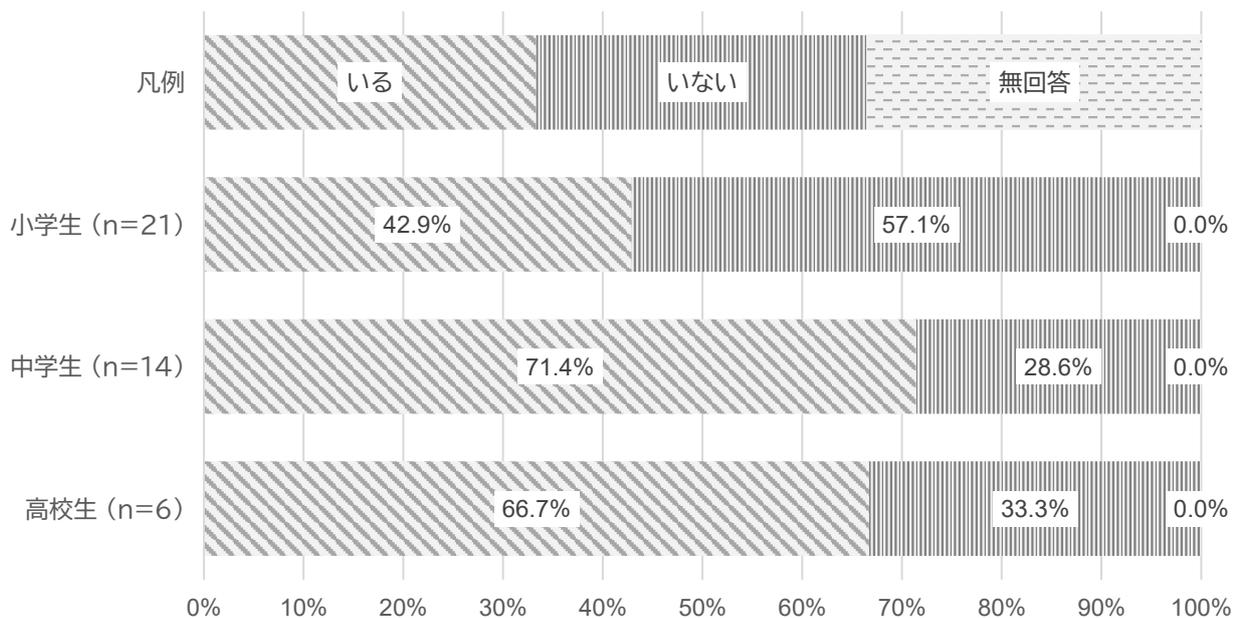
問 22② お世話に関する悩み等を聞いてくれる相手の有無

(問 16 で「同じ家に住んでいる家族の中にいる」または「同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる」を選択し、かつ問 20 で「ない」を選択した場合のみ回答)

【図表 109】

上段：人 下段：%	いる	いない	無回答	計
小学生	9 42.9	12 57.1	0 0.0	21 100.0
中学生	10 71.4	4 28.6	0 0.0	14 100.0
高校生	4 66.7	2 33.3	0 0.0	6 100.0

【図表 110】



- 小学生では、「いる」が9人(42.9%)、「いない」が10人(57.1%)となっている。
- 中学生では、「いる」が10人(71.4%)、「いない」が4人(28.6%)となっている。
- 高校生では、「いる」が4人(66.7%)、「いない」が2人(33.3%)となっている。

Ⅲ お世話の状況について

- お世話に関する悩み等を聞いてくれる相手の有無について、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 111】

区分	いる			いない		
	国	本市	比較	国	本市	比較
小学生	67.7%	42.9%	↓	21.9%	57.1%	↑
中学生	57.9%	71.4%	↑	38.4%	28.6%	↓
高校生	60.9%	66.7%	↑	36.0%	33.3%	↓

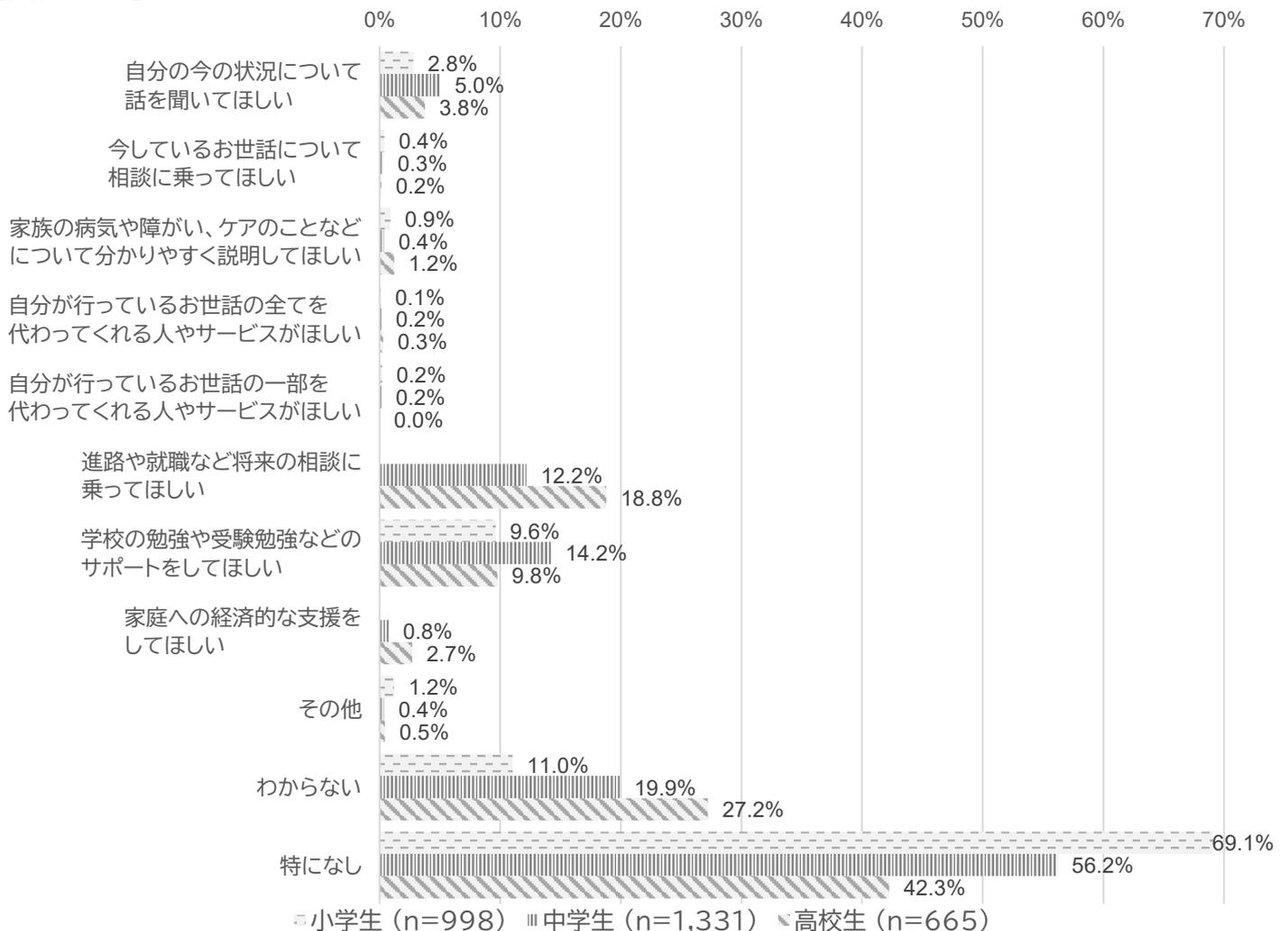
- 国の調査結果と比較すると、本市では、小学生は、お世話に関する悩み等を相談する相手が「いる」の割合が42.9%と国の67.7%よりも低く、「いない」の割合が57.1%と国の21.9%よりも高く、半数を超えている。
- 一方、世話に関する悩み等を相談する相手が「いる」の割合が中学生では71.4%、高校生では66.7%で国よりも高く、「いない」の割合は中学生では28.6%、高校生では33.3%で国よりも低くなっている。

問 23 学校や大人に対して求める支援（複数回答）

【図表 112】

	自分の今の状況について話を聞いてほしい	今しているお世話について相談に乗ってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話の全てを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	進路や就職など将来の相談に乗ってほしい	学校の勉強や受験勉強などのサポートをしてほしい	家庭への経済的な支援をしてほしい	その他	わからない	特になし	集計対象数
上段：人	28	4	9	1	2		96		12	110	690	998
下段：%	2.8	0.4	0.9	0.1	0.2		9.6		1.2	11.0	69.1	—
小学生	67	4	5	2	2	162	189	10	5	265	748	1,331
中学生	5.0	0.3	0.4	0.2	0.2	12.2	14.2	0.8	0.4	19.9	56.2	—
高校生	25	1	8	2	0	125	65	18	3	181	281	665
高校生	3.8	0.2	1.2	0.3	0.0	18.8	9.8	2.7	0.5	27.2	42.3	—

【図表 113】



Ⅲ お世話の状況について

- 小学生では、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が 28 人 (2.8%)、「今しているお世話について相談に乗ってほしい」が 4 人 (0.4%)、「家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい」が 9 人 (0.9%)、「自分が行っているお世話の全てを代わりにしてくれる人やサービスがほしい」が 1 人 (0.1%)、「自分が行っているお世話の一部を代わりにしてくれる人やサービスがほしい」が 2 人 (0.2%)、「学校の勉強や受験勉強などのサポートをしてほしい」が 96 人 (9.6%)、「その他」が 12 人 (1.2%)、「わからない」が 110 人 (11.0%)、「特になし」が 690 人 (69.1%) となっている。
- 中学生では、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が 67 人 (5.0%)、「今しているお世話について相談に乗ってほしい」が 4 人 (0.3%)、「家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい」が 5 人 (0.4%)、「自分が行っているお世話の全てを代わりにしてくれる人やサービスがほしい」が 2 人 (0.2%)、「自分が行っているお世話の一部を代わりにしてくれる人やサービスがほしい」が 2 人 (0.2%)、「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」が 162 人 (12.2%)、「学校の勉強や受験勉強などのサポートをしてほしい」が 189 人 (14.2%)、「家庭への経済的な支援をしてほしい」が 10 人 (0.8%)、「その他」が 5 人 (0.4%)、「わからない」が 265 人 (19.9%)、「特になし」が 748 人 (56.2%) となっている。
- 高校生では、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が 25 人 (3.8%)、「今しているお世話について相談に乗ってほしい」が 1 人 (0.2%)、「家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい」が 8 人 (1.2%)、「自分が行っているお世話の全てを代わりにしてくれる人やサービスがほしい」が 2 人 (0.3%)、「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」が 125 人 (18.8%)、「学校の勉強や受験勉強などのサポートをしてほしい」が 65 人 (9.8%)、「家庭への経済的な支援をしてほしい」が 18 人 (2.7%)、「その他」が 3 人 (0.5%)、「わからない」が 181 人 (27.2%)、「特になし」が 281 人 (42.3%) となっている。
- 本市では、「わからない」及び「特になし」を除くと、全ての学校区分において、「学校の勉強や受験勉強などのサポート」や「進路や就職などの将来の相談」のニーズが高いことが分かる。

「その他」回答

・部活のこと ・友だちにいじめられることがあるから助けてほしい ・同級生との仲について
・そっとしておいてほしい ・先生全員に心の病について理解してほしい など

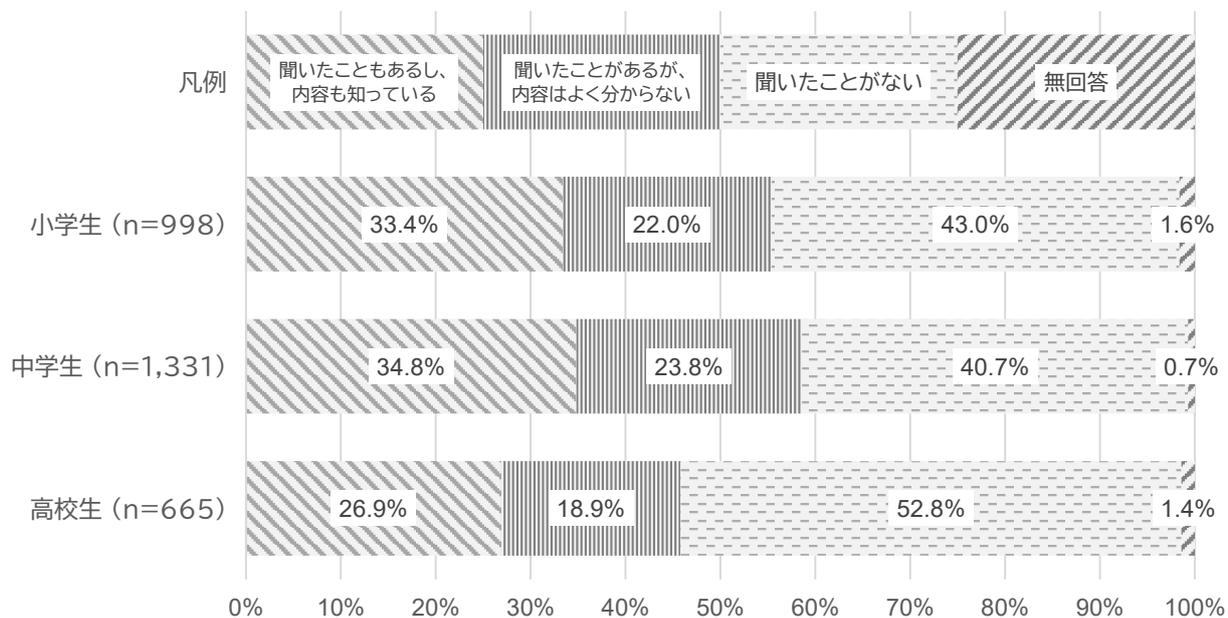
IV ヤングケアラーについて

問 24 ヤングケアラーの認知度

【図表 114】

上段：人 下段：%	聞いたこともあるし、 内容も知っている	聞いたことがあるが、 内容はよく分からない	聞いたことがない	無回答	計
小学生	333 33.4	220 22.0	429 43.0	16 1.6	998 100.0
中学生	463 34.8	317 23.8	542 40.7	9 0.7	1,331 100.0
高校生	179 26.9	126 18.9	351 52.8	9 1.4	665 100.0

【図表 115】



- 小学生では、「聞いたこともあるし、内容も知っている」が 333 人 (33.4%)、「聞いたことがあるが、内容はよく分からない」が 220 人 (22.0%)、「聞いたことがない」が 429 人 (43.0%)、「無回答」が 16 人 (1.6%) となっている。
- 中学生では、「聞いたこともあるし、内容も知っている」が 463 人 (34.8%)、「聞いたことがあるが、内容はよく分からない」が 317 人 (23.8%)、「聞いたことがない」が 542 人 (40.7%)、「無回答」が 9 人 (0.7%) となっている。
- 高校生では、「聞いたこともあるし、内容も知っている」が 179 人 (26.9%)、「聞いたことがあるが、内容はよく分からない」が 126 人 (18.9%)、「聞いたことがない」が 351 人 (52.8%)、「無回答」が 9 人 (1.4%) となっている。

- ヤングケアラーの認知度について、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 116】

区分	聞いたこともあるし、 内容も知っている			聞いたことがあるが、 内容はよく分からない		
	国	本市	比較	国	本市	比較
小学生		33.4%	—		22.0%	—
中学生	6.3%	34.8%	↑	8.8%	23.8%	↑
高校生	5.7%	26.9%	↑	6.9%	18.9%	↑
区分	聞いたことがない					
	国	本市	比較			
小学生		43.0%	—			
中学生	84.2%	40.7%	↓			
高校生	86.8%	52.8%	↓			

※ 国では、小学生へヤングケアラーの認知度についての調査を行っていない。

- 国の調査結果と比較すると、本市では、中学生、高校生いずれにおいても「聞いたこともあるし、内容も知っている」及び「聞いたことがあるが、内容はよく分からない」が国の割合よりも高くなっている。
- 「聞いたことがない」については、本市では、中学生で 40.7%、高校生で 52.8%といずれも国の割合よりも低くなっている。

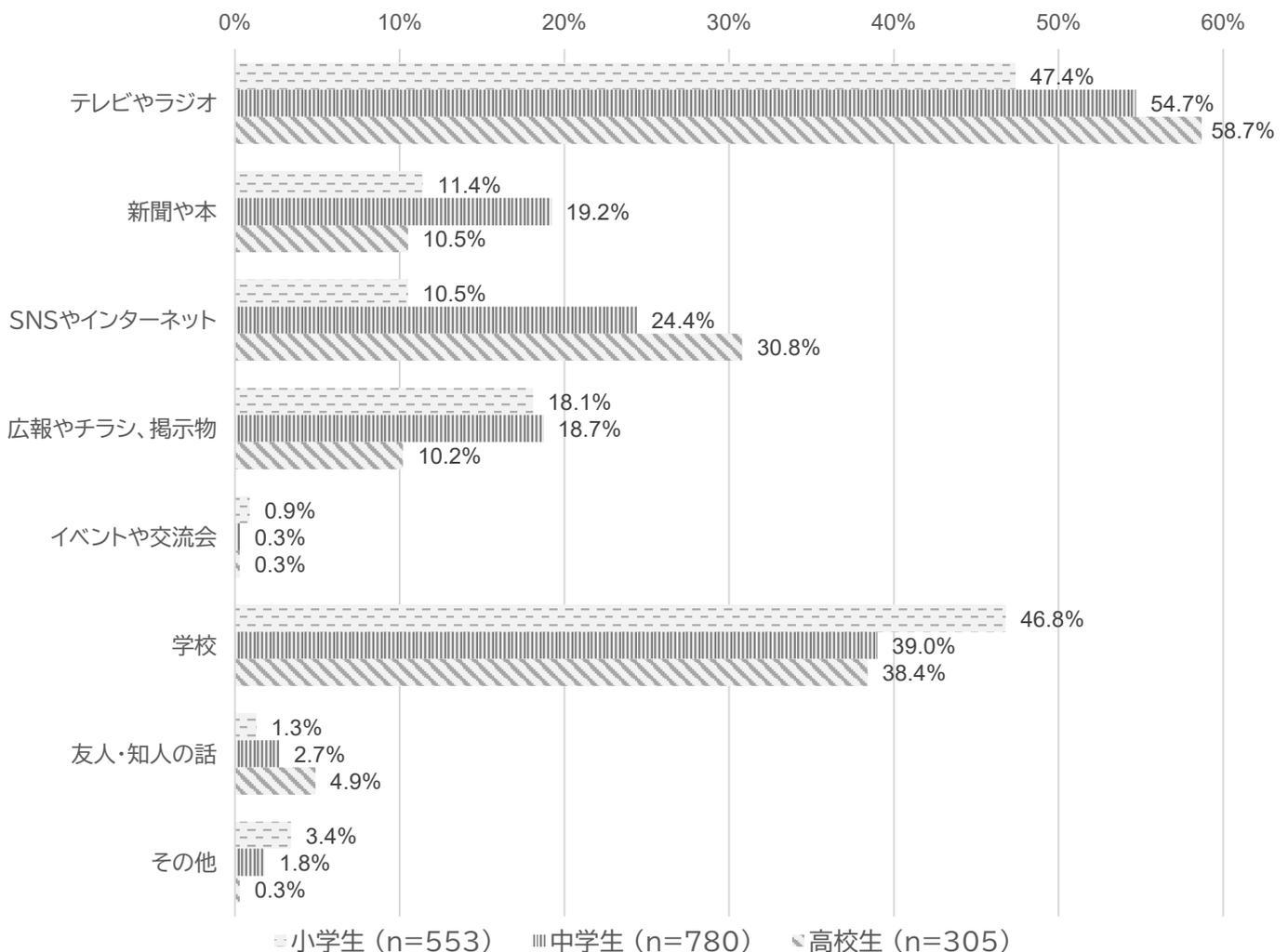
問 25 ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ（複数回答）

（問 24 で「聞いたこともあるし、内容も知っている」または「聞いたことがあるが、内容はよく分からない」を選択した場合のみ）

【図表 117】

	テレビやラジオ	新聞や本	SNSやインターネット	広報やチラシ、掲示物	イベントや交流会	学校	友人・知人の話	その他	集計対象数
上段：人 下段：%									
小学生	262 47.4	63 11.4	58 10.5	100 18.1	5 0.9	259 46.8	7 1.3	19 3.4	553 —
中学生	427 54.7	150 19.2	190 24.4	146 18.7	2 0.3	304 39.0	21 2.7	14 1.8	780 —
高校生	179 58.7	32 10.5	94 30.8	31 10.2	1 0.3	117 38.4	15 4.9	1 0.3	305 —

【図表 118】



IV ヤングケアラーについて

- 小学生では、「テレビやラジオ」が 262 人 (47.4%)、「新聞や本」が 63 人 (11.4%)、「SNS やインターネット」が 58 人 (10.5%)、「広報やチラシ、掲示物」が 100 人 (18.1%)、「イベントや交流会」が 5 人 (0.9%)、「学校」が 259 人 (46.8%)、「友人・知人の話」が 7 人 (1.3%)、「その他」が 19 人 (3.4%) となっている。
- 中学生では、「テレビやラジオ」が 427 人 (54.7%)、「新聞や本」が 150 人 (19.2%)、「SNS やインターネット」が 190 人 (24.4%)、「広報やチラシ、掲示物」が 146 人 (18.7%)、「イベントや交流会」が 2 人 (0.3%)、「学校」が 304 人 (39.0%)、「友人・知人の話」が 21 人 (2.7%)、「その他」が 14 人 (1.8%) となっている。
- 高校生では、「テレビやラジオ」が 179 人 (58.7%)、「新聞や本」が 32 人 (10.5%)、「SNS やインターネット」が 94 人 (30.8%)、「広報やチラシ、掲示物」が 31 人 (10.2%)、「イベントや交流会」が 1 人 (0.3%)、「学校」が 117 人 (38.4%)、「友人・知人の話」が 15 人 (4.9%)、「その他」が 1 人 (0.3%) となっている。
- ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけについて、各学校区分における上位 3 項目を国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 119】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
小学生	1			テレビやラジオ	47.4
	2			学校	46.8
	3			広報やチラシ、掲示物	18.1

※ 国では、小学生へヤングケアラーという言葉を知ったきっかけについての調査を行っていない。

【図表 120】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
中学生	1	テレビや新聞、ラジオ	55.2	テレビやラジオ	54.7
	2	学校	27.8	学校	39.0
	3	SNS やインターネット	22.3	SNS やインターネット	24.4

【図表 121】

区分	No	国	(%)	本市	(%)
高校生	1	テレビや新聞、ラジオ	51.2	テレビやラジオ	58.7
	2	学校	32.7	学校	38.4
	3	SNS やインターネット	28.2	SNS やインターネット	30.8

- 国の調査結果と比較すると、本市では、中学生及び高校生ともに上位 3 項目は一致しており、割合もほぼ同程度である

「その他」回答

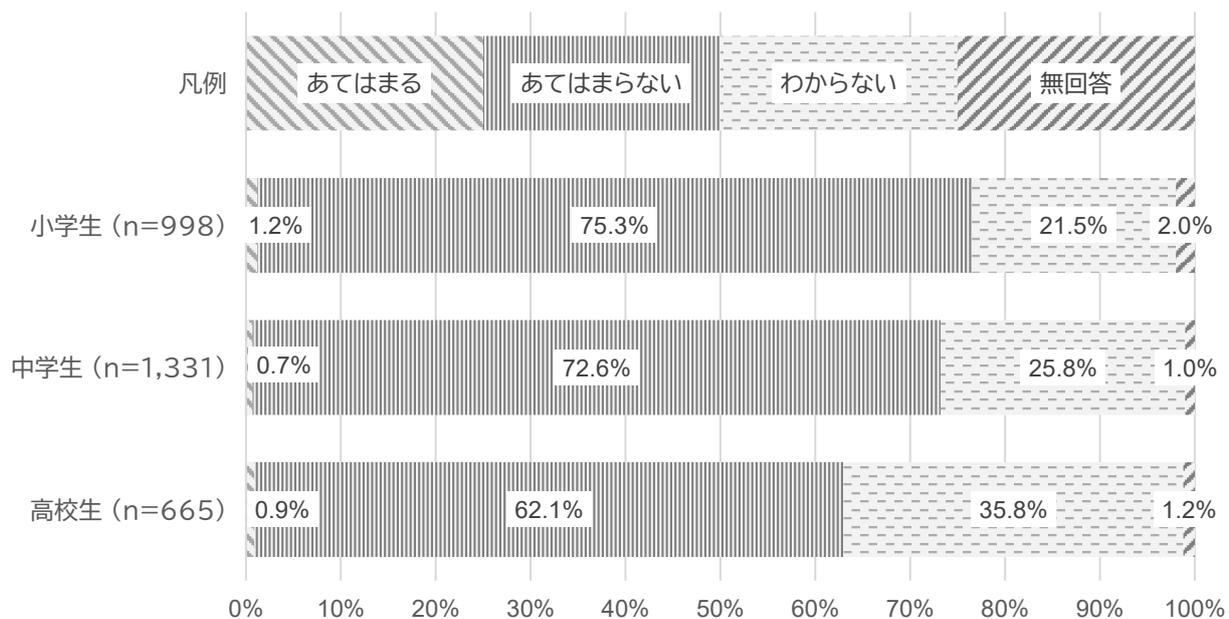
・先生の話 ・家族との会話 ・お便り ・医師の話 ・リエゾンという漫画 など

問 26 ヤングケアラーへの該当性

【図表 122】

	あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答	計
上段：人 下段：%					
小学生	12 1.2	751 75.3	215 21.5	20 2.0	998 100.0
中学生	9 0.7	966 72.6	343 25.8	13 1.0	1,331 100.0
高校生	6 0.9	413 62.1	238 35.8	8 1.2	665 100.0

【図表 123】



- 小学生では、「あてはまる」が12人(1.2%)、「あてはまらない」が751人(75.3%)、「わからない」が215人(21.5%)、「無回答」が20人(2.0%)となっている。
- 中学生では、「あてはまる」が9人(0.7%)、「あてはまらない」が966人(72.6%)、「わからない」が343人(25.8%)、「無回答」が13人(1.0%)となっている。
- 高校生では、「あてはまる」が6人(0.9%)、「あてはまらない」が413人(62.1%)、「わからない」が238人(35.8%)、「無回答」が8人(1.2%)となっている。

- ヤングケアラーへの該当性について、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 124】

区分	あてはまる			あてはまらない		
	国	本市	比較	国	本市	比較
小学生		1.2%	—		75.3%	—
中学生	1.8%	0.7%	↓	85.0%	72.6%	↓
高校生	2.3%	0.9%	↓	80.5%	62.1%	↓
区分	わからない					
	国	本市	比較			
小学生		21.5%	—			
中学生	12.5%	25.8%	↑			
高校生	16.3%	35.8%	↑			

※ 国では、小学生へヤングケアラーへの該当性についての調査を行っていない。

- 国の調査結果と比較すると、本市では、「あてはまる」の割合について、中学生では 0.7%、高校生では 0.9%といずれも国の結果よりも低くなっている。
- 「あてはまらない」の割合についても、中学生では 72.6%、高校生では 62.1%といずれも国の結果よりも低くなっている。
- 一方で、「わからない」の割合について、中学生では 25.8%、高校生では 35.8%といずれも国の結果よりも 2 倍程度の高い割合となっている。
- 小学生については、国の調査結果はないが、本市では、中学生及び高校生と同程度の割合構成となっている。

V 追加分析(クロス集計)

(1) お世話をしている家族の有無

① お世話をしている家族の有無 × 欠席の状況

【図表 125】

		上段：人 下段：%	ほとんど欠席しない	(1か月に1、2回) たまに欠席する	(1週間に1回以上) よく欠席する	無回答	計
小学生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	16	5	1	1	23	
		69.6	21.7	4.3	4.3	100.0	
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	4	2	0	0	6	
		66.7	33.3	0.0	0.0	100.0	
いない	827	112	6	1	946		
	87.4	11.8	0.6	0.1	100.0		
無回答	17	2	0	4	23		
	73.9	8.7	0.0	17.4	100.0		
中学生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	12	4	2	1	19	
		63.2	21.1	10.5	5.3	100.0	
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	2	1	0	0	3	
		66.7	33.3	0.0	0.0	100.0	
いない	1,153	104	31	1	1,289		
	89.4	8.1	2.4	0.1	100.0		
無回答	14	3	1	2	20		
	70.0	15.0	5.0	10.0	100.0		
高校生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	5	2	1	0	8	
		62.5	25.0	12.5	0.0	100.0	
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	1	0	0	0	1	
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
いない	574	71	6	0	651		
	88.2	10.9	0.9	0.0	100.0		
無回答	3	0	0	2	5		
	60.0	0.0	0.0	40.0	100.0		

- 全ての学校区分において、お世話の対象者が「同じ家に住んでいる家族の中にいる」場合は、「いない」場合と比較すると、「よく欠席する（1週間に1回以上）」の割合が高くなっている。
- 全ての学校区分において、お世話の対象者が「同じ家に住んでいる家族の中にいる」場合は、「いない」場合と比較すると、「ほとんど欠席しない」の割合が低くなっている。

② お世話をしている家族の有無 × 遅刻の状況

【図表 126】

		ほとんど遅刻しない	たまに遅刻する (1か月に1、2回)	よく遅刻する (1週間に1回以上)	無回答	計
小学生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	21	2	0	0	23
		91.3	8.7	0.0	0.0	100.0
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	5	0	0	1	6
		83.3	0.0	0.0	16.7	100.0
	いない	877	53	14	2	946
		92.7	5.6	1.5	0.2	100.0
	無回答	17	1	0	5	23
		73.9	4.3	0.0	21.7	100.0
中学生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	16	2	1	0	19
		84.2	10.5	5.3	0.0	100.0
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	2	1	0	0	3
		66.7	33.3	0.0	0.0	100.0
	いない	1,193	61	31	4	1,289
		92.6	4.7	2.4	0.3	100.0
	無回答	15	2	0	3	20
		75.0	10.0	0.0	15.0	100.0
高校生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	6	2	0	0	8
		75.0	25.0	0.0	0.0	100.0
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	1	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	いない	605	40	4	2	651
		92.9	6.1	0.6	0.3	100.0
	無回答	2	1	0	2	5
		40.0	20.0	0.0	40.0	100.0

- 全ての学校区分において、お世話の対象者が「同じ家に住んでいる家族の中にいる」場合は、「いない」場合と比較すると、「たまに遅刻する（1か月に1、2回）」の割合が高くなっている。
- 全ての学校区分において、お世話の対象者が「同じ家に住んでいる家族の中にいる」場合は、「いない」場合と比較すると、「ほとんど遅刻しない」の割合が低くなっている。

③ お世話をしている家族の有無 × 早退の状況

【図表 127】

		ほとんど早退しない	たまに早退する (1か月に1、2回)	よく早退する (1週間に1回以上)	無回答	計
小学生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	18	4	1	0	23
		78.3	17.4	4.3	0.0	100.0
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	3	3	0	0	6
		50.0	50.0	0.0	0.0	100.0
中学生	いない	870	69	1	6	946
		92.0	7.3	0.1	0.6	100.0
	無回答	18	0	0	5	23
		78.3	0.0	0.0	21.7	100.0
高校生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	16	2	1	0	19
		84.2	10.5	5.3	0.0	100.0
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	2	1	0	0	3
		66.7	33.3	0.0	0.0	100.0
小学生	いない	1,198	82	8	1	1,289
		92.9	6.4	0.6	0.1	100.0
	無回答	19	1	0	0	20
		95.0	5.0	0.0	0.0	100.0
小学生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	6	2	0	0	8
		75.0	25.0	0.0	0.0	100.0
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	1	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
小学生	いない	599	50	1	1	651
		92.0	7.7	0.2	0.2	100.0
	無回答	3	0	0	2	5
		60.0	0.0	0.0	40.0	100.0

- 全ての学校区分において、お世話の対象者が「同じ家に住んでいる家族の中にいる」場合は、「いない」場合と比較すると、「たまに早退する（1か月に1、2回）」の割合が高くなっている。
- 小学生及び中学生において、お世話の対象者が「同じ家に住んでいる家族の中にいる」場合は、「いない」場合と比較すると、「よく早退する（1週間に1回以上）」の割合が高くなっている。
- 全ての学校区分において、お世話の対象者が「同じ家に住んでいる家族の中にいる」場合は、「いない」場合と比較すると、「ほとんど早退しない」の割合が低くなっている。

④ お世話をしている家族の有無 × 学校生活

【図表 128】

		授業中に居眠りをしてしまうことが多い	宿題を期限までに終わられないことが多い	忘れ物をしてしまうことが多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければならぬ書類などの提出が遅れてしまうことが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席してしまう	保健室などの別室で過ごすことが多い	学校では一人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特になし	集計対象数
小学生	同じ家に住んでいる家族の中にある	9	3	9	1	4	0	2	3	1	10	23
		39.1	13.0	39.1	4.3	17.4	0.0	8.7	13.0	4.3	43.5	—
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	4	0	3	0	2	0	1	1	0	2	6
		66.7	0.0	50.0	0.0	33.3	0.0	16.7	16.7	0.0	33.3	—
	いない	291	67	230	31	115	2	15	38	31	476	946
		30.8	7.1	24.3	3.3	12.2	0.2	1.6	4.0	3.3	50.3	—
無回答	6	0	4	0	0	0	1	1	1	9	23	
	26.1	0.0	17.4	0.0	0.0	0.0	4.3	4.3	4.3	39.1	—	
中学生	同じ家に住んでいる家族の中にある	5	6	10	2	3	1	1	1	1	4	19
		26.3	31.6	52.6	10.5	15.8	5.3	5.3	5.3	5.3	21.1	—
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	0	1	2	0	1	0	0	0	0	1	3
		0.0	33.3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	—
	いない	192	211	345	54	229	10	18	69	47	704	1,289
		14.9	16.4	26.8	4.2	17.8	0.8	1.4	5.4	3.6	54.6	—
無回答	2	2	7	0	3	0	2	1	1	6	20	
	10.0	10.0	35.0	0.0	15.0	0.0	10.0	5.0	5.0	30.0	—	
高校生	同じ家に住んでいる家族の中にある	2	4	5	0	4	0	0	2	2	2	8
		25.0	50.0	62.5	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	—
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100	—
	いない	190	96	127	16	101	1	6	27	25	320	651
		29.2	14.7	19.5	2.5	15.5	0.2	0.9	4.1	3.8	49.2	—
無回答	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	5	
	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	—	

- 全ての学校区分において、お世話している家族が「いる」場合は、「いない」場合と比較すると、「忘れ物をしてしまうことが多い」の割合が高くなっている。
- 全ての学校区分において、お世話している家族が「いる」場合は、「いない」場合と比較すると、「特になし」の割合が低くなっている。

⑤ お世話をしている家族の有無 × 悩みや困りごと

【図表 129】

		友人関係のこと	学校の成績のこと	進学や就職などの進路のこと	スポ少・部活動のこと	おこづかいのこと	おこづかい以外のお金のこと	学費など学校生活に必要なお金のこと	塾や習い事ができないこと	家庭の経済的な状況のこと	上段：人	下段：%
小学生	同じ家に住んでいる家族の中 にいる	3	5		4	1	0		0		13.0	21.7
					17.4	4.3	0.0		0.0			
	同じ家に住んでいる家族の中 にはいないが、ほかにいる	1	2		0	1	0		1		16.7	33.3
					0.0	16.7	0.0		16.7			
いない	112	110		45	12	2		27		11.8	11.6	
				4.8	1.3	0.2		2.9				
無回答	2	3		0	0	0		2		8.7	13.0	
				0.0	0.0	0.0		8.7				
中学生	同じ家に住んでいる家族の中 にいる	1	9	2	2			2	2	2	5.3	47.4
				10.5	10.5			10.5	10.5	10.5		
	同じ家に住んでいる家族の中 にはいないが、ほかにいる	1	2	3	1			1	0	1	33.3	66.7
				100	33.3			33.3	0.0	33.3		
いない	141	369	314	113			14	15	22	10.9	28.6	
			24.4	8.8			1.1	1.2	1.7			
無回答	2	6	4	2			0	0	0	10.0	30.0	
			20.0	10.0			0.0	0.0	0.0			
高校生	同じ家に住んでいる家族の中 にいる	1	5	4	1			2	0	3	12.5	62.5
				50.0	12.5			25.0	0.0	37.5		
	同じ家に住んでいる家族の中 にはいないが、ほかにいる	1	1	0	0			0	0	0	100	100
				0.0	0.0			0.0	0.0	0.0		
いない	46	93	228	61			24	0	16	7.1	14.3	
			35.0	9.4			3.7	0.0	2.5			
無回答	0	0	2	0			0	0	0	0.0	0.0	
			40.0	0.0			0.0	0.0	0.0			

- 全ての学校区分において、同じ家に住んでいるか否かに関わらず、お世話をしている家族が「いる」場合は、「いない」場合と比較すると、「学校の成績のこと」の割合が高くなっている。

⑤ お世話をしている家族の有無 × 悩みや困りごと

→ 続き		自分と家族の関係のこと	家族内の人間関係のこと	家族の病気や障がいのこと	自分自身の体調のこと	自分のために使える時間が少ないこと	その他	特になし	集計対象数
小学生	同じ家に住んでいる家族の中 にいる	1	2	2	4	5	0	9	23
		4.3	8.7	8.7	17.4	21.7	0.0	39.1	—
	同じ家に住んでいる家族の中 にはいないが、ほかにいる	0	2	0	0	2	0	4	6
		0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	—
	いない	19	23	8	39	53	18	678	946
		2.0	2.4	0.8	4.1	5.6	1.9	71.7	—
	無回答	2	0	1	1	1	1	8	23
		8.7	0.0	4.3	4.3	4.3	4.3	34.8	—
中学生	同じ家に住んでいる家族の中 にいる	2	1	1	4	3	0	7	19
		10.5	5.3	5.3	21.1	15.8	0.0	36.8	—
	同じ家に住んでいる家族の中 にはいないが、ほかにいる	1	2	0	1	0	0	0	3
		33.3	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	—
	いない	55	46	7	86	29	19	694	1,289
		4.3	3.6	0.5	6.7	2.2	1.5	53.8	—
	無回答	2	1	0	2	0	1	8	20
		10.0	5.0	0.0	10.0	0.0	5.0	40.0	—
高校生	同じ家に住んでいる家族の中 にいる	3	2	2	3	1	0	1	8
		37.5	25.0	25.0	37.5	12.5	0.0	12.5	—
	同じ家に住んでいる家族の中 にはいないが、ほかにいる	0	0	0	1	0	0	0	1
		0.0	0.0	0.0	100	0.0	0.0	0.0	—
	いない	12	19	8	53	22	7	330	651
		1.8	2.9	1.2	8.1	3.4	1.1	50.7	—
	無回答	0	0	0	1	0	0	1	5
		0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	—

- 全ての学校区分において、お世話をしている家族が「いる」場合は、「いない」場合と比較すると、「自分自身の体調のこと」及び「自分のために使える時間が少ないこと」の割合が高くなっている。
- 全ての学校区分において、お世話をしている家族が「いる」場合は、「いない」場合と比較すると、「特になし」の割合が低くなっており、お世話をしている家族がいる場合の方が、困りごとを抱えている傾向にある。

⑥ お世話をしている家族の有無 × 相談相手の有無

【図表 130】

		いる	いない	相談や話はしたくない	無回答	集計対象数
小学生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	8	1	3	1	23
		34.8	4.3	13.0	4.3	—
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	0	0	1	1	6
		0.0	0.0	16.7	16.7	—
いない	183	45	28	3	946	
	19.3	4.8	3.0	0.3	—	
無回答	5	3	0	2	23	
	21.7	13.0	0.0	8.7	—	
中学生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	6	4	1	1	19
		31.6	21.1	5.3	5.3	—
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	3	0	0	0	3
		100.0	0.0	0.0	0.0	—
いない	419	80	74	9	1,289	
	32.5	6.2	5.7	0.7	—	
無回答	6	1	1	0	20	
	30.0	5.0	5.0	0.0	—	
高校生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	7	0	0	0	8
		87.5	0.0	0.0	0.0	—
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	0	0	1	0	1
		0.0	0.0	100.0	0.0	—
いない	236	52	24	0	651	
	36.3	8.0	3.7	0.0	—	
無回答	1	1	0	0	5	
	20.0	20.0	0.0	0.0	—	

- 小学生及び高校生において、お世話の対象者が「同じ家に住んでいる家族の中にいる」場合は、「いない」場合と比較すると、「いる」の割合が高くなっている。
- 一方で、中学生においては、お世話の対象者が「同じ家に住んでいる家族の中にいる」場合は、「いない」場合と比較すると、「いる」の割合が低くなっている。

⑦ お世話をしている家族の有無 × 学校や大人に対して求める支援

【図表 131】

		自分の今の状況について話を聞いてほしい	今しているお世話について相談に乗ってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話を全てを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	進路や就職など将来の相談に乗ってほしい	学校の勉強や受験勉強などのサポートをしてほしい	家庭への経済的な支援をしてほしい	その他	わからない	特になし	集計対象数
小学生	同じ家に住んでいる家族 の中にいる	3	2	1	0	1		5		0	1	16	23
		13.0	8.7	4.3	0.0	4.3		21.7		0.0	4.3	69.6	—
	同じ家に住んでいる家族 の中にはいないが、ほか にいる	0	0	0	0	0		1		0	0	4	6
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		16.7		0.0	0.0	66.7	—
	いない	24	2	8	1	1		90		10	107	652	946
		2.5	0.2	0.8	0.1	0.1		9.5		1.1	11.3	68.9	—
	無回答	1	0	0	0	0		0		2	2	18	23
		4.3	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0		8.7	8.7	78.3	—
中学生	同じ家に住んでいる家族 の中にいる	3	2	1	0	0	2	4	1	0	4	8	19
		15.8	10.5	5.3	0.0	0.0	10.5	21.1	5.3	0.0	21.1	42.1	—
	同じ家に住んでいる家族 の中にはいないが、ほか にいる	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100	—
	いない	63	2	4	2	2	159	183	9	5	260	730	1,289
		4.9	0.2	0.3	0.2	0.2	12.3	14.2	0.7	0.4	20.2	56.6	—
	無回答	1	0	0	0	0	1	2	0	0	1	7	20
		5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	10.0	0.0	0.0	5.0	35.0	—
高校生	同じ家に住んでいる家族 の中にいる	1	0	0	1	0	2	0	1	0	2	2	8
		12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	12.5	0.0	25.0	25.0	—
	同じ家に住んでいる家族 の中にはいないが、ほか にいる	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100	100	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	いない	24	1	8	1	0	122	64	17	3	179	277	651
		3.7	0.2	1.2	0.2	0.0	18.7	9.8	2.6	0.5	27.5	42.5	—
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	—

● 全ての学校区分において、お世話の対象者が「同じ家に住んでいる家族の中にいる」場合は、「いない」場合と比較すると、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」の割合が高く、中学生及び高校生においては、「家庭への経済的な支援をしてほしい」の割合が高くなっている。

⑧ お世話をしている家族の有無 × ヤングケアラーへの該当性

【図表 132】

		あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答	計
小学生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	5 21.7	7 30.4	11 47.8	0 0.0	23 100.0
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	0 0.0	1 16.7	5 83.3	0 0.0	6 100.0
	いない	7 0.7	733 77.5	195 20.6	11 1.2	946 100.0
	無回答	0 0.0	10 43.5	4 17.4	9 39.1	23 100.0
中学生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	3 15.8	3 15.8	13 68.4	0 0.0	19 100.0
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	3 100.0
	いない	6 0.5	957 74.2	323 25.1	3 0.2	1,289 100.0
	無回答	0 0.0	6 30.0	4 20.0	10 50.0	20 100.0
高校生	同じ家に住んでいる家族の中にいる	1 12.5	2 25.0	5 62.5	0 0.0	8 100.0
	同じ家に住んでいる家族の中にはいないが、ほかにいる	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	いない	5 0.8	409 62.8	232 35.6	5 0.8	651 100.0
	無回答	0 0.0	1 20.0	1 20.0	3 60.0	5 100.0

- お世話をしている家族が「いる」子どものうち、ヤングケアラーに該当するか「わからない」と回答したのは、小学生では 29 人中 16 人 (55.2%)、中学生では 22 人中 16 人 (72.7%)、高校生では 9 人中 5 人 (55.6%) と、半数以上について、自分自身がヤングケアラーに該当するかを判断できていない状況である。

(2) お世話の対象

① お世話の対象 × お世話の頻度

【図表 133】

	上段：人 下段：%	ほぼ毎日 (週に5日以上)	週に3～4日	週に1～2日	2週間に1～2日	1か月に数日	その他	無回答	計
小学生	全体	19	5	5	2	2	0	0	33
		57.6	15.2	15.2	6.1	6.1	0.0	0.0	100.0
	父親	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	母親	1	0	0	0	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	祖母	3	1	1	0	0	0	0	5
		60.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
祖父	3	0	0	0	0	0	0	3	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
兄・姉	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
弟・妹	10	4	3	1	1	0	0	19	
	52.6	21.1	15.8	5.3	5.3	0.0	0.0	100.0	
その他	2	0	1	1	1	0	0	5	
	40.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	100.0	
中学生	全体	17	10	4	0	2	0	0	33
		51.5	30.3	12.1	0.0	6.1	0.0	0.0	100.0
	父親	1	1	0	0	1	0	0	3
		33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	100.0
	母親	3	1	0	0	0	0	0	4
		75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
祖母	2	2	1	0	0	0	0	5	
	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
祖父	0	0	1	0	0	0	0	1	
	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
兄・姉	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

① お世話の対象 × お世話の頻度

↓続き	上段：人 下段：%	ほぼ毎日 (週に5日以上)	週に3 ～ 4日	週に1 ～ 2日	2 週間に1 ～ 2日	1 か月に数日	その他	無回答	計
中学生	弟・妹	11	3	2	0	0	0	0	16
		68.8	18.8	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	その他	0	3	0	0	1	0	0	4
		0.0	75.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	100.0
高校生	全体	5	2	2	0	1	0	1	11
		45.5	18.2	18.2	0.0	9.1	0.0	9.1	100.0
	父親	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	母親	0	0	0	0	0	0	1	1
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
	祖母	1	0	1	0	0	0	0	2
		50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	祖父	1	0	1	0	0	0	0	2
		50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	兄・姉	1	1	0	0	0	0	0	2
		50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	弟・妹	2	0	0	0	1	0	0	3
		66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	100.0
	その他	0	1	0	0	0	0	0	1
		0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

※ 本分析では、お世話の対象不明を除く。

- 全ての学校区分において、お世話をしている家族がいる子どもたちは、対象者全体の約半数に対して、「ほぼ毎日（週に5日以上）」の頻度でお世話をしており、少なくとも週に1日以上お世話をしている割合は、小学生で88.0%、中学生の場合は93.9%、高校生の場合は81.9%にのぼる。
- お世話の対象が「母親」である子どもについて、小学生では100.0%、中学生では75.0%と高い割合で「ほぼ毎日（週に5日以上）」お世話をしている。
- お世話の対象が「弟・妹」である子どもについて、全ての学校区分で約50～70%弱程度が「ほぼ毎日（週に5日以上）」お世話をしている。

② お世話の対象 × お世話をしていることで、やりたいけどできないこと

【図表 134】

	上段：人 下段：%	学校に行きたくても行けない	学校を遅刻・早退してしまう	宿題や勉強をする時間が取れない	睡眠時間が取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくはやめなければならなかった	進学などの進路を変更しなければならぬ、もしくは変更した	自分の時間が取れない	その他	特になし	集計対象数
小学生	全体	0	0	7	7	0	0		7	0	19	33
		0.0	0.0	21.2	21.2	0.0	0.0		21.2	0.0	57.6	—
	父親	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	—
	母親	0	0	0	0	0	0		0	0	1	1
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	100.0	—
	祖母	0	0	0	0	0	0		1	0	4	5
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		20.0	0.0	80.0	—
	祖父	0	0	1	0	0	0		0	0	2	3
		0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	66.7	—
兄・姉	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	—	
弟・妹	0	0	5	6	0	0		5	0	8	19	
	0.0	0.0	26.3	31.6	0.0	0.0		26.3	0.0	42.1	—	
その他	0	0	1	1	0	0		1	0	4	5	
	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0		20.0	0.0	80.0	—	
中学生	全体	2	5	6	2	1	0	3	5	0	16	33
		6.1	15.2	18.2	6.1	3.0	0.0	9.1	15.2	0.0	48.5	—
	父親	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
		33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	—
	母親	1	1	1	1	0	0	0	1	0	2	4
		25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	—
	祖母	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	5
		0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	—
	祖父	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
兄・姉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	

② お世話の対象 × お世話をしていることで、やりたいけどできないこと

↓続き		学校に行きたくても行けない	学校を遅刻・早退してしまう	宿題や勉強をする時間が取れない	睡眠時間が取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくはやめなければならなかった	進学などの進路を変更しなければならぬ、もしくは変更した	自分の時間が取れない	その他	特になし	集計対象数
中学生	弟・妹	0	4	2	1	1	0	3	3	0	9	16
		0.0	25.0	12.5	6.3	6.3	0.0	18.8	18.8	0.0	56.3	—
	その他	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	4
		0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	—
高校生	全体	0	0	2	0	4	0	0	2	2	4	11
		0.0	0.0	18.2	0.0	36.4	0.0	0.0	18.2	18.2	36.4	—
	父親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	母親	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	祖母	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	2
		0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	—
	祖父	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	—
	兄・姉	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	2
		0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	—
弟・妹	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	3	
	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	—	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	—	

※1 本分析では、お世話の対象不明を除く。

※2 子ども1人で複数の対象者をお世話している場合、それぞれの対象者区分へ同一に計上している。

※3 「お世話をしていることで、やりたいけどできないこと」について、無回答の場合は計上していない。

- お世話の対象が、「父親」及び「母親」である場合、「学校に行きたくても行けない」や「学校を遅刻・早退してしまう」など学業に支障が出ている可能性が高い回答が見られる。
- 学校区分別に見ると、中学生では、内容が多岐に渡っており、特にお世話の対象が、「母親」及び「弟・妹」の場合でその傾向が顕著に見られる。

③ お世話の対象 × お世話の負担

【図表 135】

	上段：人 下段：%	身体的 にきつい	精神的 にきつい	時間的 余裕がない	特に きつさは 感じて いない	集計 対象数
小学生	全体	4	4	3	23	33
		12.1	12.1	9.1	69.7	—
	父親	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	—
	母親	0	0	0	1	1
		0.0	0.0	0.0	100.0	—
	祖母	1	1	0	3	5
		20.0	20.0	0.0	60.0	—
	祖父	0	1	0	2	3
0.0		33.3	0.0	66.7	—	
兄・姉	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	—	
弟・妹	3	2	3	12	19	
	15.8	10.5	15.8	63.2	—	
その他	0	0	0	5	5	
	0.0	0.0	0.0	100.0	—	
中学生	全体	4	9	1	21	33
		12.1	27.3	9.1	63.6	—
	父親	1	0	0	2	3
		33.3	0.0	0.0	66.7	—
	母親	1	1	0	2	4
		25.0	25.0	0.0	50.0	—
	祖母	1	0	0	4	5
20.0		0.0	0.0	80.0	—	
祖父	0	0	0	1	1	
	0.0	0.0	0.0	100.0	—	
兄・姉	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	—	

③ お世話の対象 × お世話の負担

↓続き		上段：人 下段：%	身体的 に き つ い	精神的 に き つ い	時間的 余 裕 が な い	特 に き つ さ は 感 じ て い な い	集計 対 象 数
中学生	弟・妹		0	5	0	11	16
			0.0	31.3	0.0	68.8	—
	その他		1	3	1	1	4
			25.0	75.0	25.0	25.0	—
高校生	全体		1	2	4	3	11
			9.1	18.2	36.4	27.3	—
	父親		0	0	0	0	0
			0.0	0.0	0.0	0.0	—
	母親		0	0	0	0	1
			0.0	0.0	0.0	0.0	—
	祖母		0	0	2	0	2
			0.0	0.0	100.0	0.0	—
	祖父		0	0	1	1	2
			0.0	0.0	50.0	50.0	—
	兄・姉		0	2	0	0	2
			0.0	100.0	0.0	0.0	—
弟・妹		1	0	1	1	3	
		33.3	0.0	33.3	33.3	—	
その他		0	0	0	1	1	
		0.0	0.0	0.0	100.0	—	

※1 本分析では、お世話の対象不明を除く。

※2 子ども1人で複数の対象者をお世話している場合、それぞれの対象者区分へ同一に計上している。

※3 「お世話の負担」について、無回答の場合は計上していない。

- お世話の対象が「祖母」及び「祖父」である場合、小学生及び中学生では、身体的及び精神的きつさを感じており、高校生では、時間的余裕がないことを負担に感じる傾向にある。
- お世話の対象者が「兄・姉」及び「弟・妹」である場合、小学生及び高校生では、様々な面で負担を感じている一方で、中学生では、精神的負担を感じている。

④ お世話の対象 × お世話に関する悩み等の相談経験の有無

【図表 136】

	上段：人 下段：%	ある	ない	無回答	計
小学生	全体	10	23	0	33
		30.3	69.7	0.0	100.0
	父親	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0
	母親	0	1	0	1
		0.0	100.0	0.0	100.0
	祖母	3	2	0	5
		60.0	40.0	0.0	100.0
	祖父	1	2	0	3
33.3		66.7	0.0	100.0	
兄・姉	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	
弟・妹	5	14	0	19	
	26.3	73.7	0.0	100.0	
その他	1	4	0	5	
	20.0	80.0	0.0	100.0	
中学生	全体	11	21	1	33
		33.3	63.6	3.0	100.0
	父親	3	0	0	3
		100.0	0.0	0.0	100.0
	母親	3	1	0	4
		75.0	25.0	0.0	100.0
	祖母	2	3	0	5
40.0		60.0	0.0	100.0	
祖父	0	1	0	1	
	0.0	100.0	0.0	100.0	
兄・姉	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	

④ お世話の対象 × お世話に関する悩み等の相談経験の有無

↓ 続き	上段：人 下段：%	ある	ない	無回答	計
中学生	弟・妹	1	14	1	16
		6.3	87.5	6.3	100.0
	その他	2	2	0	4
		50.0	50.0	0.0	100.0
高校生	全体	3	7	1	11
		27.3	63.6	9.1	100.0
	父親	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0
	母親	0	0	1	1
		0.0	0.0	100.0	100.0
	祖母	1	1	0	2
		50.0	50.0	0.0	100.0
	祖父	0	2	0	2
		0.0	100.0	0.0	100.0
	兄・姉	1	1	0	2
		50.0	50.0	0.0	100.0
	弟・妹	1	2	0	3
		33.3	66.7	0.0	100.0
その他	0	1	0	1	
	0.0	100.0	0.0	100.0	

※1 本分析では、お世話の対象不明を除く。

※2 子ども1人で複数の対象者をお世話している場合、それぞれの対象者区分へ同一に計上している。

- お世話の対象が「弟・妹」である場合、お世話に関する悩み等の相談経験の有無について「ない」の割合が、小学生で73.7%、中学生では87.5%、高校生では66.7%となっており、他の対象と比較して割合が高くなっている。

第

3

学校におけるヤングケアラーへの対応に
関するアンケート調査

第3 学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

I 基本情報について

問1 学校名

(1) 小学校

【図表 137】

1	大曲小学校	11	中仙小学校
2	東大曲小学校	12	清水小学校
3	花館小学校	13	豊成小学校
4	内小友小学校	14	協和小学校
5	大川西根小学校	15	南外小学校
6	藤木小学校	16	高梨小学校
7	四ツ屋小学校	17	横堀小学校
8	角間川小学校	18	太田東小学校
9	神岡小学校	19	太田南小学校
10	西仙北小学校	20	太田北小学校

(2) 中学校

【図表 138】

1	大曲中学校	6	中仙中学校
2	大曲西中学校	7	協和中学校
3	大曲南中学校	8	南外中学校
4	平和中学校	9	仙北中学校
5	西仙北中学校	10	太田中学校

(3) 高等学校

【図表 139】

1	西仙北高等学校	4	大曲高等学校
2	大曲農業高等学校	5	大曲工業高等学校
3	大曲農業高等学校 太田分校	6	秋田修英高等学校

II 学校における体制について

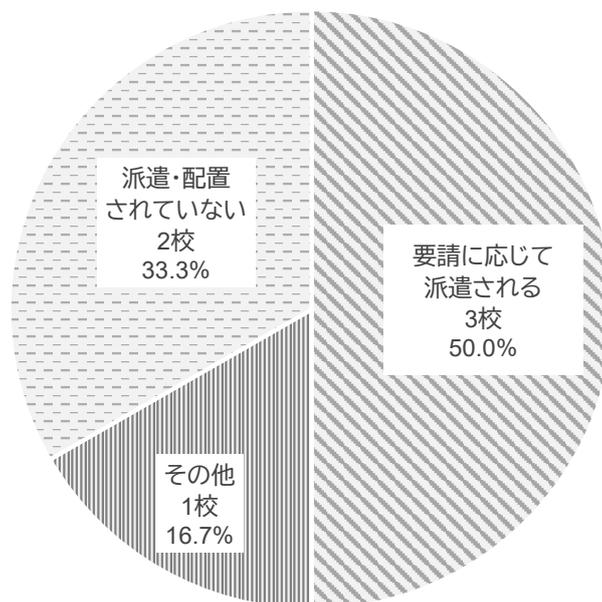
問2 スクールソーシャルワーカー（SSW）の派遣・配置状況

（高等学校のみ回答）

【図表 140】

上段：校 下段：%	週に2～3回以上派遣・配置されている	週に1回程度派遣・配置されている	月に数回以下で派遣・配置されている	要請に応じて派遣される	その他	派遣・配置されていない	計
高等学校	0	0	0	3	1	2	6
	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7	33.3	100.0

【図表 141】



- 市内の高等学校では、「要請に応じて派遣される」が3校（50.0%）、「その他」が1校（16.7%）、「派遣・配置されていない」が2校（33.3%）となっている。

「その他」回答

・県教委配置、秋田明德館高校に2名（要請） など

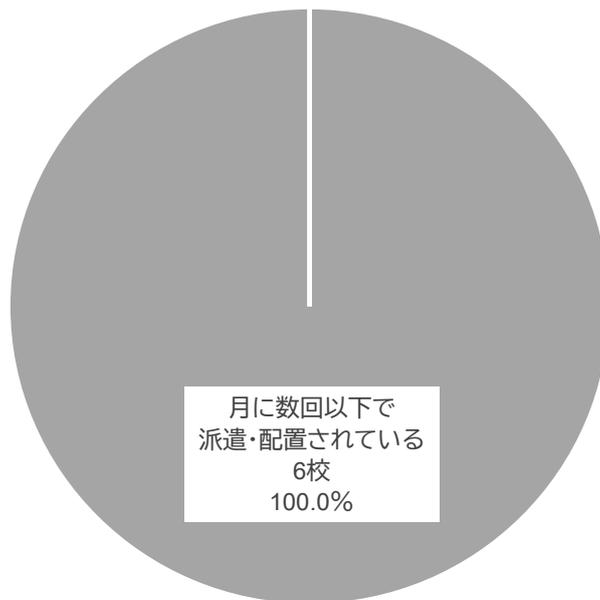
問3 スクールカウンセラー（SC）の派遣・配置状況

(高等学校のみ回答)

【図表 142】

上段：校 下段：%	週に2～3回以上派遣・配置されている	週に1回程度派遣・配置されている	月に数回以下で派遣・配置されている	要請に応じて派遣される	その他	派遣・配置されていない	計
高等学校	0	0	6	0	0	0	6
	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【図表 143】



- 市内の高等学校では、「月に数回以下で派遣・配置されている」が6校（100.0%）となっている。

スクールソーシャルワーカー（SSW）及びスクールカウンセラー（SC）の配置・派遣状況

国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 144】

選択肢	スクールソーシャルワーカー（SSW）			スクールカウンセラー（SC）		
	国	本市	比較	国	本市	比較
週に2～3回以上派遣・配置されている	4.4%	0.0%	↓	2.4%	0.0%	↓
週に1回程度派遣・配置されている	1.2%	0.0%	↓	32.9%	0.0%	↓
月に数回以下で派遣・配置されている	6.8%	0.0%	↓	55.0%	100.0%	↑
要請に応じて派遣される	51.4%	50.0%	↓	5.6%	0.0%	↓
その他	0.4%	16.7%	↑	2.0%	0.0%	↓
派遣・配置されていない	33.7%	33.3%	↓	1.2%	0.0%	↓

- 国の調査結果と比較すると、スクールソーシャルワーカー（SSW）について、国及び本市どちらも約半数の高等学校で「要請に応じて派遣される」となっている。
- スクールカウンセラー（SC）について、国の調査結果では、約半数の高等学校が「月に数回以下で派遣・配置されている」となっているが、本市では、市内全ての高等学校がそのようになっている。

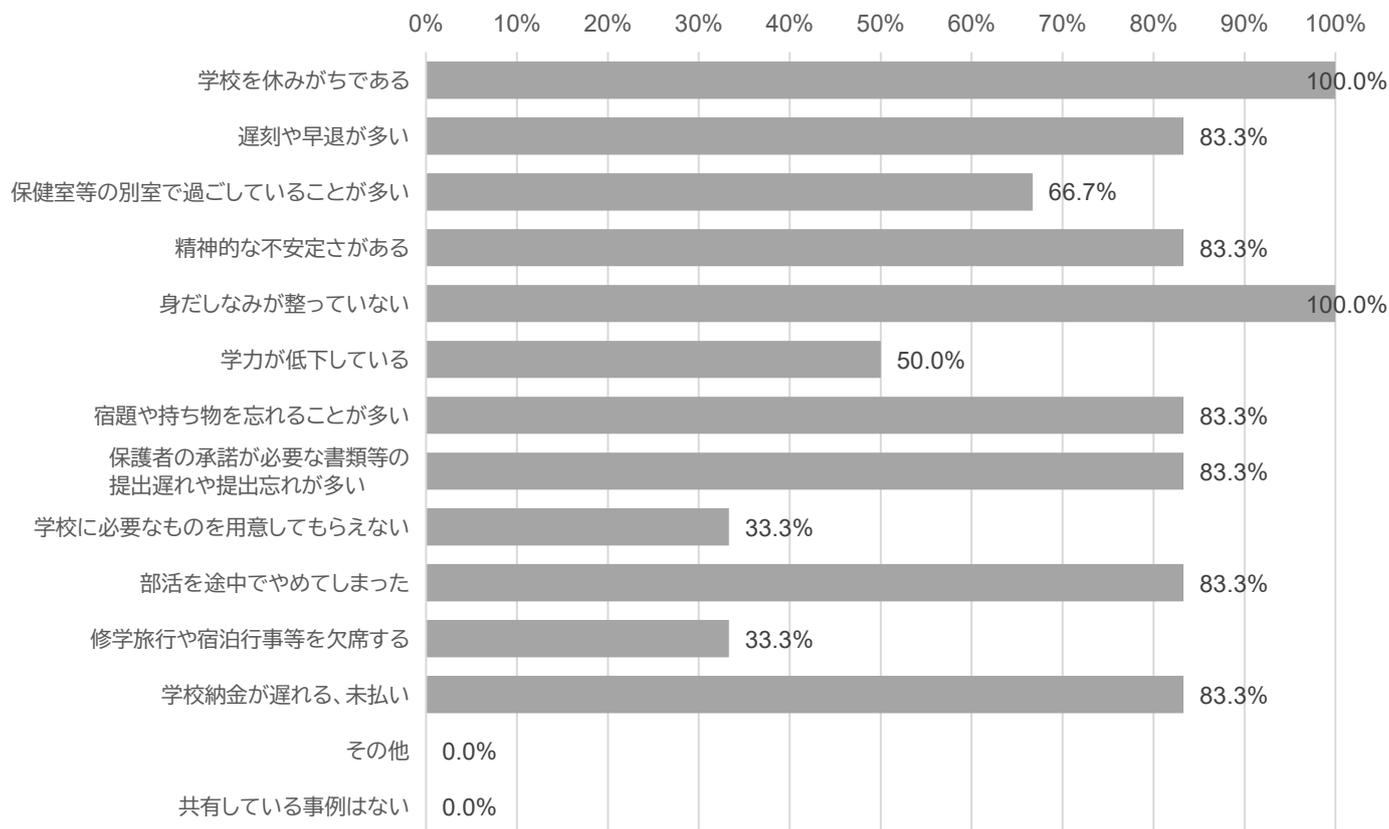
問4 校内で情報共有している事例（複数回答）

（高等学校のみ回答）

【図表 145】

	学校を休みがちである	遅刻や早退が多い	保健室等の別室で過ごしていることが多い	精神的な不安定さがある	身だしなみが整っていない	学力が低下している	宿題や持ち物を忘れることが多い	保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	学校に必要なものを用意してもらえない	部活を途中でやめてしまった	修学旅行や宿泊行事等を欠席する	学校納金が遅れる、未払い	その他	共有している事例はない	集計対象数
上段：校 下段：%	6	5	4	5	6	3	5	5	2	5	2	5	0	0	6
高等学校	100	83.3	66.7	83.3	100	50.0	83.3	83.3	33.3	83.3	33.3	83.3	0.0	0.0	—

【図表 146】



- 市内の高等学校では、「学校を休みがちである」が6校(100.0%)、「遅刻や早退が多い」が5校(83.3%)、「保健室等の別室で過ごしていることが多い」が4校(66.7%)、「精神的な不安定さがある」が5校(83.3%)、「身だしなみが整っていない」が6校(100.0%)、「学力が低下している」が3校(50.0%)、「宿題や持ち物を忘れることが多い」が5校(83.3%)、「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」が5校(83.3%)、「学校に必要なものを用意してもらえない」が2校(33.3%)、「部活を途中でやめてしまった」が5校(83.3%)、「修学旅行や宿泊行事等を欠席する」が2校(33.3%)、「学校納金が遅れる、未払い」が5校(83.3%)となっている。

Ⅱ 学校における体制について

- 「共有している事例はない」と回答した高等学校はなく、市内の高等学校では、いずれかの事例について共有が行われている。
- 「共有している事例はない」を除く各選択肢について、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 147】

No	選択肢	国	本市	比較
1	学校を休みがちである	97.6%	100.0%	↑
2	遅刻や早退が多い	79.1%	83.3%	↑
3	保健室等の別室で過ごしていることが多い	83.9%	66.7%	↓
4	精神的な不安定さがある	91.2%	83.3%	↓
5	身だしなみが整っていない	35.3%	100.0%	↑
6	学力が低下している	62.2%	50.0%	↓
7	宿題や持ち物を忘れることが多い	45.4%	83.3%	↑
8	保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	28.5%	83.3%	↑
9	学校に必要なものを用意してもらえない	23.7%	33.3%	↑
10	部活を途中でやめてしまった	34.5%	83.3%	↑
11	修学旅行や宿泊行事等を欠席する	35.3%	33.3%	↓
12	学校納金が遅れる、未払い	43.0%	83.3%	↑
13	その他	2.0%	0.0%	↓

- 本市で 100.0%となっている選択肢について、国の調査結果と比較すると、「学校を休みがちである」は国も 97.6%と同じく高い割合となっている。一方で、「身だしなみが整っていない」の割合は、国が 35.3%と本市よりも低くなっている。
- 本市では、「身だしなみが整っていない」、「宿題や持ち物を忘れることが多い」、「保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い」、「部活を途中でやめてしまった」、「学校納金が遅れる、未払い」の 5つの選択肢で国の割合を大きく上回っており、国の割合と比較して、大きく下回っているような選択肢は見られない。

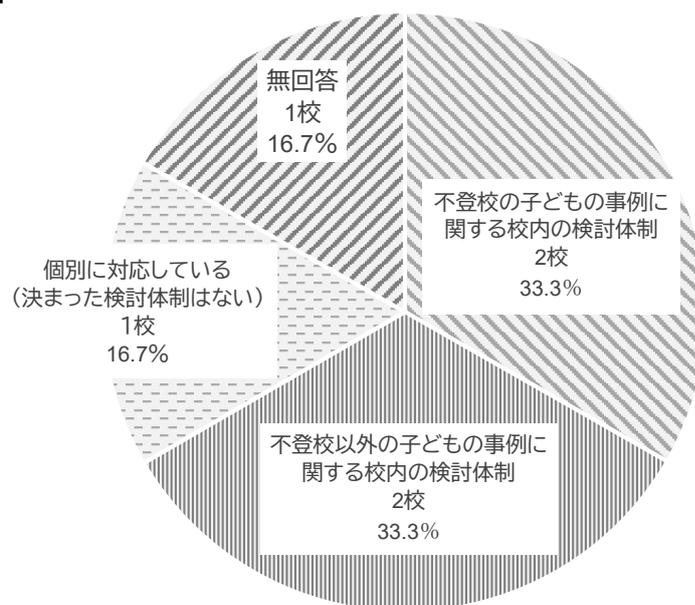
問 5 情報共有・対応の検討体制

(高等学校のみ、問 4 で「共有している事例はない」以外を選択した場合のみ回答)

【図表 148】

上段：校 下段：%	不登校の子どもの事例に 関する校内の検討体制	不登校以外の子ども の事例に関する校内の 検討体制	個別に対応している (決まった検討体制はない)	無回答	計
高等学校	2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7	6 100.0

【図表 149】



- 市内の高等学校では、「不登校の子どもの事例に関する校内の検討体制」が 2 校 (33.3%)、「不登校以外の子どもに関する校内の検討体制」が 2 校 (33.3%)、「個別に対応している (決まった検討体制はない)」が 1 校 (16.7%)、「無回答」が 1 校 (16.7%) となっている。

- 情報共有・対応の検討体制について、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 150】

No	選択肢	国	本市	比較
1	不登校の子どもの事例に関する校内の検討体制	36.9%	33.3%	↓
2	不登校以外の子どもの事例に関する校内の検討体制	37.3%	33.3%	↓
3	個別に対応している（決まった検討体制はない）	26.5%	16.7%	↓
4	無回答	0.4%	16.7%	↑

- 国の調査結果と比較すると、本市ではすべての選択肢において、国の割合より若干低いものの、ほぼ同様の割合構成となっている。

問6 情報共有・対応の検討に関わる人員、方法及び頻度

(高等学校のみ、問5で「個別に対応している(決まった検討体制はない)」を選択した場合のみ回答)

【図表 151】

回答
学年部会(週1回程度)で、担任、副担任、学年主任、学年の教員で情報を共有するとともに、必要に応じて養護教諭、スクールカウンセラーとも連携をとり、管理職(校長、教頭、事務長)に報告する。各学期末の職員会議で、配慮が必要な生徒として全職員が情報を共有する。

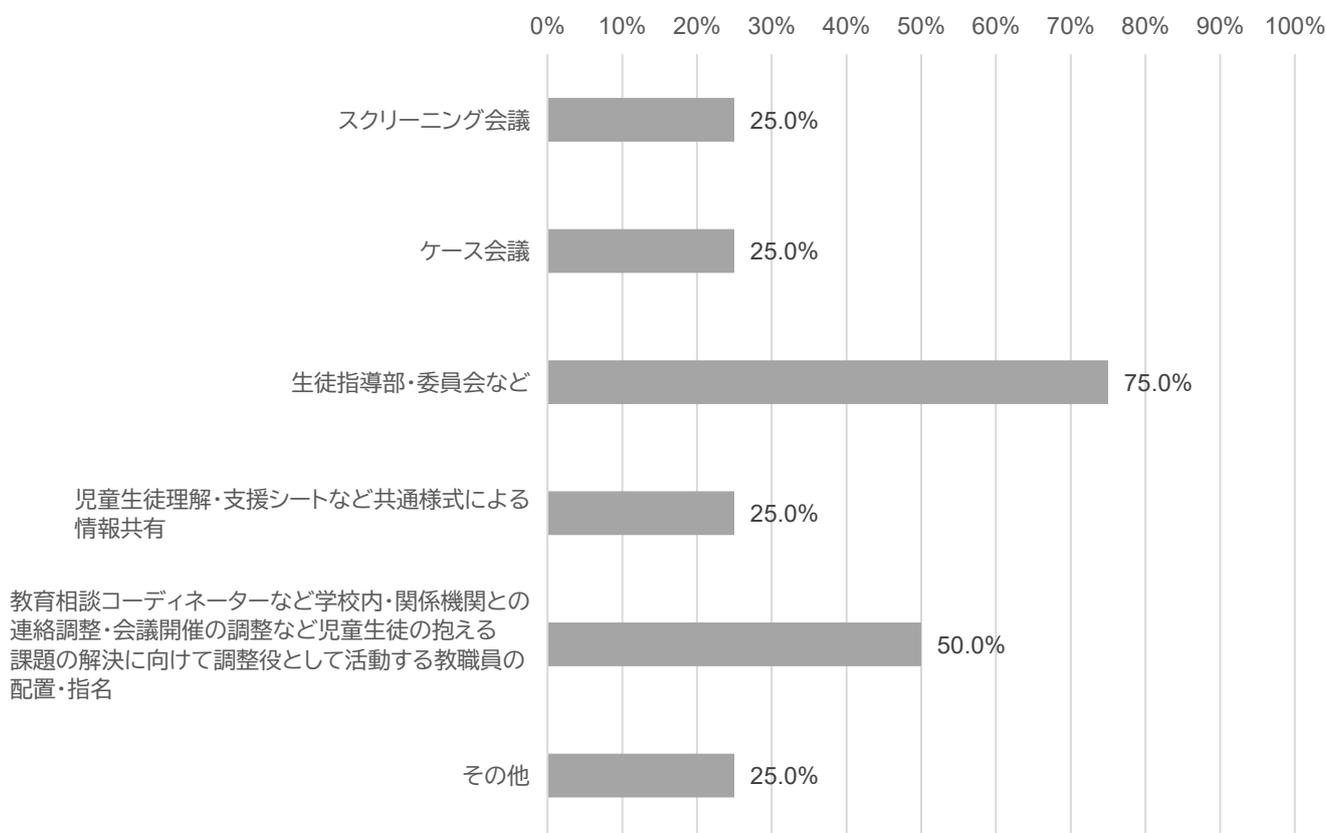
問7 具体的な情報共有・対応の検討方法（複数回答）

（高等学校のみ、問5で「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制」または「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制」を選択した場合のみ回答）

【図表 152】

	スクリーニング会議	ケース会議	生徒指導部・委員会など	児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有	教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名	その他	集計対象数
上段：校 下段：%							
高等学校	1 25.0	1 25.0	3 75.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	4 —

【図表 153】



スクリーニング会議

すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的に支援の必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別を行う会議

教育相談コーディネーター

学校における組織的な連携・支援体制を維持するため、学校内の児童生徒の状況や学校外の関係機関との役割分担、SC や SSW の役割を十分に理解し、初動段階でのアセスメントや関係者への情報伝達等を行う者

Ⅱ 学校における体制について

- 市内の高等学校では、「スクリーニング会議」が1校（25.0%）、「ケース会議」が1校（25.0%）、「生徒指導部・委員会など」が3校（75.0%）、「児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有」が1校（25.0%）、「教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名」が2校（50.0%）、「その他」が1校（25.0%）となっている。
- 具体的な情報共有・対応の検討方法について、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 154】

No	選択肢	国	本市	比較
1	スクリーニング会議	13.1%	25.0%	↑
2	ケース会議	60.1%	25.0%	↓
3	生徒指導部・委員会など	57.4%	75.0%	↑
4	児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有	38.3%	25.0%	↓
5	教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名	58.5%	50.0%	↓
6	その他	14.2%	25.0%	↑

- 国の調査結果と比較すると、「スクリーニング会議」、「生徒指導部・委員会など」及び「その他」は、国の割合より高くなっている。
- 「ケース会議」、「児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有」及び「教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名」は、国の割合より低く、「ケース会議」については、本市では25.0%と、国の60.1%を大きく下回っている。

「その他」回答

・定例職員会議 など

問8 会議に参加する教職員（複数回答）及び開催頻度

（高等学校のみ、問7で「スクリーニング会議」「ケース会議」「生徒指導部・委員会など」「その他」のいずれかを選択した場合のみ回答）

(1) 参加する教職員

【図表 155】

	校長	教頭	学年主任	担任教諭	生徒指導担当	養護教諭	SSW	SC	民生委員	その他	集計対象数
上段：校 下段：%											
スクリーニング会議	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 -
ケース会議	0 0.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 -
生徒指導部・委員会など	0 0.0	2 66.7	3 100.0	2 66.7	1 33.3	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	3 -
その他	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 -

(2) 開催頻度

【図表 156】

	2週間に1回以上	月に1回程度	3か月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度	計
上段：校 下段：%						
スクリーニング会議	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0
ケース会議	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
生徒指導部・委員会など	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	3 100.0
その他	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0

「その他」回答

・高等学校特別支援隊 ・保健主事 ・特別支援コーディネーター など

Ⅱ 学校における体制について

- 「スクリーニング会議」を行っている1校では、「校長」、「教頭」、「学年主任」、「担任教諭」、「養護教諭」及び「SC（スクールカウンセラー）」が参加しており、開催頻度は、「年に1回程度」となっている。
- 「ケース会議」を行っている1校では、「教頭」、「学年主任」、「担任教諭」、「養護教諭」及び「その他」が参加しており、開催頻度は、「3か月に1回程度」となっている。
- 「生徒指導部・委員会など」を行っている3校では、「教頭」が2校(66.7%)、「学年主任」が3校(100.0%)、「担任教諭」が2校(66.7%)、「生徒指導担当」が1校(33.3%)、「養護教諭」が3校(100.0%)、「その他」が2校(66.7%)となっており、開催頻度は、「月に1回程度」が1校(33.3%)、「3か月に1回程度」が2校(66.7%)となっている。
- 「その他」を行っている1校では、「校長」、「教頭」、「学年主任」、「担任教諭」、「生徒指導担当」、「養護教諭」及び「その他」が参加しており、開催頻度は、「月に1回程度」となっている。
- 「学年主任」及び「養護教諭」が、市内全ての高等学校での会議に参加している。
- 「スクリーニング会議」で唯一、「SC（スクールカウンセラー）」が会議の参加者として含まれている。
- 「学年主任」及び「養護教諭」が全ての会議区分における参加者として含まれている。
- 会議の開催頻度について、全ての会議が「月に1回程度」以下となっており、最も少なくても「年に1回程度」となっている。

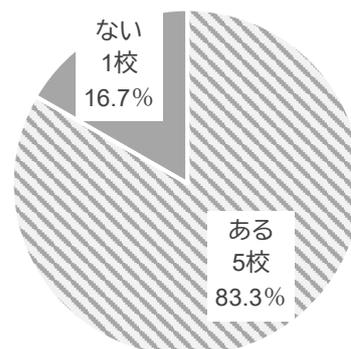
問9 学校以外の機関との情報共有・対応の検討体制の有無

(高等学校のみ回答)

【図表 157】

上段：校 下段：%	ある	ない	計
有無	5	1	6
	83.3	16.7	100.0

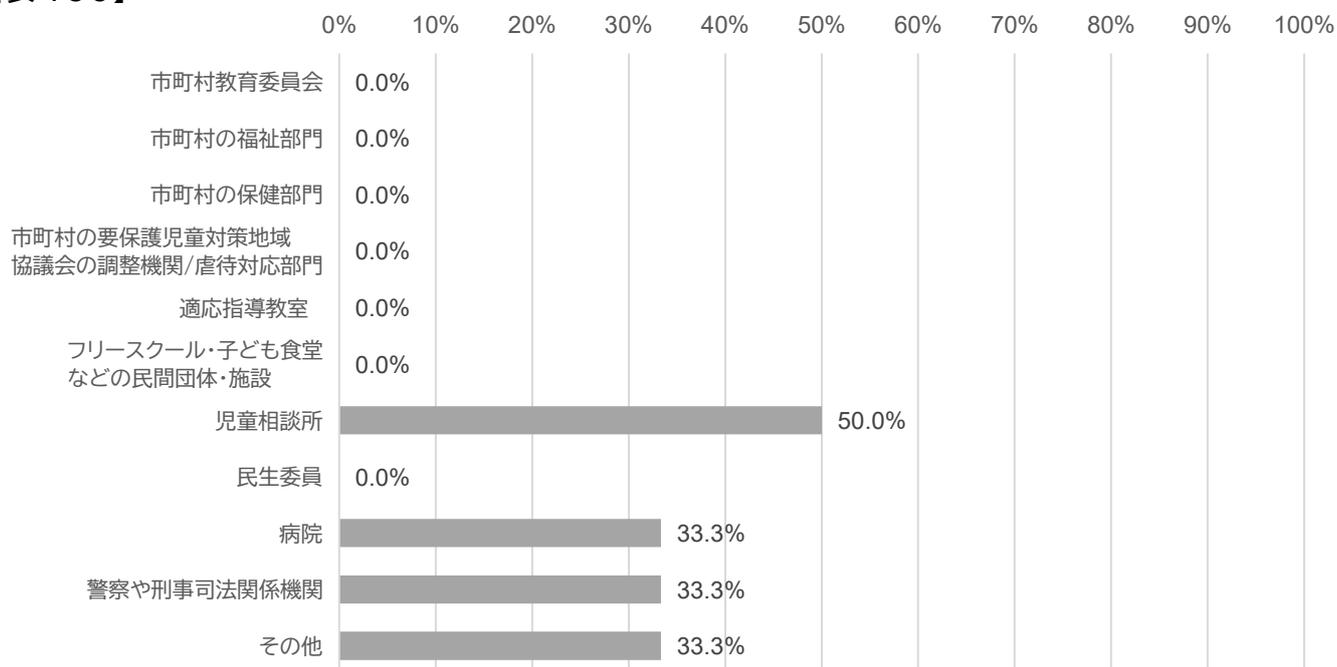
【図表 158】



【図表 159】

上段：校 下段：%	市町村教育委員会	市町村の福祉部門	市町村の保健部門	市町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	適応指導教室	フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	児童相談所	民生委員	病院	警察や刑事司法関係機関	その他	集計対象数
関係機関	0	0	0	0	0	0	3	0	2	2	2	6
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	33.3	33.3	33.3	—

【図表 160】



- 市内の高等学校では、「ある」が5校（83.3%）、「ない」が1校（16.7%）となっている。
- 情報共有等を行っている学校以外の機関としては、「児童相談所」が3校（50.0%）、「病院」、「警察や刑事司法関係機関」及び「その他」が2校（33.3%）となっている。
- 市町村に所属する機関や部門はあがらなかった。

「その他」回答

・特別支援学校 など

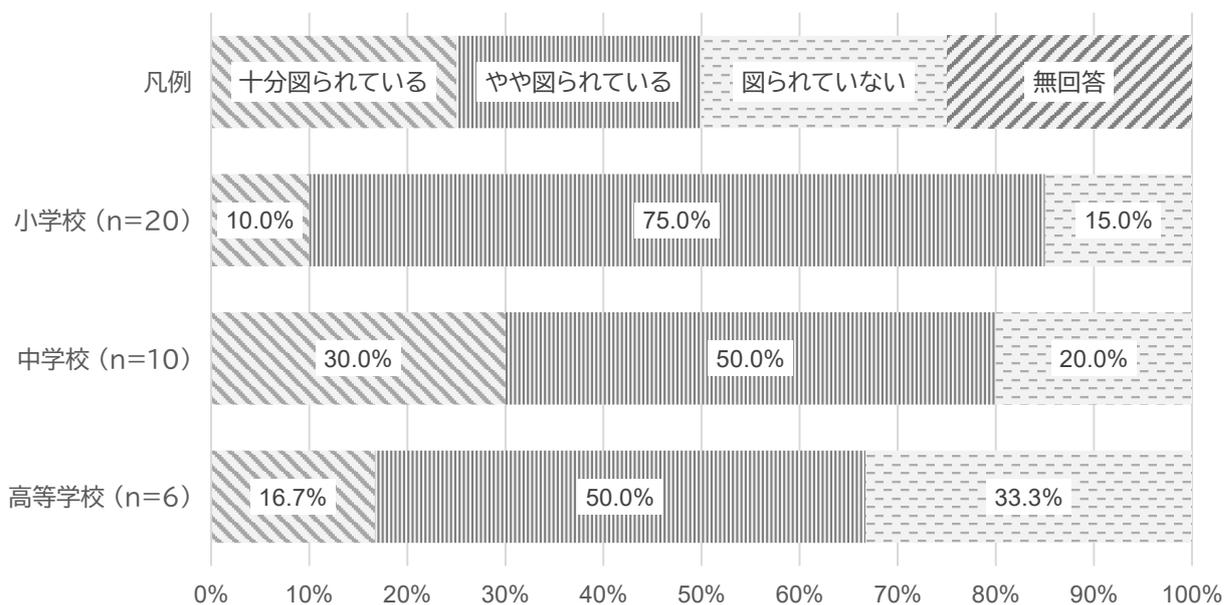
Ⅲ ヤングケアラーについて

問 10 ヤングケアラーについての共通認識

【図表 161】

	十分図られている	やや図られている	図られていない	無回答	計
上段：校 下段：%					
小学校	2 10.0	15 75.0	3 15.0	0 0.0	20 100.0
中学校	3 30.0	5 50.0	2 20.0	0 0.0	10 100.0
高等学校	1 16.7	3 50.0	2 33.3	0 0.0	6 100.0
全体	6 16.7	23 63.9	7 19.4	0 0.0	36 100.0

【図表 162】



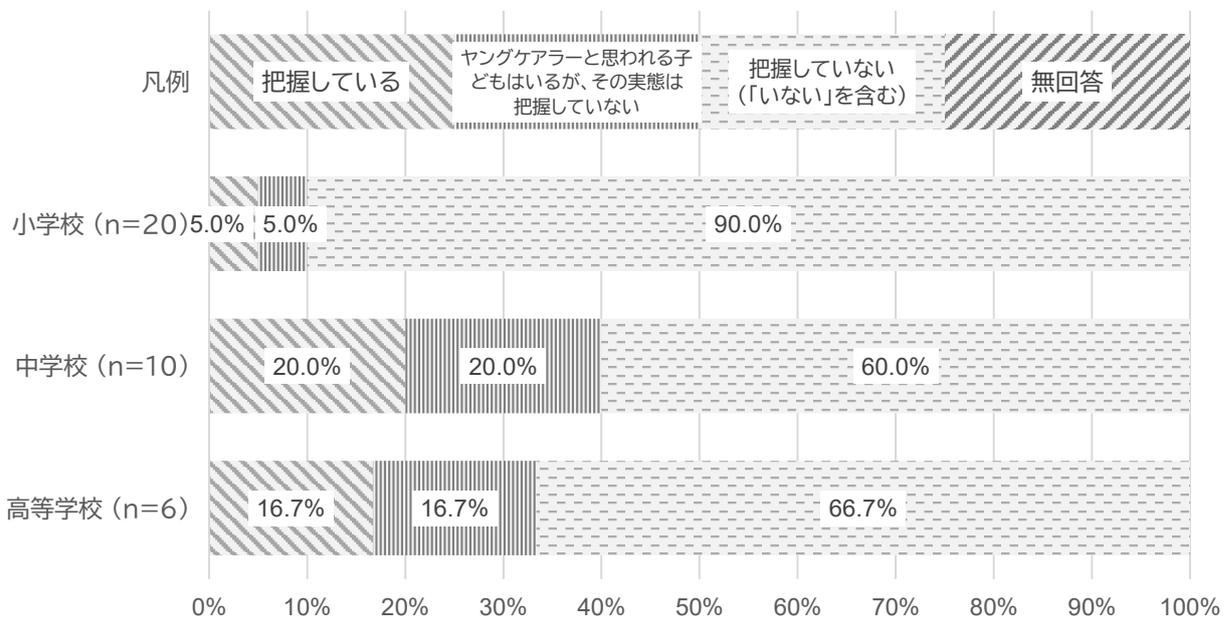
- 小学校では、「十分図られている」が2校（10.0%）、「やや図られている」が15校（75.0%）、「図られていない」が3校（15.0%）となっている。
- 中学校では、「十分図られている」が3校（30.0%）、「やや図られている」が5校（50.0%）、「図られていない」が2校（20.0%）となっている。
- 高等学校では、「十分図られている」が1校（16.7%）、「やや図られている」が3校（50.0%）、「図られていない」が2校（33.3%）となっている。
- 市内の学校全体では、「十分図られている」が6校（16.7%）、「やや図られている」が23校（63.9%）、「図られていない」が7校（19.4%）となっている。

問 11 ヤングケアラーと思われる子どもの把握状況

【図表 163】

上段：校 下段：%	把握している	ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない	把握していない （「いない」を含む）	無回答	計
小学校	1 5.0	1 5.0	18 90.0	0 0.0	20 100.0
中学校	2 20.0	2 20.0	6 60.0	0 0.0	10 100.0
高等学校	1 16.7	1 16.7	4 66.7	0 0.0	6 100.0
全体	4 11.1	4 11.1	28 77.8	0 0.0	36 100.0

【図表 164】



- 小学校では、「把握している」が1校（5.0%）、「ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が1校（5.0%）、「把握していない（「いない」を含む）」が18校（90.0%）となっている。
- 中学校では、「把握している」が2校（20.0%）、「ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が2校（20.0%）、「把握していない「いない」を含む）」が6校（60.0%）となっている。

Ⅲ ヤングケアラーについて

- 高等学校では、「把握している」が1校（16.7%）、「ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が1校（16.7%）、「把握していない（「いない」を含む）」が4校（66.7%）となっている。
- 市内の学校全体では、「把握している」が4校（11.1%）、「ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が4校（11.1%）、「把握していない（「いない」を含む）」が28校（77.8%）となっている。
- ヤングケアラーと思われる子どもの把握状況について、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 165】

区分	把握している			ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない		
	国	本市	比較	国	本市	比較
小学校	44.4%	5.0%	↓	13.9%	5.0%	↓
中学校	61.2%	20.0%	↓	13.2%	20.0%	↑
高等学校	45.8%	16.7%	↓	37.5%	16.7%	↓
区分	把握していない（「いない」を含む）					
	国	本市	比較			
小学校	41.7%	90.0%	↑			
中学校	24.3%	60.0%	↑			
高等学校	12.5%	66.7%	↑			

- 国の調査結果と比較すると、本市では、小学校は「把握している」の割合が5.0%と、国の44.4%より大幅に低く、「ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」も5.0%と、国の13.9%より低く、「把握していない（「いない」を含む）」の割合が90.0%と、国の41.7%よりも大幅に高い。
- 本市では、中学校は「把握している」が20.0%と、国の61.2%より低く、「ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」が20.0%と、国の13.2%より高く、「把握していない（「いない」を含む）」も60.0%と、国の24.3%より高い。
- 本市では、高等学校は「把握している」が16.7%と、国の45.8%より低く、「ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」も16.7%と、国の37.5%より低く、「把握していない（「いない」を含む）」が66.7%と、国の12.5%よりも高い。

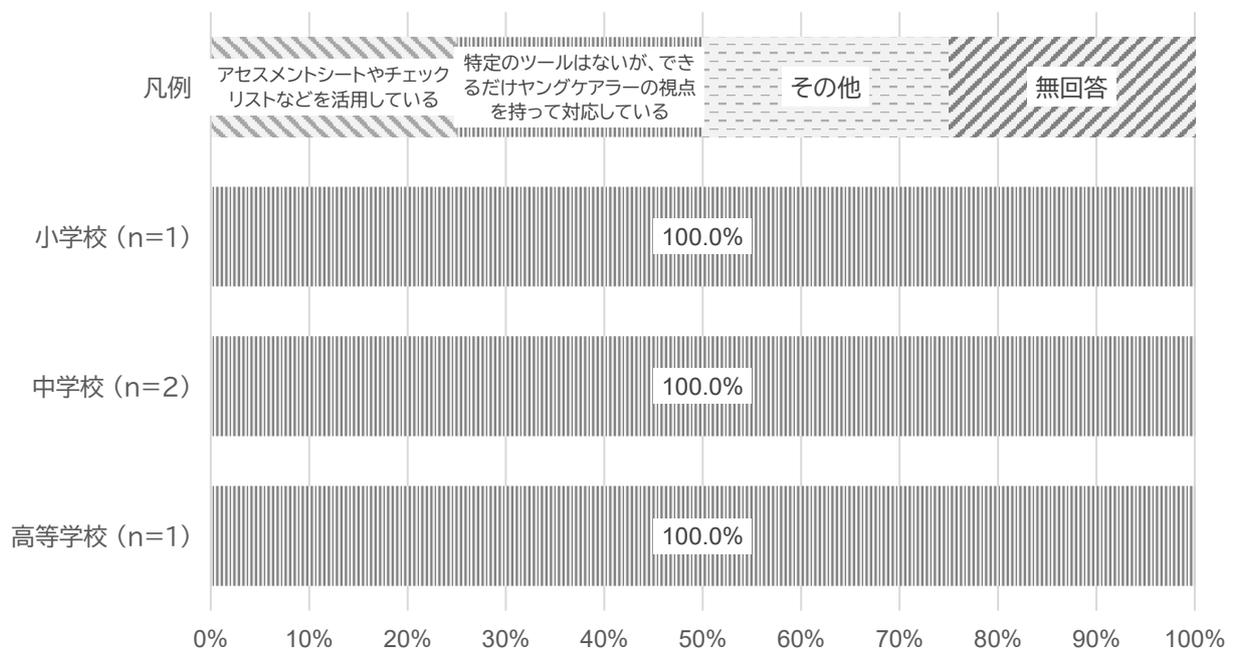
問 12 ヤングケアラーと思われる子どもの把握方法

(問 11 で「把握している」を選択した場合のみ回答)

【図表 166】

	アセスメントシートやチェックリストなどを活用している	特定のツールはないが、できるだけヤングケアラーの視点を持って対応している	その他	無回答	計
上段：校 下段：%					
小学校	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
中学校	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
高等学校	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
全体	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0

【図表 167】



- 市内の学校のうち、ヤングケアラーと思われる子どもの実態を「把握している」全ての学校は、その把握方法として、「特定のツールはないが、できるだけヤングケアラーの視点を持って対応している」と回答している。

ヤングケアラーの視点

ここでは、「学校内にヤングケアラーが存在する可能性があること」、あるいは「ヤングケアラーの児童生徒の立場を考えること」とする。

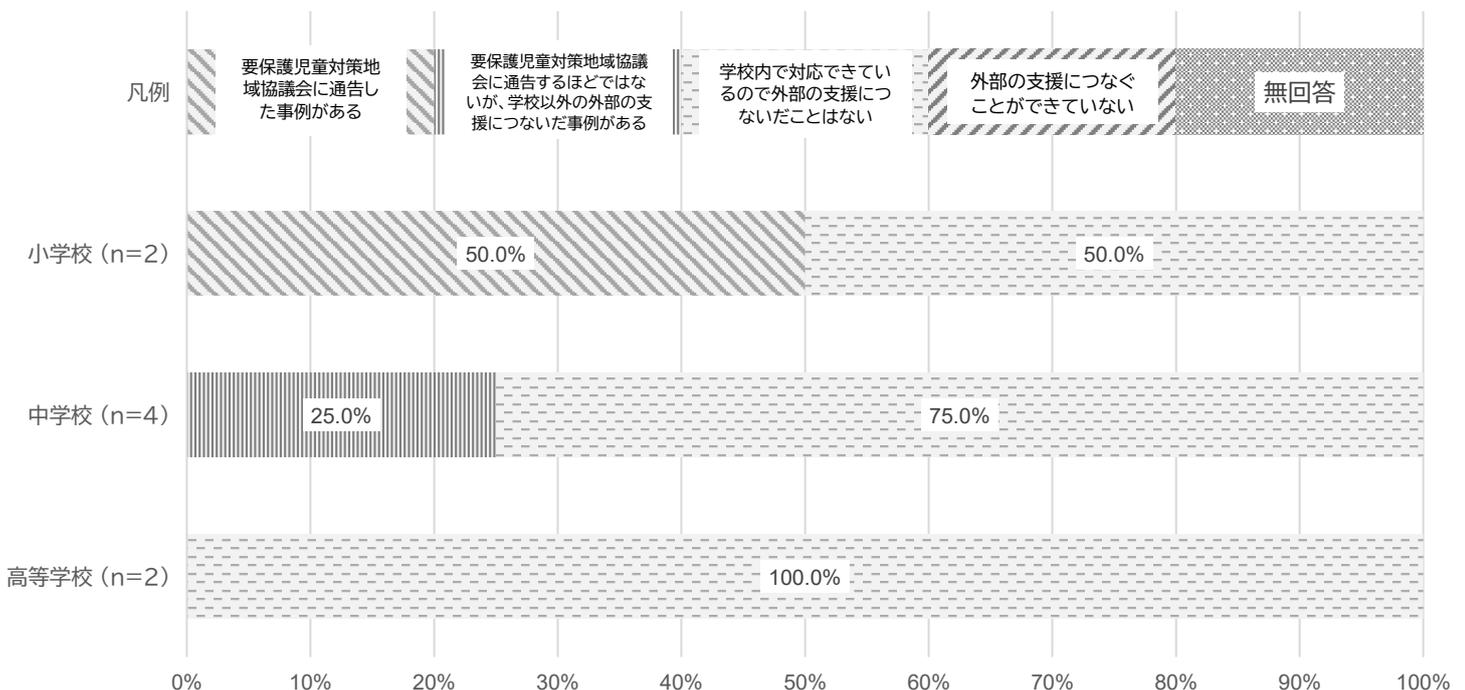
問 13 ヤングケアラーと思われる子どもを学校以外の外部（教育委員会、市役所、要保護児童対策地域協議会など）の支援につないだ事例の有無 ※ 事例の中で最も多いもの1つを選択

（問 11 で「把握している」または「ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない」を選択した場合のみ回答）

【図表 168】

上段：校 下段：%	要保護児童対策地域協議会に通告した事例がある	要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ事例がある	学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない	外部の支援につなぐことができていない	無回答	計
小学校	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
中学校	0 0.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0
高等学校	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
全体	1 12.5	1 12.5	6 75.0	0 0.0	0 0.0	8 100.0

【図表 169】



要保護児童対策地域協議会

保護者のない児童又は保護者に監護させることが不相当であると認められる児童(以下、「要保護児童」という。)の適切な保護を図るため、関係機関等により構成され、要保護児童及びその保護者に関する情報の交換や支援内容の協議を行う会議

Ⅲ ヤングケアラーについて

- 小学校では、「要保護児童対策地域協議会に通告した事例がある」が1校（50.0%）、「学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない」が1校（50.0%）となっている。
- 中学校では、「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ事例がある」が1校（25.0%）、「学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない」が3校（75.0%）となっている。
- 高等学校では、「学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない」が2校（100.0%）となっている。
- 市内の学校全体では、「要保護児童対策地域協議会に通告した事例がある」が1校（12.5%）、「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ事例がある」が1校（12.5%）、「学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない」が6校（75.0%）となっている。
- ヤングケアラーと思われる子どもを学校以外の外部の支援につないだ事例の有無について、国の調査結果と比較すると、次のとおりとなる。

【図表 170】

区分	要保護児童対策地域協議会に通告した事例がある			要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ事例がある		
	国	本市	比較	国	本市	比較
小学校	25.8%	50.0%	↑	33.7%	0.0%	↓
中学校	19.4%	0.0%	↓	43.0%	25.0%	↓
高等学校	8.1%	0.0%	↓	23.4%	0.0%	↓
区分	学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない					
	国	本市	比較			
小学校	42.7%	50.0%	↑			
中学校	37.9%	75.0%	↑			
高等学校	62.9%	100.0%	↑			

※ 国の調査では、「外部の支援につなぐことができていない」は選択肢に含まれていない。

- 国の調査結果と比較すると、本市では、小学校は「要保護児童対策地域協議会に通告した事例がある」が50.0%と、国の25.8%よりも高く、「学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない」も50.0%と、国の42.7%よりも高くなっている。一方で、「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ事例がある」が0.0%と、国の33.7%より低い。
- 本市では、中学校は「学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない」が75.0%と、国の37.9%よりも高くなっている。一方で、「要保護児童対策地域協議会に通告した事例がある」が0.0%と、国の19.4%よりも低く、「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ事例がある」も25.0%と、国の43.0%よりも低い。

Ⅲ ヤングケアラーについて

- 本市では、高等学校は「学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない」が100.0%と、国の62.9%よりも高くなっている。一方で、「要保護児童対策地域協議会に通告した事例がある」が0.0%と、国の8.1%よりも低く、「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ事例がある」も0.0%と、国の23.4%よりも低い。

問 14 学校内での具体的な対応方法

(問 13 で「学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない」を選択した場合のみ回答)

【図表 171】

小学校
<ul style="list-style-type: none"> ・児童を語る会で情報共有し、保護者面談を通して家庭での過ごし方について状況把握を行った。
中学校
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を語る会で共通認識し、生徒との教育相談、保護者との2者面談を実施した。 ・職員会議や生徒指導委員会等で情報を共有し、スクールカウンセラーの助言等を受けながら、生徒指導専任教諭と学年部を中心として対応している。 ・校内のさわやか委員会で情報共有している。
高等学校
<ul style="list-style-type: none"> ・校内の会議で検討し、その後保護者も交えて面談をしたことがあった。 ・ヤングケアラーと思われる生徒が既に外部の支援を受けていたため、本人、保護者と担任や学年主任との面談で状況の確認をしている。

問 15 外部の支援につなぐことができていない理由

(問 13 で「外部の支援につなぐことができていない」を選択した場合のみ回答)

【図表 172】

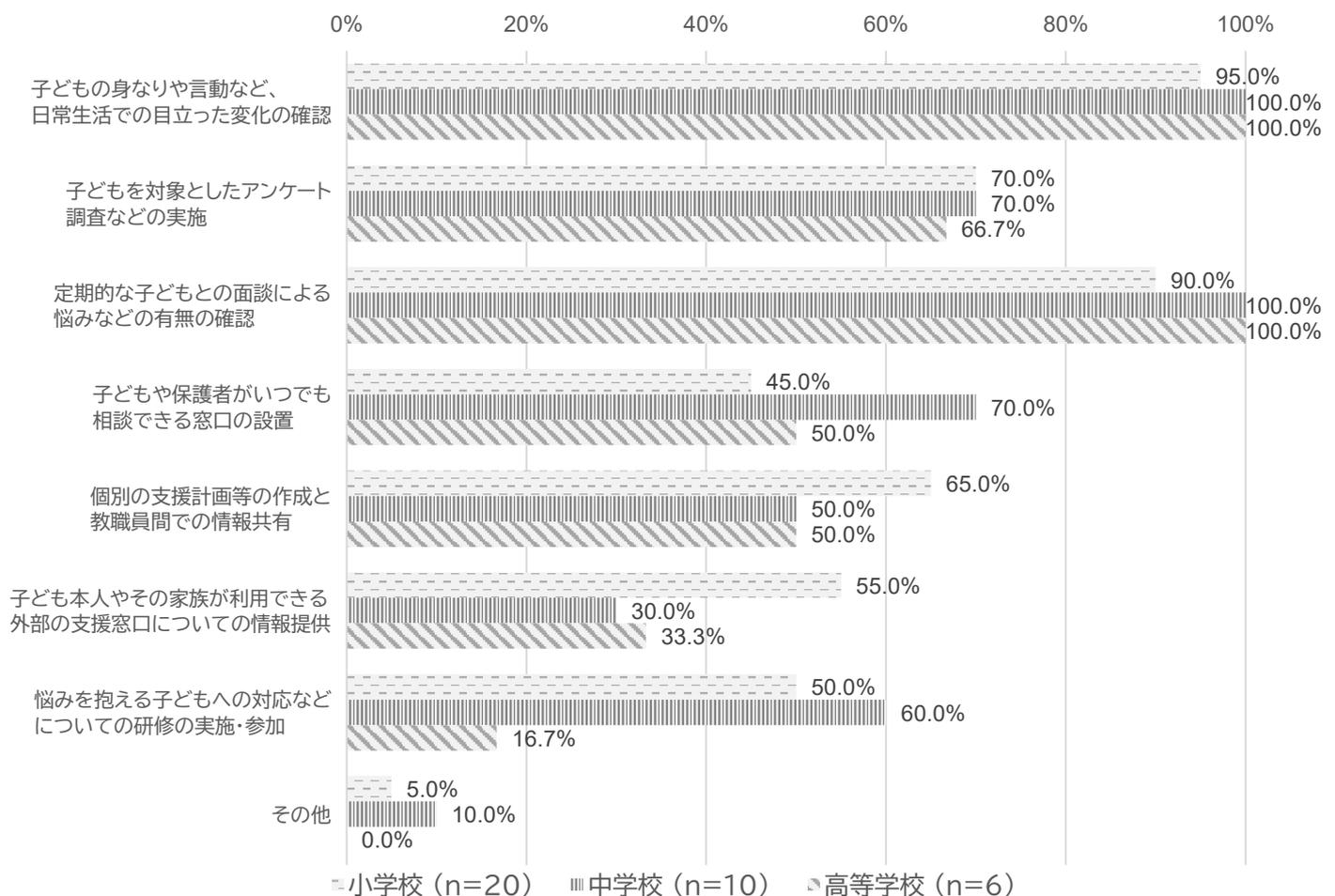
小学校
該当校なし
中学校
該当校なし
高等学校
該当校なし

問 16 ヤングケアラーなど悩みを抱える子どもの把握や支援にあたって工夫していること（複数回答）

【図表 173】

	子どもの身なりや言動など、日常生活での目立った変化の確認	子どもを対象としたアンケート調査などの実施	定期的な子どもとの面談による悩みなどの有無の確認	子どもや保護者がいつでも相談できる窓口の設置	個別の支援計画等の作成と教職員間での情報共有	子ども本人やその家族が利用できる外部の支援窓口についての情報提供	悩みを抱える子どもへの対応などについての研修の実施・参加	その他	集計対象数
上段：校 下段：%									
小学校	19 95.0	14 70.0	18 90.0	9 45.0	13 65.0	11 55.0	10 50.0	1 5.0	20 —
中学校	10 100.0	7 70.0	10 100.0	7 70.0	5 50.0	3 30.0	6 60.0	1 10.0	10 —
高等学校	6 100.0	4 66.7	6 100.0	3 50.0	3 50.0	2 33.3	1 16.7	0 0.0	6 —
全体	35 97.2	25 69.4	34 94.4	19 52.8	21 58.3	16 44.4	17 47.2	2 5.6	36 —

【図表 174】



Ⅲ ヤングケアラーについて

- 小学校では、「子どもの身なりや言動など、日常生活での目立った変化の確認」が19校(95.0%)、「子どもを対象としたアンケート調査などの実施」が14校(70.0%)、「定期的な子どもとの面談による悩みなどの有無の確認」が18校(90.0%)、「子どもや保護者がいつでも相談できる窓口の設置」が9校(45.0%)、「個別の支援計画等の作成と教職員間での情報共有」が13校(65.0%)、「子ども本人やその家族が利用できる外部の支援窓口についての情報提供」が11校(55.0%)、「悩みを抱える子どもへの対応などについての研修の実施・参加」が10校(50.0%)、「その他」が1校(5.0%)となっている。
- 中学校では、「子どもの身なりや言動など、日常生活での目立った変化の確認」が10校(100.0%)、「子どもを対象としたアンケート調査などの実施」が7校(70.0%)、「定期的な子どもとの面談による悩みなどの有無の確認」が10校(100.0%)、「子どもや保護者がいつでも相談できる窓口の設置」が7校(70.0%)、「個別の支援計画等の作成と教職員間での情報共有」が5校(50.0%)、「子ども本人やその家族が利用できる外部の支援窓口についての情報提供」が3校(30.0%)、「悩みを抱える子どもへの対応などについての研修の実施・参加」が6校(60.0%)、「その他」が1校(10.0%)となっている。
- 高等学校では、「子どもの身なりや言動など、日常生活での目立った変化の確認」が6校(100.0%)、「子どもを対象としたアンケート調査などの実施」が4校(66.7%)、「定期的な子どもとの面談による悩みなどの有無の確認」が6校(100.0%)、「子どもや保護者がいつでも相談できる窓口の設置」が3校(50.0%)、「個別の支援計画等の作成と教職員間での情報共有」が3校(50.0%)、「子ども本人やその家族が利用できる外部の支援窓口についての情報提供」が2校(33.3%)、「悩みを抱える子どもへの対応などについての研修の実施・参加」が1校(16.7%)となっている。
- 市内の学校全体では、「子どもの身なりや言動など、日常生活での目立った変化の確認」が35校(97.2%)、「子どもを対象としたアンケート調査などの実施」が25校(69.4%)、「定期的な子どもとの面談による悩みなどの有無の確認」が34校(94.4%)、「子どもや保護者がいつでも相談できる窓口の設置」が19校(52.8%)、「個別の支援計画等の作成と教職員間での情報共有」が21校(58.3%)、「子ども本人やその家族が利用できる外部の支援窓口についての情報提供」が16校(44.4%)、「悩みを抱える子どもへの対応などについての研修の実施・参加」が17校(47.2%)、「その他」が2校(5.6%)となっている。

「その他」回答

- ・ 家庭訪問や市の担当者との情報共有
- ・ スクールカウンセラー、スマイルサポーターとの生徒情報の共有 など

- ヤングケアラーなど悩みを抱える子どもの把握や支援にあたって工夫していることについて、各学区分において、上位3項目をまとめると、次のとおりとなる。

【図表 175】

区分	No	選択肢	選択校数	割合
小学校	1	子どもの身なりや言動など、日常生活での目立った変化の確認	19	95.0%
	2	定期的な子どもとの面談による悩みなどの有無の確認	18	90.0%
	3	子どもを対象としたアンケート調査などの実施	14	70.0%
中学校	1	・子どもの身なりや言動など、日常生活での目立った変化の確認 ・定期的な子どもとの面談による悩みなどの有無の確認	10	100.0%
	2	・子どもを対象としたアンケート調査などの実施 ・子どもや保護者がいつでも相談できる窓口の設置	7	70.0%
	3	悩みを抱える子どもへの対応などについての研修の実施・参加	6	60.0%
高等学校	1	・子どもの身なりや言動など、日常生活での目立った変化の確認 ・定期的な子どもとの面談による悩みなどの有無の確認	6	100.0%
	2	子どもを対象としたアンケート調査などの実施	4	66.7%
	3	・子どもや保護者がいつでも相談できる窓口の設置 ・個別の支援計画等の作成と教職員間での情報共有	3	50.0%
全体	1	子どもの身なりや言動など、日常生活での目立った変化の確認	35	97.2%
	2	定期的な子どもとの面談による悩みなどの有無の確認	34	94.4%
	3	子どもを対象としたアンケート調査などの実施	25	69.4%

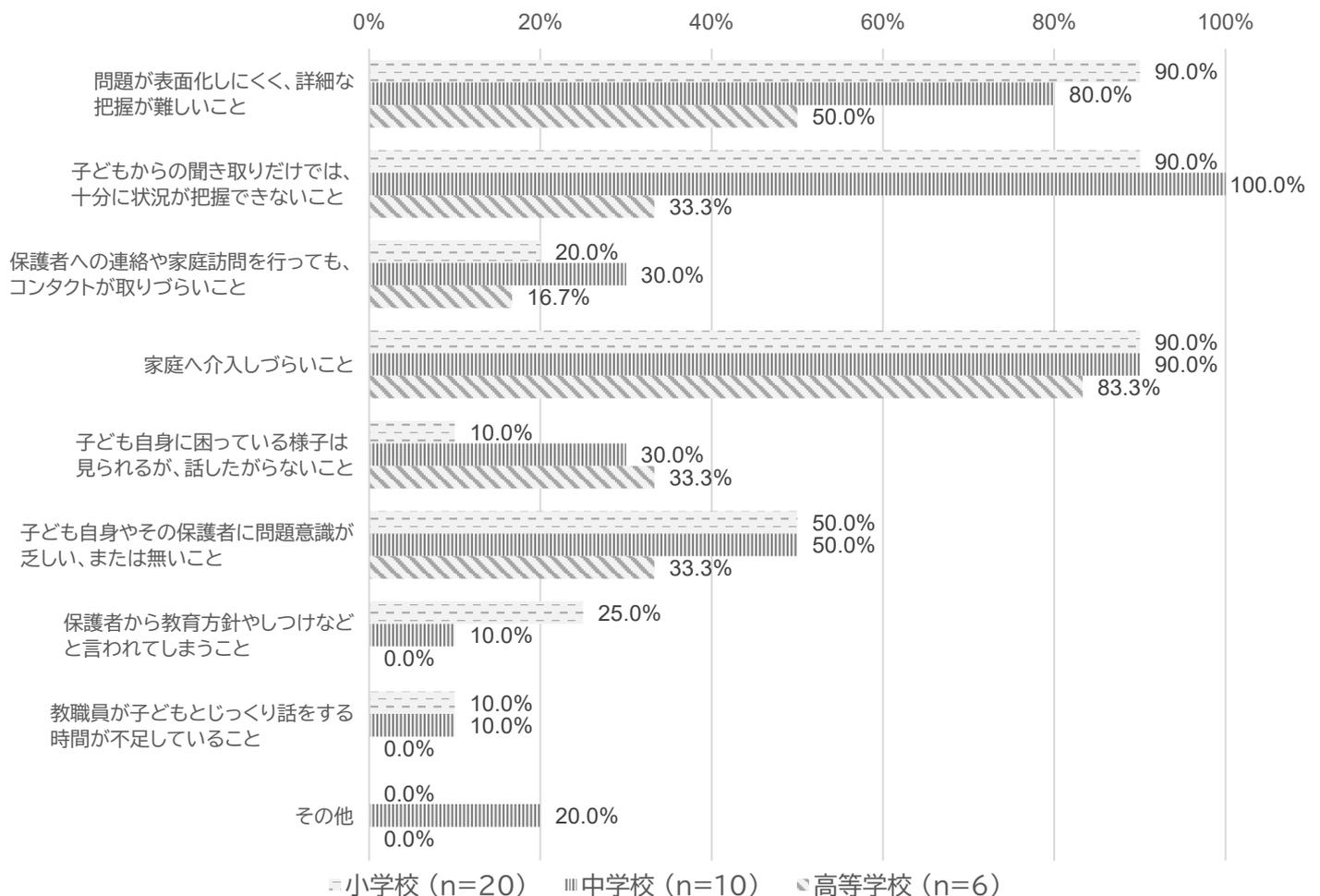
- 「子どもの身なりや言動など、日常生活での目立った変化の確認」及び「定期的な子どもとの面談による悩みなどの有無の確認」は、市内の学校全体の90%以上が取り組んでいる。
- 「子どもを対象としたアンケート調査などの実施」については、市内の学校全体の約70%が取り組んでいる。

問 17 ヤングケアラーなど悩みを抱える子どもの把握や支援にあたって難しいと感じること（複数回答）

【図表 176】

	問題が表面化しにくく、詳細な把握が難しいこと	子どもからの聞き取りだけでは、十分に状況が把握できないこと	保護者への連絡や家庭訪問を行っても、コンタクトが取りづらいこと	家庭へ介入しづらいこと	子ども自身に困っている様子は見られるが、話したまらないこと	子ども自身やその保護者に問題意識が乏しい、または無いこと	保護者から教育方針やしつけなどと言われてしまうこと	教職員が子どもとじっくり話をする時間が不足していること	その他	集計対象数
上段：校										
下段：%										
小学校	18	18	4	18	2	10	5	2	0	20
	90.0	90.0	20.0	90.0	10.0	50.0	25.0	10.0	0.0	—
中学校	8	10	3	9	3	5	1	1	2	10
	80.0	100.0	30.0	90.0	30.0	50.0	10.0	10.0	20.0	—
高等学校	3	2	1	5	2	2	0	0	0	6
	50.0	33.3	16.7	83.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	—
全体	29	30	8	32	7	17	6	3	2	36
	80.6	83.3	22.2	88.9	19.4	47.2	16.7	8.3	5.6	—

【図表 177】



Ⅲ ヤングケアラーについて

- 小学校では、「問題が表面化しにくく、詳細な把握が難しいこと」が18校(90.0%)、「子どもからの聞き取りだけでは、十分に状況が把握できないこと」が18校(90.0%)、「保護者への連絡や家庭訪問を行っても、コンタクトが取りづらいこと」が4校(20.0%)、「家庭へ介入しづらいこと」が18校(90.0%)、「子ども自身に困っている様子が見られるが、話したがるらないこと」が2校(10.0%)、「子ども自身やその保護者に問題意識が乏しい、または無いこと」が10校(50.0%)、「保護者から教育方針やしつけなどと言われてしまうこと」が5校(25.0%)、「教職員が子どもとじっくり話をする時間が不足していること」が2校(10.0%)となっている。
- 中学校では、「問題が表面化しにくく、詳細な把握が難しいこと」が8校(80.0%)、「子どもからの聞き取りだけでは、十分に状況が把握できないこと」が10校(100.0%)、「保護者への連絡や家庭訪問を行っても、コンタクトが取りづらいこと」が3校(30.0%)、「家庭へ介入しづらいこと」が9校(90.0%)、「子ども自身に困っている様子が見られるが、話したがるらないこと」が3校(30.0%)、「子ども自身やその保護者に問題意識が乏しい、または無いこと」が5校(50.0%)、「保護者から教育方針やしつけなどと言われてしまうこと」が1校(10.0%)、「教職員が子どもとじっくり話をする時間が不足していること」が1校(10.0%)、「その他」が2校(20.0%)となっている。
- 高等学校では、「問題が表面化しにくく、詳細な把握が難しいこと」が3校(50.0%)、「子どもからの聞き取りだけでは、十分に状況が把握できないこと」が2校(33.3%)、「保護者への連絡や家庭訪問を行っても、コンタクトが取りづらいこと」が1校(16.7%)、「家庭へ介入しづらいこと」が5校(83.3%)、「子ども自身に困っている様子が見られるが、話したがるらないこと」が2校(33.3%)、「子ども自身やその保護者に問題意識が乏しい、または無いこと」が2校(33.3%)となっている。
- 市内の学校全体では、「問題が表面化しにくく、詳細な把握が難しいこと」が29校(80.6%)、「子どもからの聞き取りだけでは、十分に状況が把握できないこと」が30校(83.3%)、「保護者への連絡や家庭訪問を行っても、コンタクトが取りづらいこと」が8校(22.2%)、「家庭へ介入しづらいこと」が32校(88.9%)、「子ども自身に困っている様子が見られるが、話したがるらないこと」が7校(19.4%)、「子ども自身やその保護者に問題意識が乏しい、または無いこと」が17校(47.2%)、「保護者から教育方針やしつけなどと言われてしまうこと」が6校(16.7%)、「教職員が子どもとじっくり話をする時間が不足していること」が3校(8.3%)、「その他」が2校(5.6%)となっている。

「その他」回答

- ・関係機関と連携しても、情報共有で終わってしまうこと
- ・捉え方に個人差があること など

- ヤングケアラーなど悩みを抱える子どもの把握や支援にあたって難しいと感じることについて、各学校区分の上位3項目をまとめると、次のとおりとなる。

【図表 178】

区分	No	選択肢	選択校数	割合
小学校	1	・問題が表面化しにくく、詳細な把握が難しいこと ・子どもからの聞き取りだけでは、十分に状況が把握できないこと ・家庭へ介入しづらいこと	18	90.0%
	2	子ども自身やその保護者に問題意識が乏しい、または無いこと	10	50.0%
	3	保護者から教育方針やしつけなどと言われてしまうこと	5	25.0%
中学校	1	子どもからの聞き取りだけでは、十分に状況が把握できないこと	10	100.0%
	2	家庭へ介入しづらいこと	9	90.0%
	3	問題が表面化しにくく、詳細な把握が難しいこと	8	80.0%
高等学校	1	家庭へ介入しづらいこと	5	83.3%
	2	問題が表面化しにくく、詳細な把握が難しいこと	3	50.0%
	3	・子どもからの聞き取りだけでは、十分に状況が把握できないこと ・子ども自身に困っている様子は見られるが、話したがないこと ・子ども自身やその保護者に問題意識が乏しい、または無いこと	2	33.3%
全体	1	家庭へ介入しづらいこと	32	88.9%
	2	子どもからの聞き取りだけでは、十分に状況が把握できないこと	30	83.3%
	3	問題が表面化しにくく、詳細な把握が難しいこと	29	80.6%

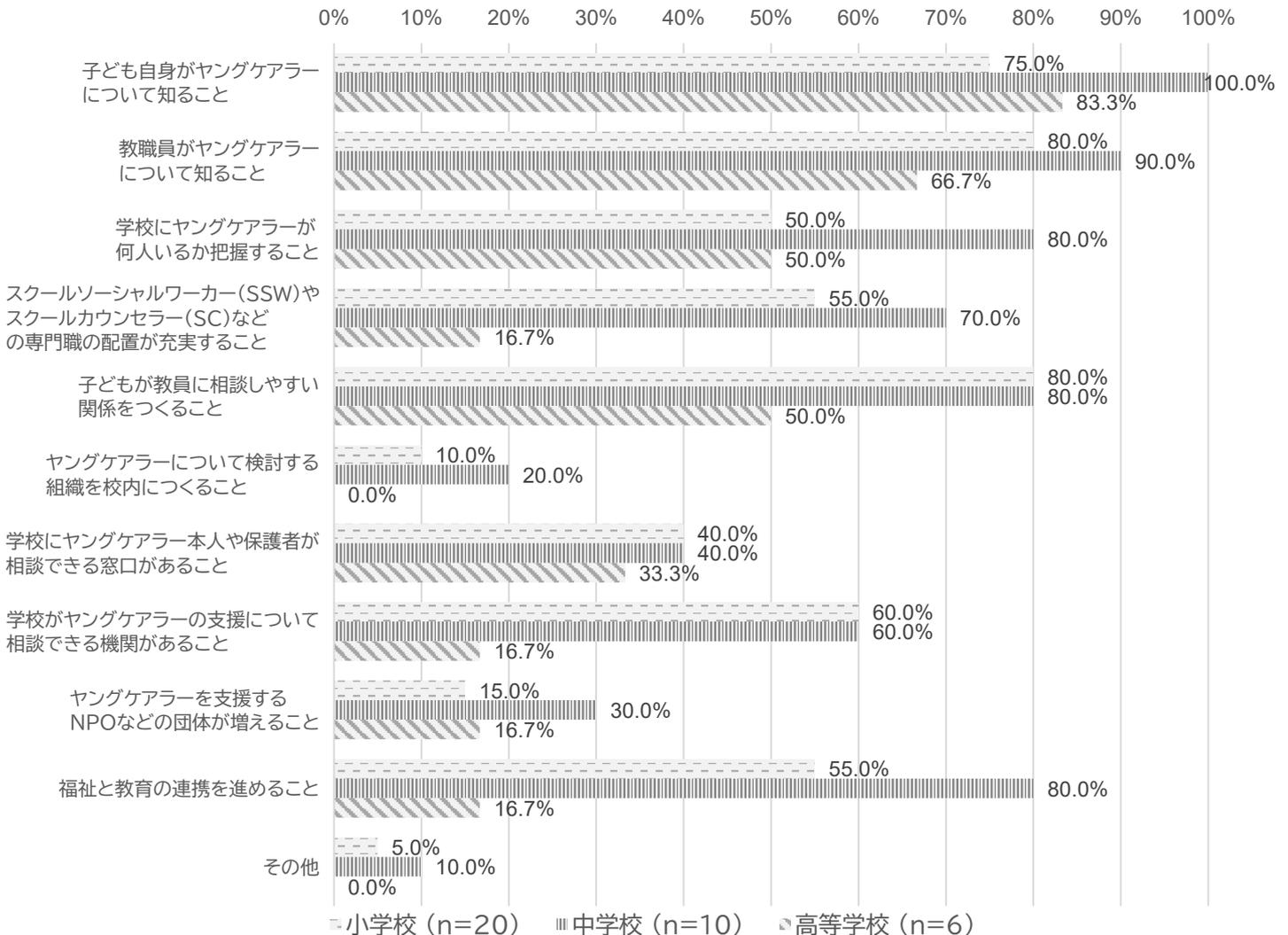
- 悩みを抱える子どもの把握や支援にあたって難しいと感じることとして、市内の学校全体の約 90%が「家庭へ介入しづらいこと」をあげている。
- 市内の学校全体の約 80%が「子どもからの聞き取りだけでは、十分に状況が把握できないこと」及び「問題が表面化しにくく、詳細な把握が難しいこと」をあげている。

問 18 ヤングケアラーを支援するために必要と考えること（複数回答）

【図表 179】

	子ども自身がヤングケアラーについて 知ること	教職員がヤングケアラーについて知 ること	学校にヤングケアラーが何人いるか 把握すること	スクールソーシャルワーカー（SSW）や スクールカウンセラー（SC）などの専 門職の配置が充実すること	子どもが教員に相談しやすい関係 をつくること	ヤングケアラーについて検討する組 織を校内につくること	学校にヤングケアラー本人や保護者 が相談できる窓口があること	学校がヤングケアラーの支援につい て相談できる機関があること	ヤングケアラーを支援するNPOな どの団体が増えること	福祉と教育の連携を進めること	その他	集計対象数
上段：校 下段：%												
小学校	15 75.0	16 80.0	10 50.0	11 55.0	16 80.0	2 10.0	8 40.0	12 60.0	3 15.0	11 55.0	1 5.0	20 —
中学校	10 100.0	9 90.0	8 80.0	7 70.0	8 80.0	2 20.0	4 40.0	6 60.0	3 30.0	8 80.0	1 10.0	10 —
高等学校	5 83.3	4 66.7	3 50.0	1 16.7	3 50.0	0 0.0	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	6 —
全体	30 83.3	29 80.6	21 58.3	19 52.8	27 75.0	4 11.1	14 38.9	19 52.8	7 19.4	20 55.6	2 5.6	36 —

【図表 180】



Ⅲ ヤングケアラーについて

- 小学校では、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が15校(75.0%)、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が16校(80.0%)、「学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること」が10校(50.0%)、「スクールソーシャルワーカー(SSW)やスクールカウンセラー(SC)などの専門職の配置が充実すること」が11校(55.0%)、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が16校(80.0%)、「ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること」が2校(10.0%)、「学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること」が8校(40.0%)、「学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること」が12校(60.0%)、「ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること」が3校(15.0%)、「福祉と教育の連携を進めること」が11校(55.0%)、「その他」が1校(5.0%)となっている。
- 中学校では、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が10校(100.0%)、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が9校(90.0%)、「学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること」が8校(80.0%)、「スクールソーシャルワーカー(SSW)やスクールカウンセラー(SC)などの専門職の配置が充実すること」が7校(70.0%)、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が8校(80.0%)、「ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること」が2校(20.0%)、「学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること」が4校(40.0%)、「学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること」が6校(60.0%)、「ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること」が3校(30.0%)、「福祉と教育の連携を進めること」が8校(80.0%)、「その他」が1校(10.0%)となっている。
- 高等学校では、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が5校(83.3%)、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が4校(66.7%)、「学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること」が3校(50.0%)、「スクールソーシャルワーカー(SSW)やスクールカウンセラー(SC)などの専門職の配置が充実すること」が1校(16.7%)、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が3校(50.0%)、「学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること」が2校(33.3%)、「学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること」が1校(16.7%)、「ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること」が1校(16.7%)、「福祉と教育の連携を進めること」が1校(16.7%)となっている。
- 市内の学校全体では、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が30校(83.3%)、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が29校(80.6%)、「学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること」が21校(58.3%)、「スクールソーシャルワーカー(SSW)やスクールカウンセラー(SC)などの専門職の配置が充実すること」が19校(52.8%)、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が27校(75.0%)、「ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること」が4校(11.1%)、「学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること」が14校(38.9%)、「学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること」が19校(52.8%)、「ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること」が7校(19.4%)、「福祉と教育の連携を進めること」が20校(55.6%)、「その他」が2校(5.6%)となっている。

「その他」回答

- ・子どもへの支援及び保護者への教育をどこが、どのようにするか、明確にすること
- ・保護者がヤングケアラーについて知ること など

Ⅲ ヤングケアラーについて

- ヤングケアラーを支援するために必要と考えることについて、各学校区分における上位3項目をまとめると、次のとおりとなる。

【図表 181】

区分	No	選択肢	選択校数	割合
小学校	1	・教職員がヤングケアラーについて知ること ・子どもが教員に相談しやすい関係をつくること	16	80.0%
	2	子ども自身がヤングケアラーについて知ること	15	75.0%
	3	学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること	12	60.0%
中学校	1	子ども自身がヤングケアラーについて知ること	10	100.0%
	2	教職員がヤングケアラーについて知ること	9	90.0%
	3	・学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること ・子どもが教員に相談しやすい関係をつくること ・福祉と教育の連携を進めること	8	80.0%
高等学校	1	子ども自身がヤングケアラーについて知ること	5	83.3%
	2	教職員がヤングケアラーについて知ること	4	66.7%
	3	・学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること ・子どもが教員に相談しやすい関係をつくること	3	50.0%
全体	1	子ども自身がヤングケアラーについて知ること	30	83.3%
	2	教職員がヤングケアラーについて知ること	29	80.6%
	3	子どもが教員に相談しやすい関係をつくること	27	75.0%

- ヤングケアラーを支援するために必要と考えることとして、市内の学校の80%以上が「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」及び「教職員がヤングケアラーについて知ること」をあげている。

第
4

自由記述

第4 自由記述

本調査票に記載のあったヤングケアラーに関する意見等の自由記述について、主なものを掲載する。

以下に記載する意見は、軽微な誤字脱字は修正したが、なるべく原文のまま回答者の表現を用いる形としている。

I 小学生

- 自分がヤングケアラーで一人だったら手伝ってくれる人がいればいいなとおもいました。
- 障害みたいなことかと思った。
- 分からない。
- ヤングケアラーのひとを助けたい。
- 困っていることがあったらまわりの大人の人に相談できるといいと思います。
- 困っていたら、こんな助けがあるよ！とかが分かたらもっと相談してみようと思う人が増えるのではと思います。
- 本当に世界でも日本でも大変な人がいるんだなと思いました。でもあの人が悪いとは言えないし結局誰のせいでもないのです。助けてあげたいけど何をすればいいのか正直分からないので願ってばかりです。これでは意味がないしどうにもできないので助け方を教えてもらいたいです。
- 大人がやらないといけない事をやっていて自分がやりたい事が出来ないから可哀そうだなと思いました。
- 私より小さい子とかが大人のお世話をするのは、大変だと思う。
- どうしてヤングケアラーが広まったのか。
- 誰にも話せないことや、悩んでいることなど一人で抱えていて助けたいなと思います。
- 自分のやりたいことができないのがかわいそう。
- 自分がもしヤングケアラーだったらとてもストレスがたまると思います。今ヤングケアラーの人はとてもストレスを感じていると思います。そんなヤングケアラーの人が相談できる場所をつくることができたらいいなと思いました。
- 最初にヤングケアラーは逆に親の世話を子供がするという事を知ってびっくりしました。テレビで見たときに世話などで勉強が思うようにできなかつたりご飯も自分で作って寝る時間も11時を過ぎてからだったりという生活をしていて私だったらできないかとも思いました。私の生活とヤングケアラーの人たちの生活をくらべて私は好きなこともできて幸せだなと思いました。
- すごいことだけど、自分の時間まで削るほど大変なことだと思う。
- ヤングケアラーは、悪いことではないのでやっていいと思う。でも、頑張りすぎもよくないと思う。
- 忙しくて相談出来ないと思う。
- もし友達がヤングケアラーだったら助けてあげたいし、相談に乗ってあげたい。
- ヤングケアラーの人は相談してもいいと思った。
- ヤングケアラーはおとなになる機会が少なくなってしまう。
- 困っている人を助けるための施設を作ってほしい。
- 子供が遊ぶ時間がなくなったり、勉強をする時間がなくなったりしてしまうから大人の人がやってあげて欲しいです。
- 自分がやりたいことができない・あまり自分の気持ちを出せないというのは、今の時代ものすごく大変なことだと思う。言葉で表せないくらい。だからこそ相談できるところが必要。ということで、支援お願い申し上げます。

- べつに悪いことじゃないから変な目で見られたくない。
- 困っていると思います。だから、ヤングケアラーの子に、寄り添ってあげたいです。
- 障害を持っている親などの事を世話することは大変だから誰かに相談するのがいいと思います。
- もっとヤングケアラーについて知りたいです。
- 頑張っていて、家族のことを一番に考えていて、自分のしたいこともあるのに時間もなにも、費やして、もっと自分の時間をつくって欲しい。無理でも少しでも自分との時間をつくって欲しい、ちゃんと休んでほしい、自分一人で考えて、周りをたよってほしい。
- 大人が本来やることを子供がやるというのはとても大変だと思うし、辛いと思います。相談もできないとなると逃げ場がないと思います。これからヤングケアラーの子供たちが相談できたりする逃げ場を作ってほしいです。子供だけじゃ何ともならないことを、大人が助けるのだと思います。色々大変だと思います。少しでも多くのヤングケアラーの子を助けてください。
- ヤングケアラーの人を救いたいです。僕たちが出来ることなら絶対にやります。あとボランティアの活動もやればいいと思います。
- それぞれの家庭事情があると思うが大人の事情だけで子供の自由を奪うのはあまりよくないと思う。
- 辛くても、苦しくても、SOS が出せない人は世の中にたくさんいることが分かりました。もっと「ヤングケアラー」のことを知りたいです。
- 大変だなと思いました。自分の自由の時間が無くなるのは、私も嫌だから、相談するのが 1 番だと思います。でも、相談するのは、けっこう勇気があるから、ヤングケアラーの人同士が集まる何かを作ればいいと思います。
- ヤングケアラーという人たちがいることを初めて知ったので、もっといろんな人に知ってもらえたらいいなと思った。
- 初めはお手伝いの延長で、相手が喜んでくれたり、自分の事を必要としてくれるということが嬉しかったりして、自分でも、自分がヤングケアラーだということに気づけない人もいると思うので、どこまでがお手伝いで、どこからがヤングケアラーなのかということをしっかり考えなければいけないと思いました。
- 自分のやりたいことや行きたい場所が制限されて、でも放っておくことも出来ないから複雑な感じです。
- 今私が書いている中、この一秒一秒の間にヤングケアラーの方々が身内の障害者の世話をしていると思うと、とてもかわいそうに思います。でも、私がそんなことを言ってもヤングケアラーの方々が解放されるということは無いので、少しでも全世界の人々に「ヤングケアラー」という言葉、その内容を知ってもらいたいと思いました。
- ヤングケアラーは、SDG s などでもよく聞く「貧困」などと似ていると思いました。
- わたしは、ヤングケアラーではないのでヤングケアラーの皆さんの気持ちはわかりませんが、毎日誰かのお世話と学校生活の両立をするのはとても難しいことだと思います。なにか、サービス施設などの頼れるところをもっと作ってほしいです。
- 家族のことを大切にしていると思います。
- 親身になって寄り添うことが大事だと思う。
- ヤングケアラーの人は心細いから、そんな人の話は、必ず聞いてその人の心を、楽にしてみんなが幸せになるように声をかけたいです。
- 困っていることがあったら自由に友達や大人に言ってほしいです。自分にできることだったら協力してあげたいです。
- ヤングケアラーの人はいつも辛くて色々なことを我慢していると思う。だからヤングケアラーの人が助けを求めることのできるものをつくってほしいと思う。
- あまり内容を知らなかったけど、渡された紙を見て障害や病気のある家族の代わりに家事をしていたり、家計を支えるために労働をしていたりする 18 歳未満の子供たちということが分かりました。もし自分のクラスにヤングケアラーの人がいたらしっかり話を、悩みを解決したいなと思いました。

- 授業などでできるだけ、ヤングケアラーのことをみんなで話し合いたい。ヤングケアラーはあまり自分の自由時間がなくて、とても大変でつらいと思うから、大人もヤングケアラーを気づかって、自由を確保してあげてほしい。ヤングケアラーのためにヤングケアラーを助ける施設などをつくってほしい。ヤングケアラーはできるだけへってほしい。私自身もヤングケアラーのためにできることを見つけて、実行したい。
- ヤングケアラーの人達を1人でも多く助けてください。
- 自分の好きなことができずにずっと世話をしているのはとても悲しいことだと思います。誰でも自分の時間を持つべきだから本人の願いで続けるにしても休みが必要だと思います。
- ヤングケアラーの人たちは自分のやりたいこと、頑張りたいことをできなくても家族の人たちなどのお世話をしている、自分の夢を追うことができないのは自分だったらとても悲しい。自分のやりたいことができないのは気の毒だと思う。
- 普通は大人がやるようなことを子供がするというのは自分にとって、とても大変だと思う。やりたいと思ったことができるのが当たり前だと思っていたけど、今普通に私たちができているのは当たり前ではないということが、とてもよく分かりました。

II 中学生

- 私はもしかしたらヤングケアラーかもしれません。しかし、ヤングケアラーでも私は助けてほしいとは思いません。今の家庭環境が壊れるのが怖いからです。このようにアンケートを実施して活動していただくのはありがたいことですが、必ずしも助けていなくても大丈夫です。
- 私はヤングケアラーの人が思っていたよりも多くて驚きました。相談できずにいる人もいると思うので、このことをよく考えていきたいです。
- 今までテレビなどで知っていたヤングケアラーは祖父母など高齢者の世話をしている人のイメージだったので、若い兄弟の世話や家族のための通訳もそれに当てはまることを知れてよかった。
- ヤングケアラーという言葉は、このアンケートを通して初めて知りました。自分の身の回りにはそういう人はいませんが、もしそのような人と出会ったとき、手助けをしたり、相談に乗ってあげたいです。
- 同年代の子でも悩んでいる子がいるという事実が心が痛くなった。私にできることは、そういう事実があるということを理解することだと思う。理解して、これから先に会える人でも悩んでいる子がいたら、話を聞いたりできる限りのことを助けてあげたいと改めて感じた。
- ヤングケアラーをいろんな人に知ってもらえるように頑張ってください。
- ヤングケアラーについてなんて考えたこともなかったので、そういう人達が居ることを知れてよかったです。
- ヤングケアラーってかわいそうだと思う。子供なのに障がい者とかの世話を小さいうちにするなんて凄く大変だと思うからです。
- このようなアンケートを実施していただきありがとうございます。
- もっと知りたいと思いました。
- ヤングケアラーの人達のために、同じような悩みを持つ人達で集まり、語り合える場所があればいいと思う。
- ヤングケアラーの人を助けたいです。
- 自分はヤングケアラーではないためわかりにくいですが、もし近くにそういう人がいたら、助けてあげたり、少しでも力になれることをしたいです。
- 学校に行きたくてもいけない子がかわいそうだと思う。

- 今回のアンケートで、「ヤングケアラー」について知ることができました。自分たち以上にその環境に苦しんだり、不満がたまっていたりしてより生きづらさを感じている人がいてびっくりしました。もっとこのような人たちの実態を知り、どのような援助ができるか考えたいと思いました。
- 私は最近ヤングケアラーについて知ったので、これからもっと知って自分ができることをしたいし、知る人が増えたらいいなと思いました。
- 子供なのに介護をしたり大変なことをしたりしている人がいることを知れてよかったと思いました。
- 自分の身の回りにはヤングケアラーはいません。もし病気で寝込んでいる家族に代わって家事や世話をしているという中学生や小学生、高校生が身の回りや友達にいればお話を聞いてあげられればなと思います。
- 様々な取り組みでヤングケアラーが減ることを願います。
- 自分の身の回りにそのようなことがないので詳しく知りたい。
- 私は本で知ったのですが実体験などが書かれてありほんとにつらい思いをしたのだと思いました。自分と同じくらいなのにと衝撃を受けました。私はヤングケアラーの人達にどのようなことができるか考えてみたいと改めて思いました。
- 学校の授業で『ヤングケアラー』について、知りました。小学生で『ヤングケアラー』をしているのは、本当に凄いいことだと思いました。
- 調査ばかりするより、今分かっているケアラーさんに対しての改善をしたらいい。何故、『ヤング』にこだわるのでしょうか。全世代ではいけないのか。
- わからない。
- このアンケートでは、自分自身の状況についてしっかり答えることができたと思うので良かったと思います。
- そもそも知らない人のほうが少ないと思う。
- 私はテレビのCMで初めてヤングケアラーという存在を知りました。ヤングケアラーの方はとても大変な思いをしていると知って、胸が苦しくなりました。このアンケートをきっかけにヤングケアラーについてもっと詳しく調べてみようと思いました。
- ヤングケアラーで生活に困っている人が一人でも救われたらと思います。そのせいで、進学や就職先などで自分がやりたいことを我慢してしまう人が少しでも報われることを願っています。
- 学校で配られたお便りに、自分と同じくらいの年の17人に1人がヤングケアラーというのを知って驚きました。イギリスなどでは、30年前からヤングケアラーという言葉は広がっていたと聞いたことがあるので、日本にも、ヤングケアラーという言葉が早く広がり、そのような環境の子供が少なくなっほしいです。
- アンケートをしてみて、より深くヤングケアラーについて考えることができました。小さいころから大変な思いをしている子供たちがいて大変だと思うし、親からの愛情の受け方も通常とは違うし、ほかの人よりも気を使ったりしてしまっていて、疲れているのではないかと思います。ヤングケアラーの人たちも心からの笑顔で暮らせるようになればいいなと思いました。
- 出来るだけヤングケアラーが減ってほしい。
- ヤングケアラーをされていて苦しんでいる人を助けてあげる。
- ヤングケアラーの人がいたら少しでも相談にのってあげたいと思いました。
- 貴重な機会をありがとうございました。他人事のようになってしまいましたが、実際の「ヤングケアラー」の人たちも、このアンケートを受けて、救われたと思います。
- 家庭の中で寂しさを感じている人がいると思う。
- このアンケートでもっとヤングケアラーの事を考えることができました。ありがとうございました。
- 調べてみてヤングケアラーを知った。自分はそうではなかったが世の中にはそういう人もいることが分かった。

Ⅲ 高校生

- 私自身家族内の喧嘩やにらみ合いは多く見てきました。でも、それ以上にヤングケアラーの子供たちは苦しんでいるはず
です。私たちが客観的に見ているだけではなく手を差し伸べなければなりません。周りの人たちが気づいてあげることでその
子の未来は変わってきます。一人でも多くのヤングケアラーが救われることを願います。
- 私はつい最近まで 90 代のひいおばあちゃんを家の中で見ていたり、ご飯を食べさせてあげたりしていました。私は、一緒
に住んでいなかったことや、家族の中に介護士がいたので、全然生活が困ったり、大変だなと感じたりすることがありません
でした。むしろ、1 番一緒に長いたので、私ができることならなんでもしようと思って何でもするようにしていました。しかし、
現代には私のように恵まれた環境ではなく、ヤングケアラーとして、生活に影響が出たり、苦しんでいたりする人も多くいるの
が事実です。そんな人を、支えてあげられるように、自分も出来ることがあれば、したいですし、助け合って生きていく社会が
当たり前であって欲しいです。全ての未来を担う若者に、もっと楽しく輝いた毎日が訪れる事を切に願っています。
- 私の周りにヤングケアラーがいるように見えないということは、ヤングケアラーは世間で気づきにくいということだと思うので、
気づいてもらえたらいいなと思いました。
- 若者に意見を聞いている場合ではないと思う。
- ヤングケアラーが社会的に問題になってきて若い世代への負担が大きくなってしまっていると知りました。ヤングケアラーの
存在はもっと知ってもらわなければいけないものだし、少しでも若い世代への負担を減らしていけないと思いました。
自分がこのような立場になったときは、周りの大人や団体に相談をして解決したいと思いました。
- 僕は今まで自分のことばかりで家族のことなんてあまり考えていなかったけど、ヤングケアラーの人たちは家族のことを自
分より優先して学校を休んだり、中には家事をして、そのうえ働いて家を支えたりしている人たちがいることを知って、尊敬し
ました。僕はその人達の気持ちはわからないから、言っていないかわからないけれど今忙しい分、いつか幸せになって欲しいで
す。
- 私はヤングケアラーについて知らなかったので、兄弟などにも教えてあげたいです。

Ⅳ 学校

- 現在、ヤングケアラーと思われる（疑われる）児童はおりません。ヤングケアラーについて全職員で確認し、共通理解を
深めた上で、日常的に行っている子どもの様子の観察、月 1 回行っているアンケート、定期的に行われる児童と担任との
面談（必要に応じて行うことも多々あります）を継続していきたいと思います。
- 昨今、「ヤングケアラー」についての議論が様々されていますが、その言葉だけが一人歩きしているように思えて、社会的
な問題として捉えることができていないのが私たちの現状です。一つの家庭ごとに、あるいは、同じ家庭の兄弟姉妹であっ
ても、児童ごとに実情は違っていると思います。家族の一員として仕事を分担したり、家族の世話をすることは悪いことで
はなく、むしろ協力して行っていくことが大事だとは思いますが、その範囲や限度についての考え方は、人それぞれなので、
学校が介入することはかなり慎重にしていかなければならないと考えます。今は、その準備段階ではないでしょうか。
- 家庭のデリケートな部分なので、学校で把握するのはなかなか難しい。家庭調査票などでは、家族構成は分かるが、
家族に障害がある人がいるかどうかまでは把握・調査できない。
- 現在のところ特にありません。
- 以前は民生児童委員から情報が入ったが、最近は民生委員も個人のお宅訪問ができかねる状態であると話す。学校
はますます多忙化していて、これ以上学級担任に負担をかけられない。専門職員や、学校の教員を増やしていただき
たい。

- 社会的にヤングケアラーについての関心が高まっていることはよいことと捉える。本校ではヤングケアラーについてはその実態把握の必要性があるかどうかも含めて、検討課題として取り上げたことはこれまでなかった。小学校では特に家庭での生活状況が学校での生活や学習に大きな影響を及ぼしている。ヤングケアラーだけでなく家庭生活の状況（貧困問題、家庭の教育力の問題等）包括的にサポートする体制が必要ではないかと感じている。
- 今後は、自校での職員研修内容にヤングケアラーに関する内容を取り入れていく必要があると感じました。また、児童の実態把握及び、早期発見に努めていくことも重要であると感じました。
- 小学生の子どもたちが、自分自身がヤングケアラーに該当するか判断することは、とても難しいと思います。（特にお手伝いとお世話の区別など）なので、周りの大人がしっかり見守っていく必要があると感じました。
- 保護者に対して、ヤングケアラーは、子どもの学ぶ機会、保護者の子どもに教育を受けさせる義務に反していることを啓発する事業を進めるのがよいと思います。
- 地区の民生委員の方々との連絡を密にして、情報を得るようにしたい。
- 問3では、学校で把握している限り、本校にはヤングケアラーに該当する児童はいないため、3を選択させていただきました。市では、ヤングケアラーはまだ少ないと思われるが、このように実態を調査し、対応を急いで行おうとくださっているのがありがたい。学校では、家庭への経済的な支援は難しいと思われるので、市や県、国でのよい対応に期待しているところです。
- どの基準からヤングケアラーと認定されるのか、あいまいな定義の中で、特定して指導を充実させていくことに難しさを感じる。
- プライバシーの観点から、サポートを受けたがらない児童、保護者もいる。
- 幼児期からお手伝いをして家族を支えている立派な子と考えている場合、当事者意識は希薄。
- ヤングケアラーといっても、その多様性は様々あり、介護者としての役割を自ら進んで行っている場合、負担ではなく、幸せとらえている面もあり、一元的にケアをなくせば幸福かという点は、議論の余地がある。
- 生徒の中には、自分ことで精一杯で「ケアラー」にもなれない環境・状況だったり、自分のことより不登校の妹が心配で何も手に付かない状況（父子家庭で放置気味）だったりするケースなどが実際にあります。学校という性質上、ヤングケアラーよりもニードケア「ヤング」（ケアを必要としている生徒：家庭環境のみならず、生徒指導上も含む）にまず目が向いてしまう傾向があることもご理解いただきながら、子どもたちを取り巻く様々な状況に対して、連携・協働して対応していきたいと思います。
- 発生時に、子どもに対してどこが？どのような？対応をしているのか、はっきりとした情報が入ってこない。そのため、学校ではそうした場合にどう対処していいのかわからない。
- 事後の対処は当然必要であるが、防止策としてどんなことがあるのか？特に、保護者への教育（家庭教育）をどこが、どのようにするのか、検討する必要がある。かつては、地域のコミュニティ（お節介なおばさん等）が果たしてきたと思うが、現在はそうしたコミュニティは社会の変化とともになくなっていると思われる。
- 実態の把握が難しい。
- 現在本校にはいないが、入学前にヤングケアラーに当てはまる状況の生徒がいる。現状では問題となっていない。しかしながら、実際のところ、学校がどの程度関与できるのか、生活が困窮したり学校生活に支障があったりしたときの責任の所在はどこのなのか、不明なことが多い。
- 本人が自らの家庭の状況について語ることに抵抗がある場合、学校がそれを把握することが難しい場合が多い。

第

5

調査結果のまとめ及び考察

第5 調査結果のまとめ及び考察

I 調査結果のまとめ

1 悩み等の相談相手の有無

本市では、友人関係や学校での悩み等を相談できる相手の有無について、「いない」と回答した子どもの割合が国の調査結果よりも高くなっている。一方で、「相談や話はしたくない」と回答した子どもの割合は全ての学校区分において、国の調査結果よりも低く、半分以下の割合になっている。【図表 47 参照】

このことから、本市においては、相談することに対して抵抗感を持っている子どもは少ないことが言える。

つまり、現在、本市では相談できる相手を見つけることができている子どもが多いことが問題点であり、その子どもたちが適切な相談相手を見つけることができれば、相談に対する抵抗は少ないことから、相談・解決に繋がる可能性が見出せると考えられる。

2 家族のお世話をしている子ども

本市において、お世話をしている家族がいると回答した子どもの割合は、小学生で 2.9%、中学生で 1.6%、高校生で 1.4%となっている。国の調査結果と比較すると、いずれにおいても低い割合となっている。【図表 52 参照】

しかし、一概に割合が低いとはいえ、現在、お世話をしている家族がいない回答した子どもの中に、今後ヤングケアラーになり得る潜在的なケースが含まれている可能性は否定できず、これらが顕在化してきた場合に迅速に対応できるよう、早急な相談・支援体制の構築が必要な状況に変わりはない。

3 お世話を共に行う者

全ての学校区分において、子どもたちが家族のお世話をする上で、そのお世話を共に行っている者のほとんどが同じ家族内の者であり、外部の「ヘルパーなどの福祉サービス事業者」と共に行っていると回答した子どもは一人もいなかった。【図表 70 参照】

その背景として、家族が利用できるサービスがあるにも関わらずそれを知らず、利用に繋がっていないケース、サービスを利用したくとも、生活困窮等が理由で利用できないケース等、様々な理由が考えられる。

利用できるサービスを知らない場合はそのサービスについて、生活困窮等のその他の原因がある場合はそれを解決するための制度について、それぞれ周知することが求められるが、いずれの場合においても、家庭の状況を把握した上で、案内をする必要があり、そのためには相談に繋がるのが大前提である。

市として、子ども自身やその家庭からヘルプの声を拾い上げ、相談に繋げることが求められる。

4 お世話に関する悩み等を相談すること

お世話に関する悩み等を相談する相手の有無について、国の調査結果と比較すると、本市においては、中学生及び高校生で、「いる」の割合が国より割合が高くなっている。一方で、小学生では、「いる」の割合が 42.9%と、国の 67.7%よりも低く、「いない」の割合が 57.1%と、国の 21.9%より高くなって

いる。【図表 111 参照】

また、お世話をしている子どもたちのうち、お世話に関する悩み等を相談していない子どもが一定数存在する。その子どもたちの相談していない理由として、小学生では半数以上、中学生及び高校生では、80%以上が「誰かに相談するほどの悩みではない」ことをあげている。国の調査結果においても、この理由をあげる子どもの割合が高くなっている。【図表 106～108 参照】

誰かに相談するほどの悩みではないと感じているということは、子どもたちの中に、お世話に関する悩みは「相談してもいい悩み」であるという認識が希薄であることが原因の一つと考えられる。学校生活や友人関係等に関することは学校へ相談するということと同じように、「お世話に関することはここに相談できる」という認識を持たせることが必要であると考えられる。

5 学校や大人に対して求める支援

子どもたちが学校や大人に対して求める支援について、「わからない」及び「特になし」の項目を除いた場合、本市においては、「学校の勉強や受験勉強のサポート」及び「進路や就職などの将来の相談」のニーズが高いことが分かった。【図表 112 参照】

これらの項目の割合が高い傾向は、お世話をしている家族の有無別で比較した場合も変わらず、同様に見られたことから、ヤングケアラーに限定することなく、全ての子どもを対象とし、そのニーズに応える支援策が求められていると言える。

6 ヤングケアラーへの該当性

ヤングケアラーへの該当性について、本市では、国の調査データがある中学生及び高校生において、ヤングケアラーへ「あてはまる」と回答した子どもの割合は、国よりいずれも低くなっている一方で、「あてはまらない」と回答した子どもの割合も同様に低くなっている。【図表 124 参照】

さらに、ヤングケアラーに該当するか「わからない」と回答した子どもの割合は、国より中学生、高校生いずれも高くなっており、さらにお世話をしている家族がいる子どものうち、「わからない」と回答した割合は、小学生で 55.2%、中学生で 72.7%、高校生で 55.6%となっており、半数以上を占めているのが現状である。【図表 132 参照】

以上の傾向より、本市では、子ども自身が自らの置かれている状況から、ヤングケアラーに該当するかどうか判断できておらず、今回、「わからない」と回答した子どもの中に潜在的なヤングケアラーがいる可能性があると推測できる。

今後、子ども自身が自分で置かれている状況がヤングケアラーに該当するかどうか判断できる視点やポイントの周知を行い、早いタイミングでヘルプを出せるように働きかけていく必要がある。

7 学校におけるヤングケアラーの実態把握の現状

市内の学校全体で、ヤングケアラーと思われる子どもの実態を把握している学校は、市内全 36 校のうち、4 校に留まっており、いずれも把握するための特定のツールはないが、できるだけヤングケアラーの視点を持って対応している。【図表 163・166 参照】

現在、国では「多機関・多職種連携によるヤングケアラーの支援マニュアル」を作成し、神戸市のよう自治体レベルでヤングケアラーの支援マニュアルを作成している事例もある。

今後、市としてヤングケアラーの支援に本格的に取り組むにあたって、支援される者・支援する者双方にとって、分かりやすい支援体制、方法の構築が求められる。

8 学校がヤングケアラーを支援するために必要と考えること

学校がヤングケアラーを支援するために必要と考えることとして、市内の学校の 80%以上が「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」及び「教職員がヤングケアラーについて知ること」をあげている。【図表 179 参照】

ヤングケアラーの認知度について、子どもたちにおいては、全ての学校区分で約 30%がヤングケアラーについて「聞いたこともあるし、内容も知っている」と回答しており、学校においては、市内 36校のうち、「十分図られている」が 6校 (16.7%)、「やや図られている」が 23校 (63.9%) となっている。【図表 114・161 参照】

この結果から、十分ではないものの、決して認知が進んでいないわけではないと思われるが、学校現場では、支援をしていくためには、支援を受ける子どもと支援する教職員の双方がヤングケアラーについて知ることが重要と考えている。

II 今後ヤングケアラーの支援を行うにあたって

1 支援者としてのスタンス

(1) 潜在的ヤングケアラーを顕在化する

先述のとおり、今回の調査において、本市では、お世話をしている家族がいると回答した子どもの割合は、小学生で 2.9%、中学生で 1.6%、高校生で 1.4%となり、いずれも国の調査結果よりも低くなった。【図表 52 参照】

しかし、ヤングケアラーへの該当性について、自分自身がヤングケアラーに該当するのか「わからない」と回答した子どもの割合が全ての学校区分で国の調査結果よりも高くなっており、お世話をしている家族がいる子どもの半数以上は、自分自身がヤングケアラーに該当するかわからない状況にあることが分かった。【図表 122・132 参照】

このことから、今回の調査で全てのヤングケアラーを把握できたと判断することは時期尚早であり、潜在的ヤングケアラーが一定数存在すると考える方が妥当である。

今後、子どもがいる世帯の相談等を受けるにあたっては、ヤングケアラーの視点を持つようにし、潜在的ヤングケアラーを発見していくことが必要である。

(2) 「相談が無い＝ヤングケアラーがいない」ではない

お世話に関する悩み等を相談した相手について、ほとんどの子どもたちが家族に相談しており、市役所やヘルパーなどの福祉サービス事業者、社会福祉協議会、近所の人等、外部に相談したことがある子どもは一人もいなかったことから、家族のお世話をしている子どもたちが外部に支援を求めることが少ないことを意味付けるような結果が得られた。【図表 99 参照】

この結果から、家族のお世話をしている子ども自身が、必要な手助けや行政サービスについて考え、自ら相談に行くことは非常にハードルが高く、市や支援機関がそれだけを支援開始のきっかけとして期待することは現実的ではなく、市も含めた外部機関が相談窓口を設置し、子どもたちから相談が来るのをただ待つだけの体制では不十分であると考えられる。

また、お世話に関する悩み等について相談していない子どもたちの多くが理由として、「誰かに相談するほどの悩みではないと感じている」ことをあげていることである。【図表 104 参照】

ここから、子どもたちの中に、「お世話に関する悩み等は相談する（できる）」という認識自体が乏しいことが推測でき、その認識が無ければ、相談自体が生じないこととなる。

さらに、本市でお世話をしている家族がいる子ども 60 人が学校や大人に対して求める支援について、半数以上の 33 人が「特になし」と回答していることである。【図表 131 参照】

この「特になし」という回答の背景が、純粋に支援を求めずとも平気であるということでの回答であれば良いが、支援を求めても良い、自分の負担を減らせる支援があるというような考えがなく、今回の回答をしたのであれば、この回答からお世話をしている家族がいる子どもたちに支援ニーズが無いと判断することには留意が必要である。

既存の支援の中に子どもの負担を軽減できる支援があったとしても、その支援の存在を知らなければ、支援に繋がるのが難しく、そもそも子どもがそうした情報に繋がること自体難しいのが実情である。

以上のような調査結果より、「子どもたちからの相談が無い」ことから「ヤングケアラーがいない」と結論付ける理論は飛躍していると思われる。

市を含めた支援機関においては、子どもたちからの相談が無いことからヤングケアラーがいないと結論付けるのではなく、「ヤングケアラーがいるかもしれない」という視点を持ち続けることが求められる。

(3) お世話を必要とする側だけでなく、お世話をする側の権利及び Well-being(ウェルビーイング)[※]にも目を向ける

既存の支援制度等は、どちらかと言えば「お世話を必要とする側」に重きが置かれた制度設計となっているものが多く、「お世話をする側」を中心とするものは少ないのが現状であるが、今後は、お世話をする側、特にヤングケアラーである子どもについては、その権利と Well-being を守ることが求められている。

子どもは、児童福祉法第 1 条、児童の権利に関する条約にて、等しくその権利が保証されることとなっており、本市でも、平成 26 年施行の大仙市子ども条例第 4 条にて、子どもは次のような権利を有することを尊重されなければならないと定めている。

大仙市子ども条例第 4 条

- (1) 子どもは、自分を取り巻く人々から温かく見守られ、健康に配慮されるとともに適切な支援を受けることができる。
- (2) 子どもは、差別、虐待、放置、体罰、いじめ、不当な干渉等の肉体的及び精神的な苦痛から守られる。
- (3) 子どもは、多様な体験の機会が与えられ、知識や経験を得ながら、自分らしく育つことができる。
- (4) 子どもは、自分が関わる事柄について、意見を述べること及び参加することができる。

ヤングケアラーである子どもは、このような本来守られるべき権利を侵害されている可能性を孕んでおり、市としても法令に基づいて、当然ヤングケアラーである子どもたちも含めた全ての子どもたちの権利を守り、Well-being の向上を図る責任がある。

また、このような子どもの権利を守っていくことは、SDGs（持続可能な開発目標）の 17 の目標のうち、「4.質の高い教育をみんなに」の達成にも寄与するものである。

※ Well-being …身体的、精神的、社会的にすべてが満たされた状態。多面的・持続的な幸福。

2 子どもたちの声を拾う方策

(1) 「相談しても良い」という意識の醸成

お世話に関する悩み等を相談していない理由として、多くの子どもたちの中に「誰かに相談するほどの悩みではないから」という認識があることが分かった。【図表 104 参照】

子どもたちの声を拾う第一段階として、「お世話に関する悩みは相談しても良い」という考えを子どもたちの意識の中に醸成することが必要である。この考え方が無ければ、声を発するという発想が生まれなため、大人がいくら子どもたちの声に耳を傾けようと努力をし、受け入れる体制を整えても、一方的なものになり、声を拾うことは難しいと思われる。

市としては、子どもたちがどこに相談すればいいのかを明確に示し、それを様々な媒体を活用して周知することが必要と思われる。

(2) 「子どもたちがヘルプの声をあげる力」及び「大人がその声に気づく感度」の向上

(1)のような意識が醸成されたことによって、子どもたちの中にヘルプの声を発するという考えが生じることが期待できるが、おそらくその効果は短期間で現れるものではなく、長期的なスパンで捉える必要がある。

効果が見えるまでの間も子どもたちに対しては、ヤングケアラーに関する正確な情報を提供しながら、声をあげる力の向上を図っていくことが求められる。

また、子どもたちの声が必ずしも大きくかつ直接的に大人に届くとは限らない。市や支援機関を含めた周りの大人には、子どもたちの小さな声や変化に敏感に気づく感度の向上が必要となってくる。

それらへ気づくのは、教職員やスクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）等の学校関係者、民生委員など、日常的に子どもたちと近い距離にいる者であることが多く、これらの者に対する期待は大きくなる。

このことから、子どもたちの小さな声や変化に敏感に気づく感度の向上は、市や支援機関が目指すことはもちろんだが、学校関係者や民生委員に働きかける意味合いは大きいと考えられる。

(3) 子どもたちが信頼できる相談相手を見つけ、良い相談経験をしてもらう

本市では、お世話に限らず、友人関係や学校での悩み等を相談できる相手の有無について、「いない」と回答した子どもの割合が国の調査結果よりも高くなっており、この点は問題視すべきである。

【図表 47 参照】

「いない」と回答した子どもたちの中には、これまで一度も相談したことがない子どもはもちろん、過去に相談相手がいたが、進学等の環境の変化により、現在はいないという子どももいると推測できる。

また、「相談や話をしたくない」と回答した子どもたちも同様に相談相手がいないことになるため、これらの割合も合わせると、本市全体で悩みを抱える子どもの約 25%、4 人に 1 人に相談相手がいないということになる。

悩みがあるのに相談できる相手がいないことが、子どもたちの孤独・孤立化を招くことも近年指摘されており、これを防ぐために子どもたちが継続的に利用でき、安心かつ信頼できる相談先を提供することが必要である。

その相談先について、ワンストップの窓口を設置することは分かりやすさという点では優れていると思われるが、子どもたち個々人が相談相手に求めるニーズは多様であるとも考えられるため、窓口

の在り方は、今後議論していく余地がある。

令和5年度より、本市で実施される重層的支援体制整備事業の中で、包括的相談支援事業という対象者の属性を問わない相談支援が開始する予定であり、本事業の対象者として、当然、ヤングケアラーとその家族も含まれてくる。

本事業におけるヤングケアラーへの関り方についても、適切に行えるようマニュアル等の整備が必要になってくることも想定される。

さらに、本市では悩みに関する「相談や話をしたくない」という子どもたちも一定程度存在する。その理由の中には、次のようなものがあった。【図表49参照】

- | | |
|----------------------|------------------------|
| ● 相談しても分かってくれないから。 | ● アドバイスばかりしてくるから。 |
| ● どうせ否定されるから。 | ● 話しても解決しないから。 |
| ● 言ったところで意味なんか無いから。 | ● 相談しても納得のいく答えが無かったから。 |
| ● 相談して馬鹿にされたことがあるから。 | ● 親に言われたから。 |
| ● 自分のせいにされるから。 | ● 相談しても助けてくれたことが無いから。 |

上記のような内容を「相談や話をしたくない」理由としてあげている子どもたちの背景には、過去の相談において、自分が期待するような結果が得られなかったり、相談したことによって不快な思いをしたりした経験があることが伺える。

国で令和3年に開催されたヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチームの会議内においても、専門家から「相談して助けてもらったよい経験がなければ、相談しようと思わない」という指摘がなされており、相談の初期段階での関わり方が、その後の継続的な相談に大きな影響を与えと言える。

市としても相談を受けるにあたって、初期段階での対応の仕方について必要に応じて適宜見直しを行う必要があると思われる。

(4) 相談のハードルを下げるための取組の充実

本市では、お世話に関する悩み等を相談した相手について、ほとんどの子どもたちが家族や友人に相談しており、市役所やヘルパーなどの福祉サービス事業者、社会福祉協議会、近所の人等、外部に相談したことがある子どもは一人もいないことから、市や外部機関等に相談するという認識自体が乏しく、子どもが一人で話をしに行く相談先として、これらはハードルが高いと推測できる。【図表99参照】

学校関係者や民生委員等の子どもたちにより近い存在が相談を受け、そこから市や支援機関に繋ぐという方法は、今後も連携しながら行うべきものと考えられるが、ここのハードルを下げなければ、行政や外部機関が子どもたちから直接相談を受けることは難しいため、市としても、繋がれた相談を待つだけではなく、自ら子どもたちに歩み寄る方法を考えていくことが求められる。

主なハードルとして、子どもたちが普段面識の無い大人に対し、声に出して悩みを相談するというハードルと子ども自らが窓口に向かうというハードルがあると考えられるが、これらハードルを下げる方法の一つとして、「SNSによる相談窓口の設置」があげられる。SNSによる相談は、県でケアラー向けの相談窓口として、『ケアラーサポート LINE 秋田』を令和4年7月に設置しているが、市としても住民により近い存在として設置に向けた検討をする意義は大きい。

第 6

資料

I 調査票

1 小学生

このアンケートに答えることについて

問 このアンケートに答えてくれますか。

1 答える 2 答えたくない ⇒ ここで終わりとなります。

I あなたについて

問1 性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 男 2 女 3 どちらにもあてはまらない 4 答えたくない

問2 住んでいるところを教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 おおまがり 大曲地域 2 かみおか 神岡地域 3 にしせんぼく 西仙北地域 4 なかせん 中仙地域
5 きょうわ 協和地域 6 なんがい 南外地域 7 せんぼく 仙北地域 8 おおた 太田地域
9 大仙市ではない

問3 学年を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1 小学4年生 2 小学5年生 3 小学6年生

問4 いっしょに住んでいる家族について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

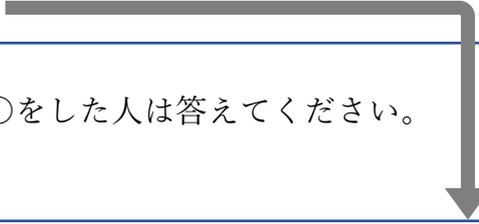
1 お父さん 2 お母さん 3 おばあさん 4 おじいさん
5 お兄さん・お姉さん ⇒ (人) 6 弟・妹 ⇒ (人)
7 その他(くわしく:)

問5 あなたの体の具合はどうですか。(あてはまる番号1つに○)

1 よい 2 まあまあよい 3 ふつう 4 あまりよくない 5 わるい

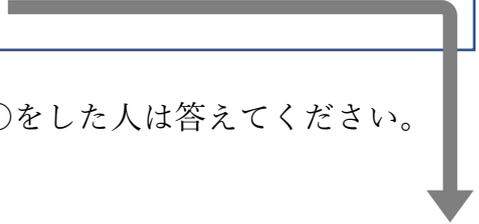
Ⅱ ふだん 普段の生活について

問6 学校を休んでしまうことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|-------------------|---|----|---|
| 1 ほとんど休まない | ⇒ | 問8 | へ |
| 2 たまに休む(1か月に1、2回) | ⇒ | 問8 | へ |
| 3 よく休む(1週間に1回以上) | ⇒ | 問7 | へ |
- 

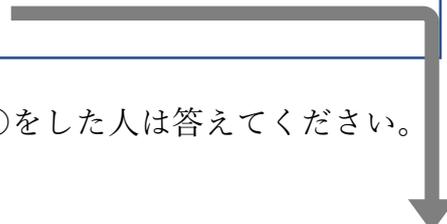
問7 問6で「3 よく休む(1週間に1回以上)」に○をした人は答えてください。
よく休んでしまうのはどうしてですか。

問8 学校にちこくしてしまうことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|----------------------|---|-----|---|
| 1 ほとんどちこくしない | ⇒ | 問10 | へ |
| 2 たまにちこくする(1か月に1、2回) | ⇒ | 問10 | へ |
| 3 よくちこくする(1週間に1回以上) | ⇒ | 問9 | へ |
- 

問9 問8で「3 よくちこくする(1週間に1回以上)」に○をした人は答えてください。
よくちこくしてしまうのはどうしてですか。

問10 学校を早たいしてしまうことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|----------------------|---|-----|---|
| 1 ほとんど早たいしない | ⇒ | 問12 | へ |
| 2 たまに早たいする(1か月に1、2回) | ⇒ | 問12 | へ |
| 3 よく早たいする(1週間に1回以上) | ⇒ | 問11 | へ |
- 

問11 問10で「3 よく早たいする(1週間に1回以上)」に○をした人は答えてください。
よく早たいしてしまうのはどうしてですか。

問22 問20で「2 ない」に○をした人は答えてください。

① 話していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 だれかに話をするほどのなやみではないと感じているから
- 2 家族以外の人に話すようななやみではないと感じているから
- 3 だれに話せばいいのかわからないから
- 4 話せる人が身近にいないから
- 5 家族のことなので話しにくいから
- 6 家族のことをほかの人に知られたくないから
- 7 家族のことを周りの人から変な目で見られたくないから
- 8 話しても意味がないと感じているから
- 9 その他(くわしく：)

② お世話をしている家族のことやこまっていることを聞いてくれる人はいますか。

- 1 いる
- 2 いない

問23 学校や周りの大人に助けてほしいことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 自分の生活や体の具合について話を聞いてほしい
- 2 自分がしているお世話について話を聞いてほしい
- 3 家族の病気やしょうがいのことなどについて分かりやすく説明してほしい
- 4 自分がしているお世話の全部を代わってくれる人やサービスがほしい
- 5 自分がしているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい

① どのお世話を代わってほしいですか。

(くわしく：)

② どんな時に代わってほしいと感じますか。

(くわしく：)

- 6 学校の宿題や勉強を教えてほしい
- 7 その他(くわしく：)
- 8 わからない
- 9 特になし

スクールソーシャルワーカー：自分だけではどうすることもできないこまりごとを助けてくれる人

スクールカウンセラー：心のなやみを聞いてくれる人

ヘルパー：しょうがいのある人やお年寄りのいる家に行って、身の回りのお世話を
する人

【1人目】について

① お世話をしている人はだれですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 お父さん 2 お母さん 3 おばあさん 4 おじいさん
5 お兄さん・お姉さん 6 弟・妹 7 その他(くわしく:)

② その人の様子について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 お年寄りである(65歳以上) 2 幼い(小さい) 3 かいごが必要である
4 体にしょうがいがある 5 日本語が苦手である 6 心に病気がある
7 お酒やパチンコなどがやめられない病気
8 6、7以外の病気である(病名:)
9 その他(くわしく:)

③ その人にあなたがしているお世話を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 ご飯の準備やそうじ、洗たくなど 2 おふろやトイレのお世話など
3 きょうだいの世話やほいく園への送りむかえなど 4 買い物や散歩などの付きそい
5 病院の付きそい 6 話し相手になる 7 見守り 8 日本語や手話などの通訳
9 お金の使い方を決めること 10 薬を決められた通りに使うようにすること
11 その他(くわしく:)

④ その人のお世話はだれとしていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 お父さん 2 お母さん 3 おばあさん 4 おじいさん 5 お兄さん・お姉さん
6 弟・妹 7 しんせきの人 8 ヘルパーさんなど
9 その他(くわしく:) 10 自分だけ

⑤ その人のお世話をあなたはいつからしていますか。

() 歳ころから

はっきりと分からない場合は、だいたいでかまいません。

⑥ その人のお世話はどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 ほぼ毎日(週に5日以上) 2 週に3~4日 3 週に1~2日 4 2週間に1~2日
5 1か月に数日 6 その他(くわしく:)

⑦ その人のお世話を平日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によってちがう場合は、この1か月くらいで一番長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間くらい 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

⑧ その人のお世話を休日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によってちがう場合は、この1か月くらいで一番長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間くらい 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

【2人目】について

① お世話をしている人はだれですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 お父さん 2 お母さん 3 おばあさん 4 おじいさん
5 お兄さん・お姉さん 6 弟・妹 7 その他(くわしく:)

② その人の様子について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 お年寄りである(65歳以上) 2 幼い(小さい) 3 かいごが必要である
4 体にしょうがいがある 5 日本語が苦手である 6 心に病気がある
7 お酒やパチンコなどがやめられない病気
8 6、7以外の病気である(病名:)
9 その他(くわしく:)

③ その人にあなたがしているお世話を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 ご飯の準備やそうじ、洗たくなど 2 おふろやトイレのお世話など
3 きょうだいの世話やほいく園への送りむかえなど 4 買い物や散歩などの付きそい
5 病院の付きそい 6 話し相手になる 7 見守り 8 日本語や手話などの通訳
9 お金の使い方を決めること 10 薬を決められた通りに使うようにすること
11 その他(くわしく:)

④ その人のお世話はだれとしていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 お父さん 2 お母さん 3 おばあさん 4 おじいさん 5 お兄さん・お姉さん
6 弟・妹 7 しんせきの人 8 ヘルパーさんなど
9 その他(くわしく:) 10 自分だけ

⑤ その人のお世話をあなたはいつからしていますか。

() 歳ころから

はっきりと分からない場合は、だいたいでかまいません。

⑥ その人のお世話はどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 ほぼ毎日(週に5日以上) 2 週に3~4日 3 週に1~2日 4 2週間に1~2日
5 1か月に数日 6 その他(くわしく:)

⑦ その人のお世話を平日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によってちがう場合は、この1か月くらいで一番長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間くらい 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

⑧ その人のお世話を休日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によってちがう場合は、この1か月くらいで一番長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間くらい 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

【3人目】について

① お世話をしている人はだれですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 お父さん 2 お母さん 3 おばあさん 4 おじいさん
5 お兄さん・お姉さん 6 弟・妹 7 その他(くわしく:)

② その人の様子について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 お年寄りである(65歳以上) 2 幼い(小さい) 3 かいごが必要である
4 体にしょうがいがある 5 日本語が苦手である 6 心に病気がある
7 お酒やパチンコなどがやめられない病気
8 6、7以外の病気である(病名:)
9 その他(くわしく:)

③ その人にあなたがしているお世話を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 ご飯の準備やそうじ、洗たくなど 2 おふろやトイレのお世話など
3 きょうだいの世話やほいく園への送りむかえなど 4 買い物や散歩などの付きそい
5 病院の付きそい 6 話し相手になる 7 見守り 8 日本語や手話などの通訳
9 お金の使い方を決めること 10 薬を決められた通りに使うようにすること
11 その他(くわしく:)

④ その人のお世話はだれとしていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 お父さん 2 お母さん 3 おばあさん 4 おじいさん 5 お兄さん・お姉さん
6 弟・妹 7 しんせきの人 8 ヘルパーさんなど
9 その他(くわしく:) 10 自分だけ

⑤ その人のお世話をあなたはいつからしていますか。

() 歳ころから

はっきりと分からない場合は、だいたいでかまいません。

⑥ その人のお世話はどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 ほぼ毎日(週に5日以上) 2 週に3~4日 3 週に1~2日 4 2週間に1~2日
5 1か月に数日 6 その他(くわしく:)

⑦ その人のお世話を平日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によってちがう場合は、この1か月くらいで一番長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間くらい 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

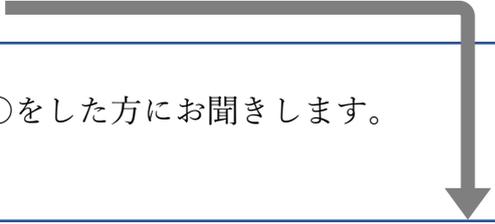
⑧ その人のお世話を休日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によってちがう場合は、この1か月くらいで一番長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間くらい 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

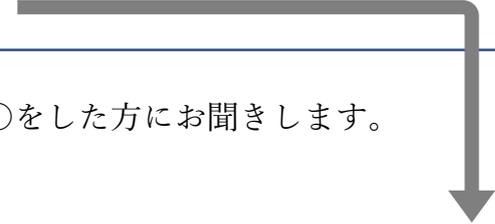
Ⅱ 普段の生活について

問6 学校の出席状況について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | |
|---|-------------------|---|----|---|
| 1 | ほとんど欠席しない | ⇒ | 問8 | へ |
| 2 | たまに欠席する(1か月に1、2回) | ⇒ | 問8 | へ |
| 3 | よく欠席する(1週間に1回以上) | ⇒ | 問7 | へ |
- 

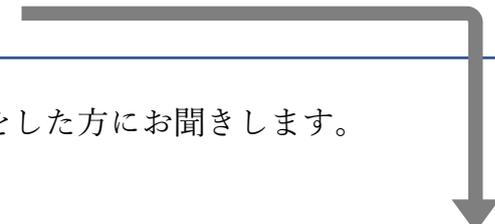
問7 問6で「3 よく欠席する(1週間に1回以上)」に○をした方にお聞きします。
よく欠席をしてしまう理由はなんですか。

問8 学校の遅刻状況について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | |
|---|-------------------|---|-----|---|
| 1 | ほとんど遅刻しない | ⇒ | 問10 | へ |
| 2 | たまに遅刻する(1か月に1、2回) | ⇒ | 問10 | へ |
| 3 | よく遅刻する(1週間に1回以上) | ⇒ | 問9 | へ |
- 

問9 問8で「3 よく遅刻する(1週間に1回以上)」に○をした方にお聞きします。
よく遅刻をしてしまう理由はなんですか。

問10 学校の早退状況について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | |
|---|-------------------|---|-----|---|
| 1 | ほとんど早退しない | ⇒ | 問12 | へ |
| 2 | たまに早退する(1か月に1、2回) | ⇒ | 問12 | へ |
| 3 | よく早退する(1週間に1回以上) | ⇒ | 問11 | へ |
- 

問11 問10で「3 よく早退する(1週間に1回以上)」に○をした方にお聞きします。
よく早退をしてしまう理由はなんですか。

Ⅳ ヤングケアラーについて

問 24 ヤングケアラーという言葉を知っていますか。

- | | | | |
|------------------------|---|------|---|
| 1 聞いたこともあるし、内容も知っている | ⇒ | 問 25 | へ |
| 2 聞いたことがあるが、内容はよく分からない | ⇒ | 問 25 | へ |
| 3 聞いたことがない | ⇒ | 問 26 | へ |

問 25 問 24 で「1 聞いたこともあるし、内容も知っている」または「2 聞いたことがあるが、内容はよく分からない」に○をした方にお聞きします。

ヤングケアラーという言葉を知った場所を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|--------------|----------------|----------------|
| 1 テレビやラジオ | 2 新聞や本 | 3 SNS やインターネット |
| 4 広報やチラシ、掲示物 | 5 イベントや交流会 | 6 学校 |
| 7 友人・知人の話 | 8 その他 (具体的に：) | |

問 26 あなた自身はヤングケアラーに当てはまると感じますか。

- | | | |
|---------|-----------|---------|
| 1 あてはまる | 2 あてはまらない | 3 わからない |
|---------|-----------|---------|

問 27 多くの人にヤングケアラーを知ってもらうためには、どのようにお知らせしたら良いと思いますか。

問 28 自由記述欄

(お願い) 問 17 でお世話をしている人が 1 人でもいると答えた方は、次のページへ進んで、お世話している人全員についてそれぞれ教えてください。

【1人目】について

① お世話をしている人は誰ですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 父親 2 母親 3 祖母 4 祖父 5 兄・姉 6 弟・妹
7 その他(具体的に: _____)

② その方の状況について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 高齢である(65歳以上) 2 幼い 3 要介護(介護が必要な)状態である
4 認知症である 5 身体障がい者である 6 知的障がい者である
7 日本語が苦手である 8 心に病気(疑いを含む)がある
9 依存症(アルコール、ギャンブルなど)(疑いを含む)である
10 8、9以外の病気である(病名: _____)
11 その他(具体的に: _____)

③ その方に対してあなたがしているお世話を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 食事の準備や掃除、洗濯などの家事 2 入浴やトイレのお世話などの身体的な介護
3 きょうだいの世話や保育所等への送迎など 4 買い物や散歩などの外出の付き添い
5 通院の付き添い 6 話し相手になるなどの感情面のサポート
7 目を離せない家族の見守り 8 日本語や手話などの通訳 9 金銭管理
10 薬の管理 11 その他(具体的に: _____)

④ その方のお世話は誰としていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 父親 2 母親 3 祖母 4 祖父 5 兄・姉 6 弟・妹
7 親戚の人 8 ヘルパーなどの福祉サービス事業者
9 その他(具体的に: _____) 10 自分のみ

⑤ その方のお世話をあなたはいつからしていますか。

はっきりと分からない場合は、だいたいにかまいません。

(_____) 歳頃から

⑥ その方のお世話をしている頻度はどれくらいですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 ほぼ毎日(週に5日以上) 2 週に3~4日 3 週に1~2日 4 2週間に1~2日
5 1か月に数日 6 その他(具体的に: _____)

⑦ その方のお世話を平日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によって異なる場合は、この1か月くらいで最も長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間未満 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

⑧ その方のお世話を休日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によって異なる場合は、この1か月くらいで最も長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間未満 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

【2人目】について

① お世話をしている人は誰ですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 父親 2 母親 3 祖母 4 祖父 5 兄・姉 6 弟・妹
7 その他(具体的に: _____)

② その方の状況について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 高齢である(65歳以上) 2 幼い 3 要介護(介護が必要な)状態である
4 認知症である 5 身体障がい者である 6 知的障がい者である
7 日本語が苦手である 8 心に病気(疑いを含む)がある
9 依存症(アルコール、ギャンブルなど)(疑いを含む)である
10 8、9以外の病気である(病名: _____)
11 その他(具体的に: _____)

③ その方に対してあなたがしているお世話を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 食事の準備や掃除、洗濯などの家事 2 入浴やトイレのお世話などの身体的な介護
3 きょうだいの世話や保育所等への送迎など 4 買い物や散歩などの外出の付き添い
5 通院の付き添い 6 話し相手になるなどの感情面のサポート
7 目を離せない家族の見守り 8 日本語や手話などの通訳 9 金銭管理
10 薬の管理 11 その他(具体的に: _____)

④ その方のお世話は誰としていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 父親 2 母親 3 祖母 4 祖父 5 兄・姉 6 弟・妹
7 親戚の人 8 ヘルパーなどの福祉サービス事業者
9 その他(具体的に: _____) 10 自分のみ

⑤ その方のお世話をあなたはいつからしていますか。

はっきりと分からない場合は、だいたいにかまいません。

(_____) 歳頃から

⑥ その方のお世話をしている頻度はどれくらいですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 ほぼ毎日(週に5日以上) 2 週に3~4日 3 週に1~2日 4 2週間に1~2日
5 1か月に数日 6 その他(具体的に: _____)

⑦ その方のお世話を平日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によって異なる場合は、この1か月くらいで最も長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間未満 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

⑧ その方のお世話を休日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によって異なる場合は、この1か月くらいで最も長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間未満 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

【3人目】について

① お世話をしている人は誰ですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 父親 2 母親 3 祖母 4 祖父 5 兄・姉 6 弟・妹
7 その他(具体的に: _____)

② その方の状況について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 高齢である(65歳以上) 2 幼い 3 要介護(介護が必要な)状態である
4 認知症である 5 身体障がい者である 6 知的障がい者である
7 日本語が苦手である 8 心に病気(疑いを含む)がある
9 依存症(アルコール、ギャンブルなど)(疑いを含む)である
10 8、9以外の病気である(病名: _____)
11 その他(具体的に: _____)

③ その方に対してあなたがしているお世話を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 食事の準備や掃除、洗濯などの家事 2 入浴やトイレのお世話などの身体的な介護
3 きょうだいの世話や保育所等への送迎など 4 買い物や散歩などの外出の付き添い
5 通院の付き添い 6 話し相手になるなどの感情面のサポート
7 目を離せない家族の見守り 8 日本語や手話などの通訳 9 金銭管理
10 薬の管理 11 その他(具体的に: _____)

④ その方のお世話は誰としていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 父親 2 母親 3 祖母 4 祖父 5 兄・姉 6 弟・妹
7 親戚の人 8 ヘルパーなどの福祉サービス事業者
9 その他(具体的に: _____) 10 自分のみ

⑤ その方のお世話をあなたはいつからしていますか。

はっきりと分からない場合は、だいたいにかまいません。

(_____) 歳頃から

⑥ その方のお世話をしている頻度はどれくらいですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 ほぼ毎日(週に5日以上) 2 週に3~4日 3 週に1~2日 4 2週間に1~2日
5 1か月に数日 6 その他(具体的に: _____)

⑦ その方のお世話を平日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によって異なる場合は、この1か月くらいで最も長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間未満 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

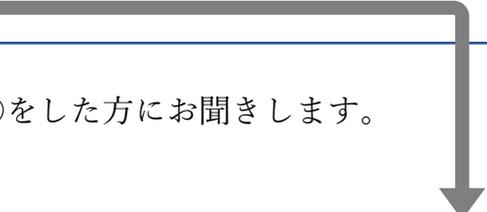
⑧ その方のお世話を休日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によって異なる場合は、この1か月くらいで最も長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間未満 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

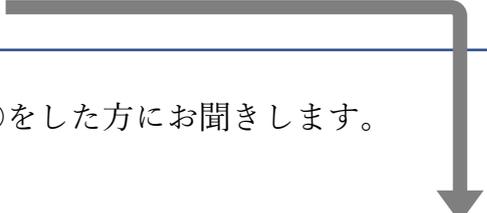
Ⅱ 普段の生活について

問6 学校の出席状況について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | |
|---|-------------------|---|----|---|
| 1 | ほとんど欠席しない | ⇒ | 問8 | へ |
| 2 | たまに欠席する(1か月に1、2回) | ⇒ | 問8 | へ |
| 3 | よく欠席する(1週間に1回以上) | ⇒ | 問7 | へ |
- 

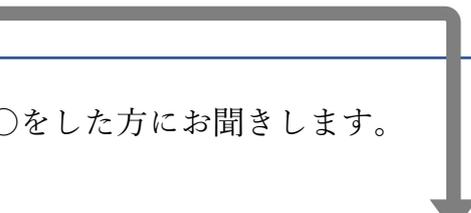
問7 問6で「3 よく欠席する(1週間に1回以上)」に○をした方にお聞きします。
よく欠席をしてしまう理由はなんですか。

問8 学校の遅刻状況について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | |
|---|-------------------|---|-----|---|
| 1 | ほとんど遅刻しない | ⇒ | 問10 | へ |
| 2 | たまに遅刻する(1か月に1、2回) | ⇒ | 問10 | へ |
| 3 | よく遅刻する(1週間に1回以上) | ⇒ | 問9 | へ |
- 

問9 問8で「3 よく遅刻する(1週間に1回以上)」に○をした方にお聞きします。
よく遅刻をしてしまう理由はなんですか。

問10 学校の早退状況について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | | | |
|---|-------------------|---|-----|---|
| 1 | ほとんど早退しない | ⇒ | 問12 | へ |
| 2 | たまに早退する(1か月に1、2回) | ⇒ | 問12 | へ |
| 3 | よく早退する(1週間に1回以上) | ⇒ | 問11 | へ |
- 

問11 問10で「3 よく早退する(1週間に1回以上)」に○をした方にお聞きします。
よく早退をしてしまう理由はなんですか。

問 12 部活動（学校外での活動を含む）に参加していますか。

- 1 参加している 2 参加していない

問 13 普段の学校生活において、次の中であてはまるものはありますか。

（あてはまる番号すべてに○）

- 1 授業中に居眠りをしてしまうことが多い
- 2 宿題を期限までに終わられないことが多い
- 3 忘れ物をしてしまうことが多い
- 4 部活動や習い事を休むことが多い
- 5 提出しなければならない書類などの提出が遅れてしまうことが多い
- 6 修学旅行などの宿泊行事を欠席してしまう
- 7 保健室などの別室で過ごすことが多い
- 8 学校では一人で過ごすことが多い
- 9 友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない
- 10 特になし

問 14 現在、悩んだり困ったりしていることはありますか。（あてはまる番号すべてに○）

- | | |
|---------------------------------|----------------|
| 1 友人関係のこと | 2 学校の成績のこと |
| 3 進学や就職などの進路のこと | 4 部活動のこと |
| 5 学費など学校生活に必要なお金のこと | 6 塾や習い事ができないこと |
| 7 家庭の経済的な状況のこと | 8 自分と家族の関係のこと |
| 9 家族内の人間関係のこと（例：両親の仲が良くないこと など） | |
| 10 家族の病気や障がいのこと | 11 自分自身の体調のこと |
| 12 自分のために使える時間が少ないこと | |
| 13 その他（具体的に： _____） | |
| 14 特になし | |

問 15 問 14 で「1 友人関係のこと」から「13 その他」のいずれかに○をした方にお聞きします。悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれたりする人はいますか。（あてはまる番号1つに○）

- 1 いる（誰か： _____）
- 2 いない
- 3 相談や話はしたくない（その理由： _____）

問 22 問 20 で「2 ない」に○をした方にお聞きします。

① 相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 誰かに相談するほどの悩みではないと感じているから
- 2 家族以外の人に相談するような悩みではないと感じているから
- 3 誰に相談すればいいのか分からないから
- 4 相談できる人が身近にいないから
- 5 家族のことであるため話しにくいと感じているから
- 6 家族のことをほかの人に知られたくないから
- 7 家族に対して偏見を持たれたくないから
- 8 相談しても意味がないと感じているから
- 9 その他(具体的に:)

② お世話を必要としている家族のことや悩みを聞いてくれる人はいますか。

- 1 いる
- 2 いない

問 23 学校や周りの大人に助けてほしいことや必要としている支援はありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

- 1 自分の今の状況について話を聞いてほしい
- 2 今しているお世話について相談に乗ってほしい
- 3 家族の病気や障がい、ケアのことなどについて分かりやすく説明してほしい
- 4 自分が行っているお世話の全てを代わってくれる人やサービスがほしい
- 5 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい
- ① どのお世話を代わってほしいですか。
(具体的に:)
- ② どんな時に代わってほしいですか。
(具体的に:)
- 6 進路や就職など将来の相談に乗ってほしい
- 7 学校の勉強や受験勉強などのサポートをしてほしい
- 8 家庭への経済的な支援がしてほしい
- 9 その他(具体的に:)
- 10 わからない
- 11 特になし

スクールソーシャルワーカー: 家庭と福祉等の関係機関等との橋渡しをして、自分だけでは解決できない悩みの解決に向けて支援する専門家

スクールカウンセラー: 心理に関する専門家

ヘルパー: 障がい者やお年寄りのいる家を訪問して、身の回りのお世話をする人

Ⅳ ヤングケアラーについて

問 24 ヤングケアラーという言葉を知っていますか。

- | | | | |
|------------------------|---|------|---|
| 1 聞いたこともあるし、内容も知っている | ⇒ | 問 25 | へ |
| 2 聞いたことがあるが、内容はよく分からない | ⇒ | 問 25 | へ |
| 3 聞いたことがない | ⇒ | 問 26 | へ |

問 25 問 24 で「1 聞いたこともあるし、内容も知っている」または「2 聞いたことがあるが、内容はよく分からない」に○をした方にお聞きします。

ヤングケアラーという言葉を知った場所を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|--------------|----------------|----------------|
| 1 テレビやラジオ | 2 新聞や本 | 3 SNS やインターネット |
| 4 広報やチラシ、掲示物 | 5 イベントや交流会 | 6 学校 |
| 7 友人・知人の話 | 8 その他 (具体的に：) | |

問 26 あなた自身はヤングケアラーに当てはまると感じますか。

- | | | |
|---------|-----------|---------|
| 1 あてはまる | 2 あてはまらない | 3 わからない |
|---------|-----------|---------|

問 27 多くの人にヤングケアラーを知ってもらうためには、どのようにお知らせしたら良いと思いますか。

問 28 自由記述欄

(お願い) 問 17 でお世話をしている人が 1 人でもいると答えた方は、次のページへ進んで、お世話している人全員についてそれぞれ教えてください。

【1人目】について

① お世話をしている人は誰ですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 父親 2 母親 3 祖母 4 祖父 5 兄・姉 6 弟・妹
7 その他(具体的に: _____)

② その方の状況について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 高齢である(65歳以上) 2 若い 3 要介護(介護が必要な)状態である
4 認知症である 5 身体障がい者である 6 知的障がい者である
7 日本語が苦手である 8 精神疾患(疑いを含む)がある
9 依存症(アルコール、ギャンブルなど)(疑いを含む)である
10 8、9以外の病気である(病名: _____)
11 その他(具体的に: _____)

③ その方に対してあなたがしているお世話を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 食事の準備や掃除、洗濯などの家事 2 入浴やトイレのお世話などの身体的な介護
3 きょうだいの世話や保育所等への送迎など 4 買い物や散歩などの外出の付き添い
5 通院の付き添い 6 話し相手になるなどの感情面のサポート
7 目を離せない家族の見守り 8 日本語や手話などの通訳 9 金銭管理
10 薬の管理 11 生活費のためのアルバイト
12 その他(具体的に: _____)

④ その方のお世話は誰としていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 父親 2 母親 3 祖母 4 祖父 5 兄・姉 6 弟・妹
7 親戚の人 8 ヘルパーなどの福祉サービス事業者
9 その他(具体的に: _____) 10 自分のみ

⑤ その方のお世話をあなたはいつからしていますか。

はっきりと分からない場合は、だいたいにかまいません。

(_____) 歳頃から

⑥ その方のお世話をしている頻度はどれくらいですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 ほぼ毎日(週に5日以上) 2 週に3~4日 3 週に1~2日 4 2週間に1~2日
5 1か月に数日 6 その他(具体的に: _____)

⑦ その方のお世話を平日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によって異なる場合は、この1か月くらいで最も長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間未満 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

⑧ その方のお世話を休日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によって異なる場合は、この1か月くらいで最も長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間未満 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

【2人目】について

① お世話をしている人は誰ですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 父親 2 母親 3 祖母 4 祖父 5 兄・姉 6 弟・妹
7 その他(具体的に: _____)

② その方の状況について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 高齢である(65歳以上) 2 幼い 3 要介護(介護が必要な)状態である
4 認知症である 5 身体障がい者である 6 知的障がい者である
7 日本語が苦手である 8 精神疾患(疑いを含む)がある
9 依存症(アルコール、ギャンブルなど)(疑いを含む)である
10 8、9以外の病気である(病名: _____)
11 その他(具体的に: _____)

③ その方に対してあなたがしているお世話を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 食事の準備や掃除、洗濯などの家事 2 入浴やトイレのお世話などの身体的な介護
3 きょうだいの世話や保育所等への送迎など 4 買い物や散歩などの外出の付き添い
5 通院の付き添い 6 話し相手になるなどの感情面のサポート
7 目を離せない家族の見守り 8 日本語や手話などの通訳 9 金銭管理
10 薬の管理 11 生活費のためのアルバイト
12 その他(具体的に: _____)

④ その方のお世話は誰としていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 父親 2 母親 3 祖母 4 祖父 5 兄・姉 6 弟・妹
7 親戚の人 8 ヘルパーなどの福祉サービス事業者
9 その他(具体的に: _____) 10 自分のみ

⑤ その方のお世話をあなたはいつからしていますか。

はっきりと分からない場合は、だいたいでかまいません。

(_____) 歳頃から

⑥ その方のお世話をしている頻度はどれくらいですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 ほぼ毎日(週に5日以上) 2 週に3~4日 3 週に1~2日 4 2週間に1~2日
5 1か月に数日 6 その他(具体的に: _____)

⑦ その方のお世話を平日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によって異なる場合は、この1か月くらいで最も長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間未満 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

⑧ その方のお世話を休日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によって異なる場合は、この1か月くらいで最も長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間未満 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

【3人目】について

① お世話をしている人は誰ですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 父親 2 母親 3 祖母 4 祖父 5 兄・姉 6 弟・妹
7 その他(具体的に: _____)

② その方の状況について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 高齢である(65歳以上) 2 若い 3 要介護(介護が必要な)状態である
4 認知症である 5 身体障がい者である 6 知的障がい者である
7 日本語が苦手である 8 精神疾患(疑いを含む)がある
9 依存症(アルコール、ギャンブルなど)(疑いを含む)である
10 8、9以外の病気である(病名: _____)
11 その他(具体的に: _____)

③ その方に対してあなたがしているお世話を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 食事の準備や掃除、洗濯などの家事 2 入浴やトイレのお世話などの身体的な介護
3 きょうだいの世話や保育所等への送迎など 4 買い物や散歩などの外出の付き添い
5 通院の付き添い 6 話し相手になるなどの感情面のサポート
7 目を離せない家族の見守り 8 日本語や手話などの通訳 9 金銭管理
10 薬の管理 11 生活費のためのアルバイト
12 その他(具体的に: _____)

④ その方のお世話は誰としていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1 父親 2 母親 3 祖母 4 祖父 5 兄・姉 6 弟・妹
7 親戚の人 8 ヘルパーなどの福祉サービス事業者
9 その他(具体的に: _____) 10 自分のみ

⑤ その方のお世話をあなたはいつからしていますか。

はっきりと分からない場合は、だいたいでかまいません。

(_____) 歳頃から

⑥ その方のお世話をしている頻度はどれくらいですか。(あてはまる番号1つに○)

- 1 ほぼ毎日(週に5日以上) 2 週に3~4日 3 週に1~2日 4 2週間に1~2日
5 1か月に数日 6 その他(具体的に: _____)

⑦ その方のお世話を平日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によって異なる場合は、この1か月くらいで最も長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間未満 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

⑧ その方のお世話を休日1日あたりどれくらいしていますか。(あてはまる番号1つに○)

(日によって異なる場合は、この1か月くらいで最も長かった時間を教えてください。)

- 1 1時間未満 2 2~3時間 3 3~5時間 4 5時間以上

I 基本情報について

問1 学校名をお答えください。

II ヤングケアラーについて

問2 学校で「ヤングケアラー」についての共通認識が図られていますか。
(あてはまるもの1つを選択)

- 1 十分図られている
- 2 やや図られている
- 3 図られていない

問3 学校で「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。
(あてはまるもの1つを選択)

- | | | |
|------------------------------------|---|------------------------------|
| 1 把握している | ⇒ | <input type="checkbox"/> 問4へ |
| 2 ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない | ⇒ | <input type="checkbox"/> 問5へ |
| 3 把握していない | ⇒ | <input type="checkbox"/> 問8へ |

問4 問3で「1 把握している」を選択された場合はお答えください。
「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。
(あてはまるもの1つを選択)

- 1 アセスメントシートやチェックリストなどを活用している
- 2 特定のツールはないが、できるだけヤングケアラーの視点*を持って対応している
- 3 その他（具体的に： _____)

※ ここでは、「学校内にヤングケアラーが存在する可能性があること」、あるいは「ヤングケアラーの児童生徒の立場を考えること」とする。

問5 ヤングケアラーと思われる子どもについて、学校以外の外部（教育委員会、市役所、要保護児童対策地域協議会*など）の支援につないだ事例はありますか。

（事例の中で最も多いもの1つを選択）

- | | | |
|--|---|-----|
| 1 要保護児童対策地域協議会*に通告した事例がある | ⇒ | 問8へ |
| 2 要保護児童対策地域協議会*に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ事例がある | ⇒ | 問8へ |
| 3 学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない | ⇒ | 問6へ |
| 4 外部の支援につなぐことができていない | ⇒ | 問7へ |

※ 保護者のない児童又は保護者に監護させることが不相当であると認められる児童（以下、「要保護児童」という。）の適切な保護を図るため、関係機関等により構成され、要保護児童及びその保護者に関する情報の交換や支援内容の協議を行う会議

問6 問5で「3 学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない」を選択した場合はお答えください。具体的な対応方法について教えてください。

（例：校内の〇〇会議で検討し、その後保護者も交えて面談をした など）

問7 問5で「4 外部の支援につなぐことができていない」を選択した場合はお答えください。つなぐことができていない理由を教えてください。（あてはまるものすべてを選択）

- | | |
|--------------------------------------|---|
| 1 不登校やいじめなどに比べ緊急性が低い | |
| 2 家族内のことであるため表面化しづらく、詳細な実態の把握ができていない | |
| 3 ヤングケアラーである子ども自身やその家族が問題を認識していない | |
| 4 本人や家族が支援につなぐことを拒否している | |
| 5 その他（具体的に： | ） |

問8 ヤングケアラーなど悩みを抱える子どもの把握や支援にあたって、工夫していることはありますか。（あてはまるものすべてを選択）

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1 子どもの身なりや言動など、日常生活での目立った変化の確認 | |
| 2 子どもを対象としたアンケート調査などの実施 | |
| 3 定期的な子どもとの面談による悩みなどの有無の確認 | |
| 4 子どもや保護者がいつでも相談できる窓口の設置 | |
| 5 個別の支援計画等の作成と教職員間での情報共有 | |
| 6 子ども本人やその家族が利用できる外部の支援窓口についての情報提供 | |
| 7 悩みを抱える子どもへの対応などについての研修の実施・参加 | |
| 8 その他（具体的に： | ） |

問9 ヤングケアラーなど悩みを抱える子どもの把握や支援にあたって、難しいと感じることはありますか。(あてはまるものすべてを選択)

- 1 問題が表面化しにくく、詳細な把握が難しいこと
- 2 子どもからの聞き取りだけでは、十分に状況が把握できないこと
- 3 保護者への連絡や家庭訪問を行っても、コンタクトが取りづらいこと
- 4 家庭へ介入しづらいこと
- 5 子ども自身に困っている様子は見られるが、話したがないこと
- 6 子ども自身やその保護者に問題意識が乏しい、または無いこと
- 7 保護者から教育方針やしつけなどと言われてしまうこと
- 8 教職員が子どもとじっくり話をする時間が不足していること
- 9 その他(具体的に：)

問10 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまるものすべてを選択)

- 1 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
- 2 教職員がヤングケアラーについて知ること
- 3 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
- 4 スクールソーシャルワーカー(SSW)やスクールカウンセラー(SC)などの専門職の配置が充実すること
- 5 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
- 6 ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
- 7 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
- 8 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
- 9 ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること
- 10 福祉と教育の連携を進めること
- 11 その他(具体的に：)

問11 ヤングケアラーに関して自由に意見をお書きください。

5 高等学校

I 基本情報について

問1 学校名をお答えください。

II 学校における体制について

問2 スクールソーシャルワーカー（SSW）の派遣・配置状況についてお答えください。
（あてはまるもの1つを選択）

- 1 週に2～3回以上派遣・配置されている
 - 2 週に1回程度派遣・配置されている
 - 3 月に数回以下で派遣・配置されている
 - 4 要請に応じて派遣される
 - 5 その他（具体的に： _____）
 - 6 派遣・配置されていない

問3 スクールカウンセラー（SC）の派遣・配置状況についてお答えください。
（あてはまるもの1つを選択）

- 1 週に2～3回以上派遣・配置されている
 - 2 週に1回程度派遣・配置されている
 - 3 月に数回以下で派遣・配置されている
 - 4 要請に応じて派遣される
 - 5 その他（具体的に： _____）
 - 6 派遣・配置されていない

問4 次のような子どもについて校内で情報を共有している事例はありますか。
（あてはまるものすべてを選択）

- | | |
|---|------------------|
| 1 学校を休みがちである | 2 遅刻や早退が多い |
| 3 保健室等の別室で過ごしていることが多い | 4 精神的な不安定さがある |
| 5 身だしなみが整っていない | 6 学力が低下している |
| 7 宿題や持ち物を忘れることが多い | |
| 8 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い | |
| 9 学校に必要なものを用意してもらえない | 10 部活を途中でやめてしまった |
| 11 修学旅行や宿泊行事等を欠席する | 12 学校納金が遅れる、未払い |
| 13 その他（具体的に： _____） | |
| 14 共有している事例はない ⇒ 問9 へ | |

問5 問4で、「14 共有している事例はない」以外を選択された場合はお答えください。
 どのような体制で情報共有・対応の検討を行っていますか。最も多い事例であてはまるもの
 を選択してください。(あてはまるもの1つを選択)

- | | | | |
|---------------------------|---|----|---|
| 1 不登校の子どもの事例に関する校内の検討体制 | ⇒ | 問7 | へ |
| 2 不登校以外の子どもの事例に関する校内の検討体制 | ⇒ | 問7 | へ |
| 3 個別に対応している (決まった検討体制はない) | ⇒ | 問6 | へ |
- 

問6 問5で「3 個別に対応している (決まった検討体制はない)」を選択された場合はお答え
 ください。関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等について、具体的に教えてください。
 (※ 学校以外の関係機関と連携している場合は、問9で当該機関について回答く
 ださい。)

問7 問5で「1 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制」または「2 不登校以外
 の子どものケースに関する校内の検討体制」を選択された場合はお答えください。
 その体制における具体的な情報共有・対応の検討方法について教えてください。
 (あてはまるものすべてを選択)

- | | | | |
|---|---|----|---|
| 1 スクリーニング会議 ^{※1} | ⇒ | 問8 | へ |
| 2 ケース会議 | ⇒ | 問8 | へ |
| 3 生徒指導部・委員会など | ⇒ | 問8 | へ |
| 4 児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有 | | | |
| 5 教育相談コーディネーター ^{※2} など学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など児
童生徒の抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置・指名 | | | |
| 6 その他 (具体的に： _____) | ⇒ | 問8 | へ |

※1 すべての子どもを対象として、問題の未然防止のために、データに基づいて、潜在的
 に支援の必要な子どもや家庭を適切な支援につなぐための迅速な識別を行う会議

※2 学校における組織的な連携・支援体制を維持するため、学校内の児童生徒の状況や学
 校外の関係機関との役割分担、SC や SSW の役割を十分に理解し、初動段階でのアセス
 メントや関係者への情報伝達等を行う者

問8 問7で「1 スクリーニング会議」「2 ケース会議」「3 生徒指導部・委員会など」「6 その他」のいずれかを選択された場合はお答えください。

どの教職員が参加していますか。また、会議の開催頻度はどれくらいですか。下の選択肢からあてはまる番号を選び、それぞれの欄に記入してください。

	参加者 (複数回答可)	「10 その他」を選択された場合はその内容	頻度
1 スクリーニング会議			
2 ケース会議			
3 生徒指導部・委員会など			
6 その他			

【参加者の選択肢】

1 校長	2 教頭
3 学年主任	4 担任教諭
5 生徒指導担当	6 養護教諭
7 SSW	8 SC
9 民生委員	10 その他

【頻度の選択肢】

1 2週間に1回以上	2 月に1回程度
3 3か月に1回程度	4 半年に1回程度
5 年に1回程度	

問9 学校以外の関係機関と連携して、必要に応じて情報共有や対応の検討を行うための体制がありますか。連携体制がある場合は、連携する関係機関を下の選択肢からすべてお選びください。

体制の有無	関係機関 (複数回答可)	「11 その他」を選択された場合はその内容
1 ある		
2 ない		

1 市町村教育委員会	2 市町村の福祉部門	3 市町村の保健部門
4 市町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	5 適応指導教室	
6 フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	7 児童相談所	8 民生委員
9 病院	10 警察や刑事司法関係機関	11 その他

Ⅲ ヤングケアラーについて

問 10 学校で「ヤングケアラー」についての共通認識が図られていますか。
(あてはまるもの1つを選択)

- 1 十分図られている
- 2 やや図られている
- 3 図られていない

問 11 学校で「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握していますか。
(あてはまるもの1つを選択)

- 1 把握している ⇒ 問 12 へ
- 2 ヤングケアラーと思われる子どもはいるが、その実態は把握していない ⇒ 問 13 へ
- 3 把握していない ⇒ 問 16 へ

問 12 問 11 で「1 把握している」を選択された場合はお答えください。
「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握していますか。
(あてはまるもの1つを選択)

- 1 アセスメントシートやチェックリストなどを活用している
- 2 特定のツールはないが、できるだけヤングケアラーの視点*を持って対応している
- 3 その他(具体的に: _____)

※ ここでは、「学校内にヤングケアラーが存在する可能性があること」、あるいは「ヤングケアラーの児童生徒の立場を考えること」とする。

問 13 ヤングケアラーと思われる子どもについて、学校以外の外部(教育委員会、市役所、要保護児童対策地域協議会*など)の支援につないだ事例はありますか。
(事例の中で最も多いもの1つを選択)

- 1 要保護児童対策地域協議会*に通告した事例がある ⇒ 問 16 へ
- 2 要保護児童対策地域協議会*に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだ事例がある ⇒ 問 16 へ
- 3 学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない ⇒ 問 14 へ
- 4 外部の支援につなぐことができていない ⇒ 問 15 へ

※ 保護者のない児童又は保護者に監護させることが不相当であると認められる児童(以下、「要保護児童」という。)の適切な保護を図るため、関係機関等により構成され、要保護児童及びその保護者に関する情報の交換や支援内容の協議を行う会議

問 14 問 13 で「3 学校内で対応できているので外部の支援につないだことはない」を選択した場合はお答えください。具体的な対応方法について教えてください。

(例：校内の〇〇会議で検討し、その後保護者も交えて面談をした など)

問 15 問 13 で「4 外部の支援につなぐことができていない」を選択した場合はお答えください。つなぐことができていない理由を教えてください。

(あてはまるものすべてを選択)

- 1 不登校やいじめなどに比べ緊急性が低いため
 - 2 家族内のことであるため表面化しづらく、詳細な実態の把握ができていないため
 - 3 ヤングケアラーである子ども自身やその家族が問題を認識していないため
 - 4 本人や家族が支援につなぐことを拒否しているため
 - 5 その他 (具体的に： _____)

問 16 ヤングケアラーなど悩みを抱える子どもの把握や支援にあたって、工夫していることはありますか。(あてはまるものすべてを選択)

- 1 子どもの身なりや言動など、日常生活での目立った変化の確認
 - 2 子どもを対象としたアンケート調査などの実施
 - 3 定期的な子どもとの面談による悩みなどの有無の確認
 - 4 子どもや保護者がいつでも相談できる窓口の設置
 - 5 個別の支援計画等の作成と教職員間での情報共有
 - 6 子ども本人やその家族が利用できる外部の支援窓口についての情報提供
 - 7 悩みを抱える子どもへの対応などについての研修の実施・参加
 - 8 その他 (具体的に： _____)

問 17 ヤングケアラーなど悩みを抱える子どもの把握や支援にあたって、難しいと感じることはありますか。(あてはまるものすべてを選択)

- 1 問題が表面化しにくく、詳細な把握が難しいこと
- 2 子どもからの聞き取りだけでは、十分に状況が把握できないこと
- 3 保護者への連絡や家庭訪問を行っても、コンタクトが取りづらいこと
- 4 家庭へ介入しづらいこと
- 5 子ども自身に困っている様子は見られるが、話したがらないこと
- 6 子ども自身やその保護者に問題意識が乏しい、または無いこと
- 7 保護者から教育方針やしつけなどと言われてしまうこと
- 8 教職員が子どもとじっくり話をする時間が不足していること
- 9 その他(具体的に：)

問 18 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまるものすべてを選択)

- 1 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
- 2 教職員がヤングケアラーについて知ること
- 3 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
- 4 SSW や SC などの専門職の配置が充実すること
- 5 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
- 6 ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
- 7 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
- 8 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
- 9 ヤングケアラーを支援する NPO などの団体が増えること
- 10 福祉と教育の連携を進めること
- 11 その他(具体的に：)

問 19 ヤングケアラーに関して自由に意見をお書きください。

Ⅱ 保護者の方への依頼文

保護者の皆様へ

「学生の生活実態に関するアンケート調査」へのご協力をお願い

日頃より、本市の福祉行政に対して、御理解と御協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、昨今、本来大人が担うと想定されている家事や家族のお世話を日常的に行っている子ども、いわゆる「ヤングケアラー」について、子どもが年齢や成長の度合いに見合わない重い責任を負うことにより、子ども本人の成長や教育に影響を及ぼしかねないといったことが全国的な課題となっています。

こうした状況を受け、本市では、「ヤングケアラー」に対する理解の促進を図るとともに、そのような日常生活に悩みを抱えている子どもが相談しやすい体制を整え、支援を必要とされる子どもとその家庭に必要な支援策を検討するため、市内の学校に在学している小学4年生から高校3年生までの児童生徒の皆さんを対象に、アンケート調査を実施いたします。

つきましては、本アンケート調査の趣旨を御理解いただくとともに、お子様が本調査へ回答することについても、御理解くださいますようお願い申し上げます。

なお、本アンケート調査は無記名で行い、回答内容はすべて統計的に処理をいたしますので、お子様の回答が特定されたり、外部に知られたりすることはありません。

また、回答いただいた内容は厳重に保管し、本事業に関連する目的以外には決して使用いたしません。

なお、統計的に処理された調査結果は、報告書にまとめ、市ホームページ等で公表する予定です。

令和4年8月

大仙市長 老松 博行

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

〈本調査に関する問い合わせ〉

大仙市健康福祉部社会福祉課地域福祉班 電話 0187-63-1111 (内線 161)

第 **7**

参照資料

- 1 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社（令和3年3月）
『ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書』
「令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業費補助金」の採択案件の成果報告書の公表について（https://www.murc.jp/library/survey_research_report/koukai_210412/）
- 2 株式会社日本総合研究所（令和4年3月）
『ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書』
「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」
（<https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=102439>）
- 3 有限責任監査法人トーマツ（令和4年3月）
『多機関・多職種連携によるヤングケアラー支援マニュアル～ケアを担う子どもを地域で支えるために～』
「多機関連携によるヤングケアラーへの支援の在り方に関する調査研究」
（<https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/life-sciences-and-healthcare/articles/hc/hc-young-carer.html>）
- 4 厚生労働省
『ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム（第1～5回）会議議事録』
「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム」
（<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/young-carer-pt.html>）
- 5 安部 計彦（令和元年8月）
『ヤングケアラーと子どもの権利侵害 –ネグレクト調査の再分析から–』

令和 4 年度「ヤングケアラー実態調査」報告書

令和 5 年 3 月 31 日発行

〒014-8601 秋田県大仙市大曲花園町 1 番 1 号
TEL: 0187-63-1111 (代) FAX: 0187-63-8811
URL: <https://www.city.daisen.lg.jp/>

編集 大仙市健康福祉部社会福祉課